

# 世界の山旅 ① 初境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」  
それにお応えするのが  
実体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

憧れの山上ホテルに昼べ3泊し3大アルプスを巡る 数数少ない高原、連なる大絶壁、東部アルプス最大の氷河 3ヵ国をトレッキングで巡るツールド・モンブラン

**スイス・アルプス・ハイキング  
8日間**

大阪・名古屋・東京  
●7/8●7/15●8/19発……………¥466,000  
●7/22●7/29発……………¥478,000

**チロル、ドロミテ、オーストリア  
3つの最高峰展望と絶景の谷 9日間**

大阪・名古屋・東京  
●7/3発……………¥492,000  
●7/10●8/4発……………¥498,000  
●8/17発……………¥548,000

**モンブラン山群一周  
トレッキング 9日間**

大阪・名古屋・東京  
●7/15●8/26発……………¥466,000  
●7/29発……………¥498,000  
●8/19発……………¥480,000

名峰の頂上ホテルをベースに雲上の絶景をハイキング

**アルプス、パノラマの道と  
憧れのヒュッテ 11日間**

大阪・名古屋・東京  
●7/6●8/31発……………¥498,000  
●7/13発……………¥516,000  
●7/27発……………¥528,000

日帰りハイイクと登山ハイイクを楽しむ。やや陡削向き。

**ロッキー縦断  
ベスト・ハイキング 10日間**

大阪・東京  
●6/27発……………¥488,000  
●7/12発……………¥516,000  
●8/12発……………¥598,000

ロッキー麓の人気ロッジで思い出に輝く山頂を!

**アシニポイン・ロッジと  
レイクルイズ 8日間**

大阪・東京  
●7/1●7/10発……………¥480,000

アメリカンロッキー最高峰を含む4千m峰3座に自頂!

**ロッキー山脈4,000m峰3座自頂と  
3つの国立公園 9日間**

東京  
●7/7発……………¥540,000  
●7/21発……………¥590,000  
●8/18●9/1発……………¥598,000

南海に昇る最も手近な4,000m峰に登る

**マレーシア最高峰  
Mt.キナバル登頂 6日間**

大阪  
●6/30発……………¥174,000  
●7/21発……………¥226,000  
●8/25発……………¥224,000

アフリカ最高峰に挑む! KLMオランダ航空利用!

**【山麓乗り入れ】キリマンジャロ  
ゆったり登頂とサファリ 11日間**

大阪・東京  
●7/25発……………¥612,000  
●8/11●8/23発……………¥618,000  
●9/3●9/14●9/27発……………¥628,000

わずか3時間30分のフライトで秘境カムチャッカへ

**カムチャッカ半島2つの山群登頂  
ハイキング 9日間**

東京  
●7/14●7/22発……………¥388,000  
●7/30●8/7発……………¥388,000

シルクロードの秘境、天山山脈で花と氷河と雪山を満喫

**天山山脈核心部ヘリ・フライトと  
フラワーハイキング 10日間**

大阪・東京  
●7/18●8/1●8/15発……………¥412,000

高山植物の宝庫へ。好展望の4,000m峰にも登頂!

**九寨溝、黄龍と四姑娘山  
4,000m峰登頂ハイキング 9日間**

大阪  
●6/30発……………¥288,000  
●7/14●8/18発……………¥298,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

日本交通大空会旅行業務第490号/日本旅行業協会正会員 株式会社  
**アルパインツアーサービス株式会社**

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F  
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)  
(関)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)  
e-mail:osaka@alpine-tour.com

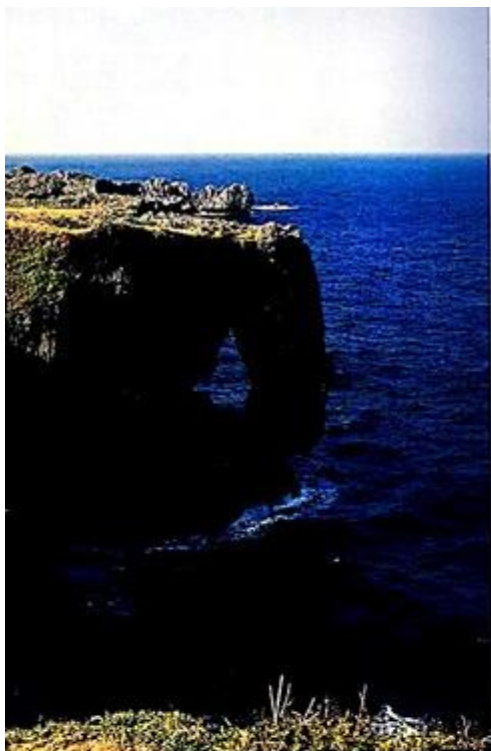
山仲間でおリリカルツアーを企画してみませんか?

山岳会、ハイキングクラブで企画  
ツアーリーダーも同行し、安心の山脈  
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ  
キングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩き  
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーカ  
らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ  
ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの 슬라이ド を上映します。

乗鞍岳のコマクサ(北アルプス) 高岡 富美子





象の鼻 (万座毛)

ワクワクしながらその時を待った  
淡いエメラルド色の海が変化する  
広い空の色が刻々と変わる  
雲と光の織り成す演出  
残波岬の灯台がオレンジ色に輝く  
乾いた空がキレイに染まっていく  
誰もが息を呑む瞬間  
東シナ海慶良間諸島に沈む夕陽  
ゆっくり……ゆっくり……  
日が落ちてからの夕焼け 綺麗  
時の流れの速さを実感しながら  
揺れる波の音を聞きながら  
泡盛の入ったグラスを眺める  
髪をくすぐる潮の交じった風  
いろいろな想いを乗せ流れてゆく

ヒカゲヘゴ (やんばる亜熱帯園)



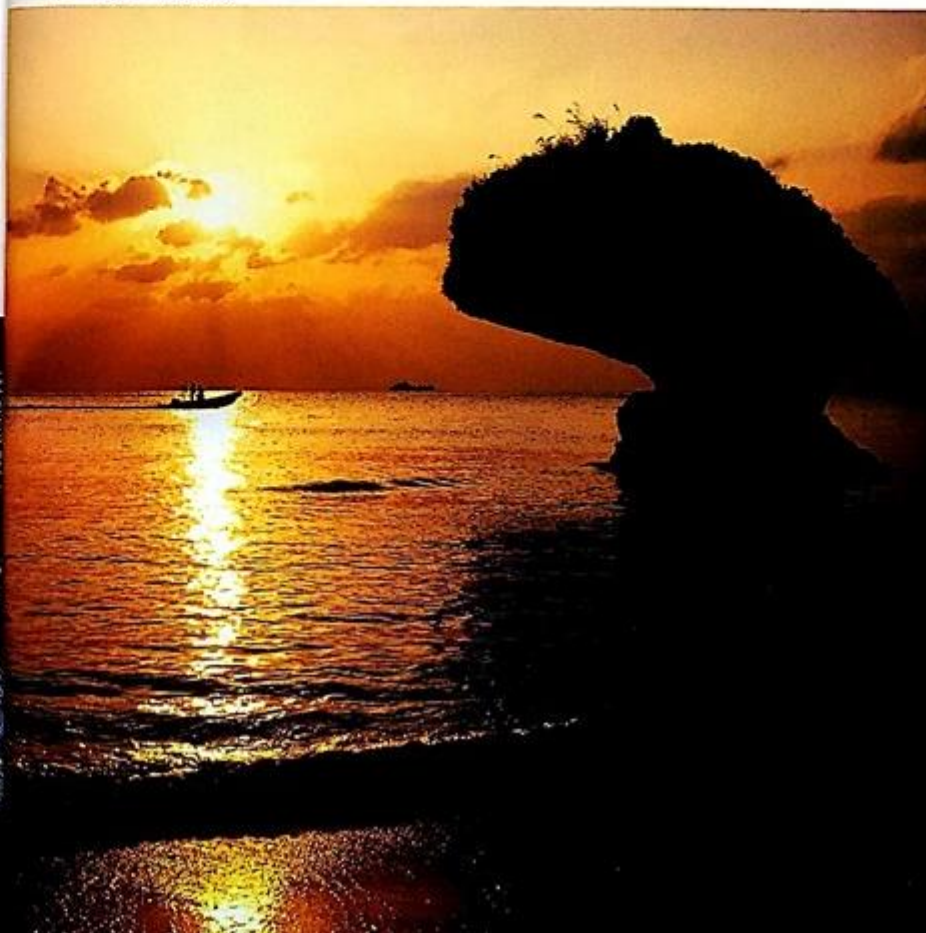
Photo essay

# 南島



題字 中田 蘭 石  
撮影 由井 収  
文 松 永 恵 一

サンセット (残波岬)







爽流

# 季節の



嫉妬

# 実景

芦生原生林

盛夏

撮影 武市通治



湿潤な森

山法師咲く

森の育くみ







ニッコウキスゲ咲く尾瀬ヶ原 中川 光郎

サーレク・ノッサスバーゲ (谷) (スウェーデン北部・P53参照) 利倉 正洋



神宿る峰 (立山・大汝山山頂) 今村 克美

盛夏の鷲羽岳 (北アルプス・双六岳) 武田 誠司



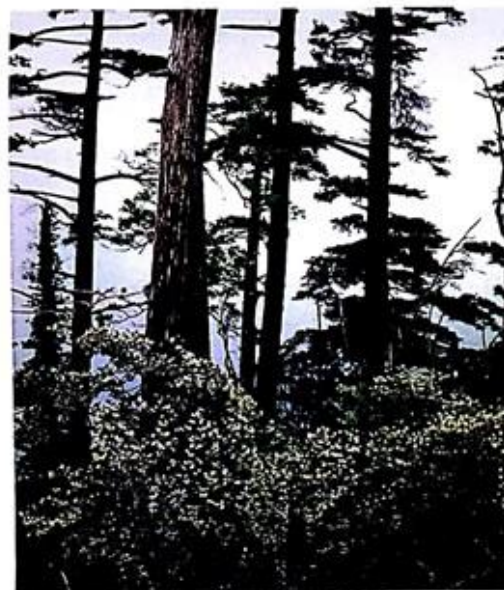


# 霧の大台ヶ原 - 正木ヶ原 -

奥田 英一郎



侵入者がやって来た //



深い霧が森をおおう

やさしい霧の中に咲く(シロヤシオ)

別冊 関西の山  
新伴作 07年7・8月 盛夏 第95号

## ●目次

表紙：松田敏男「ひょうたん池の朝(後方大天井岳)」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳研習、山岳部の部長多功副部長。〔京都平安山岳、南アルプス山岳小隊、東京キャラリー西号、他〕山の成り立ち「光る山山」刊行(東京新聞出版部)。京高山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

## ●グラフィア

南島……………撮影 由井 収 文 松永 恵一  
季節の実景(盛夏)「芦生原生林」……………武市 通治  
高岡富美子 今村克美 武田誠司 中川光郎 利倉正洋 奥田英一郎 4 2  
随想(山のエッセイ)  
千内札の風景……………鷺見 守康  
近江の分水嶺と琵琶湖……………長家 清司  
大峰山連嶺の由来……………綱本 逸雄  
山野草を買ったことのは非……………森木 伸人 14 13 11 10

## 紀行

白山(白峰)……………木村 太郎  
薬師岳・観音岳・地藏岳(南アルプス)……………田中 明  
アポイ岳・阿基岳・阿基岳・阿基岳(北阿蘇)……………高島 伸浩  
国東山と大白山(伊勢)……………山形 明 31 24 20 16  
運載 標高による山の紹介シリーズ 35 △△95mの山  
小谷山・ゴンニャク・広河内岳・寒江山……………松田 敏男  
天狗峠往復(京都北山)……………小山 誠次  
鳥甲山(北阿蘇)……………鷺見 守康  
横根三山(鈴鹿)……………長谷川 雅俊  
「王様の散歩道」南部を歩く(スウェーデン)……………利倉 正洋 53 46 42 36 34  
花の山、早池峰山(東北)……………藤部 純 64

## ●エリア別徹底研究

京都北山を歩く・ミニガイド(第4回)  
●エリヤ別徹底研究 京都北山を歩く・ミニガイド(第4回)  
①滝又の滝・東侯山 ②愛宕林道から神明峠・愛宕山  
③小野村割岳 ④花背峠から丹生峠・滝谷峠・二ノ瀬ユリ  
⑤頭巾山……………村田 智俊 68 58  
●旅振り通信の新研究 ④ 岡山ルートの資料……………柴田 昭彦  
●文学歴史探訪ハイック ⑥ 鹿井に「梅花藻」を訪ねて(湖東)……………松永 恵一  
●「山のレポート」山の地名を歩く④「佐目子谷」……………西尾 寿一 76 72  
コース ①長光寺山(瓶割山)・巖殿山(湖東)……………長宗 清司 80 78  
②奥丸山直登コース(北アルプス)……………山田 明男

沿線ハイキングガイド……………82  
せせらぎ……………84  
新ハイサイビステーション……………82  
新ハイ関西山行計画……………92 86 86 82  
新ハイ関西山行報告……………112 111 101  
入会の案内・新入会員紹介……………  
編集後記・広告案内……………

## 巻頭言

一般に人の筋力は30歳でピークを迎え、その後年齢を重ねていくに従って低下していく。筋力の衰えにより、相撲力士は35歳、プロ野球選手でも40歳までで大半が引退を余儀なくされる。筋力の低下を最小に抑えて選手生活を長く送る人もいるが、よほど平生から筋力を鍛えているのであろう。

筋力で一番衰える速度が顕著なのが脚力である。調査によれば、60歳の人の筋力をみると、30歳のピーク時に比べ、腕力・背筋力などは9割もあるが、一方、脚力だけは7割程度となり、加齢によって3割も低下しているという。

老化を遅らせるには、この脚力の低下をいかに抑えるかがキーポイント。「老いは脚から」といわれ、脚が弱くなれば全体の筋力・頭脳まで衰えてきて、老化を進める結果になる。逆に言えば、脚を鍛えれば、頭脳も活性化される。いわば脚が元気の素だといえる。

山登りがよいところはこのあたりである。脚力の低下を抑え老化を遅らせ、若々しい身体を保持できるからである。

新ハイキング関西(代志) 村田 智俊





## 千円札の風景

鷺見 守康

「あっ！富士山！」  
山を歩いているとき、かなたに富士山を認めると、どんなに遠く霞んでいても、何かとても得をした気分になる。

富士山が見えるということは、晴れて見晴らしもきいているということであり、それだけで山行は成功なのである。加えて日本一の山姿まで眺められるのだから、間違いない大成功といえるのである。

わが国に山岳は数々あれど、登山者はおろか、およそ登山というものには無縁な人達にも愛される富士山、やはり特別な存在なのだろう。

この富士山に一度は登ってみるべきだと思いつきながら、実は、私はいまだにその思いを実現し

てはいない。

遠い昔、わが国が氷河期の頃、北の寒冷な大陸から多くの花たちが渡ってきた。やがて、氷河期が終わって温暖な時代を迎えると、それらの花たちは寒冷な地を求め、高い山へと登った。これが現在の高山植物である。

しかし、富士山には高山植物がほとんど存在しない。

富士山が現在の高さになったのは、地球の歴史からいえばそれほど古い話ではないようで、高山植物が日本アルプスなどに登り、それぞれの「居場所」を見つけた頃、富士山はまだ「高山」といえる高さをもっていなかった。だから、富士山には高山植物が少ないという。そして、そのぶん、花の魅力に欠けてしまふのだ。

私が富士山に登っていないわけもそこにある。どうしても、優先順位が低くなり、他の山に

足が向かってしまふのだ。けれど、登った山々から富士山を眺めるのは、大多数のハイカーと同じように私も大好きなのである。

富士山を眺めるには、当然その周囲に位置する山岳が一番である。遠くに白い頭を見せている富士山もおつなものだが、独立峰の威容と秀麗な裾野を引いた山容を眺める迫力は、まさに感動そのものである。

そんな感動を求め、新ハイ例会でもいくつかの山行を実施した。

2002年の春には毛無山塊の雨ヶ岳から毛無山、そして天子ヶ岳から長者ヶ岳、同年晩秋には愛蔵連峰、翌2003年には御坂山塊の三ツ峠と御坂山から黒岳、さらに2006年の春には御坂山塊の続きの王岳、と富士山を巡る山々を歩いてきた。何とか天気も味方してくれ、



## 随想

(山のエッセイ)

雨に打たれる山行はなかったが、愛蔵連峰と王岳では、ガスのため終日富士山の姿は見えなかった。けれど、富士山のつくった森や湖の景観を心から楽しむことができた。

2004年には、本栖湖の西岸から富士山を眺め、富士山と富士五湖とが演出する独特かつ雄大な風景に魅了された。

そして、いつもカメラマンが絶えない本栖湖西岸からの風景が千円札(旧五千円札)の裏に描かれたものだを知ってから、毎年一度はこの西岸に立つようになった。

2006年末には、毛無山塊で登り残した竜ヶ岳へ本栖湖側から登った。

毛無山や雨ヶ岳のおまけのような存在の竜ヶ岳だが、大変登りやすい山で、本栖湖斜面上に広がる太平洋側ブナ林がすてき

であり、何より尾根上と山頂から仰ぐ、テッカイ富士山は圧巻であった。

下山後、本栖湖西岸に足を運び、改めて千円札の風景を楽しんだとき、富士山の右側に描かれた山が今登ってきた竜ヶ岳であることがわかり、私は子供のようにならなくなったのである。

## 近江の分水嶺と琵琶湖

琵琶湖

長宗 清司

日本山岳会が、創立百周年の事業として、「日本の中央分水嶺」を踏破されてから、地方支部もそれぞれ独自に取り組みされている。私は、「近江の分水嶺」を机上の地図でたどってみた。

近江は典型的な盆地で、近江にある河川の水のほとんどが、ど真ん中に位置する琵琶湖へ流

れ込み、湖水を満たしている。

ただし、湖西の安曇川上流の一部が、京都市左京区の百井峠を外周とした支流の源頭から北に、滝谷山・峰床山・美山町との境界。さらに三國岳のあたり、分水界を拾って歩かねばならない。ここを除けば、ほかには府県境を越えて融雪や降雨の水が、他府県から琵琶湖へは流れ込んでいない。いわば県境がそのまま分水嶺といつてよいだろう。

京都府側、南は岩間山から逢坂山、比叡山から北へ途中越。福井県との境は、近江坂から大谷山、乗鞍岳、国境を越えて三方ヶ岳、行市山、柳ヶ瀬山・橋の木峠をまたいで上谷山、横山岳。そして岐阜県との県境、伊吹山山系から雲仙山、三重県とは鈴鹿の山並に接して続く県境尾根が分水嶺である。

しかしいくつか例外はある。





随想

大峰山連嶺の由来

綱本 逸雄

それは、私が長年こだわってきた、近江坂から分岐して三重岳（湖北武奈ヶ嶽（武神嶽））赤岩山、そして水坂峠へと続く尾根と、峠を挟んで二の谷山を横断して国道367号線の槍峠、さらに町境の行者山と駒ヶ岳が分水嶺なのに、なぜか、同じ近江坂の能登野の頭から分岐した三十三間山と轡輪山を含む尾根が近江（濠洲郡）と若狭（福井県）を分ける県境になっていて、両尾根の谷間の天増川と南の寒風川とが合流した「北川」だけが、唯一日本海（若狭湾）へと流れ込んでいるのである。

あとは、信楽町の東部、三重県阿山町の境「桜峠」と南新田・新田の分水界で県内に源頭のある河合川は三重県側の河川とみなした。

ところで、琵琶湖から流れ出る「湖水の出口」は、瀬田川と京都へ送水される琵琶湖疎水だ

けだといわれている。では、ほかに滋賀県内から他府県へ流れ出る河川はないかと調べてみると、伊吹山の南東に派生する尾根の県内側に「藤川」がある。この上流付近は昔、京極家が居城を構えたあたりで、ここから天下分け目の戦が繰り広げられた古戦場の岐阜県関ヶ原へと流れ出ていた。

それでは、琵琶湖に注ぐ川と瀬田川のそれを、どこで線引きするか。結果、京都府との境は「音羽山」。そして東へ瀬田の唐橋を渡り、牟礼山・鶏冠山・竜王山・金勝山・阿星山・大納言・飯道山、信楽鉄道を越えて岩尾山までを一つの峻線とみなして、琵琶湖へ流れ込む野洲川と、瀬田川に注ぐ信楽川や大戸川を分離した。

瀬田川での京都・宇治田原町と近江の分水嶺は「花立ノ峰」と禪定寺峠の延長、県境尾根が

南端である。

できれば机上でなく、足で探ぐるのが理想だが、運転免許証を返上したいま、私には近江の北西部や京都府との境付近は無理かも知れない。

（平成19年1月29日記）

その② 金峰山・山上ヶ岳  
女人禁制の霊峰、山上ヶ岳（標高1719m）から吉野山蔵王堂に至る連山を金峰山という。

一方、大峰山は、山上ヶ岳の南、小嶽（天川村）から熊野に連なる山々の総称で、狭義には山上ヶ岳をいう。後世には金峰山と大峰山は混用された。

古来、金峰山は、葛城山・愛宕山・比叡山・比良山・伊吹山・神峰山とともに七高山の一つとして有名（十芥抄）。山上ヶ岳山頂を「山上」と号し、山麓の吉野山を「山下」と称した。山上・山下に建立された修験道場は一体で、総称して金峰山寺という。修験道の開祖役行者が白鳳年間（七世紀後半）山上ヶ岳にある湧出ヶ岳で金剛蔵王

権現を感じ得し、これを桜に刻んで「山上」の山上ヶ岳（現・大峰山寺本堂）と「山下」の吉野山（現・金峰山寺蔵王堂）に安置したと伝わる。明治初年修験道が禁止され、一時廃寺となったが明治19年（1886）天台宗寺院として復活、昭和27年（1952）金峰山修験本宗として総本山となった。山号は国輪山で宇宙の中心の山という意味である。

金峰山の名は、『万葉集』（巻一三三三）に「み吉野の御金高（岳）」と歌われたように、山中に黄金が埋められていると信じられた。「御金の岳」は敷衍して、山上は金色のまばゆい極楽浄土の世界とみなされるようになった。『扶桑略記』第二五に、道賢上人が修行した金峰山山上は「黄金光明甚照」浄土の世界だと描く。「権記」長保三年（1001）4月24日条に「惟弘が云うには、去る夜金峰

山に詣って金帯・金劔を得た夢を見た。吉相なり」、「十芥抄」十蔵部本朝五奇異に「金峰山其土石は能金と為るべし」とある。「宇治拾遺物語」（上本一一二）には、京七条の薄打（簀打）が当山の金を盗んだ物語が知られる。

宇多法皇・白河法皇や藤原道長らの貴族が御嶽精通し、特に道長は寛弘四年（1007）8月、阿弥陀経・般若心経を金銅製経筒に納入、山上に埋納したことが『御堂関白記』に載る。中世、「金の御嶽は一天下（天界）、金剛蔵王・釈迦・弥勒」（『栗原秘抄』巻二・四句神歌）のおすましの世界とみなされた。1984年の本堂修理にもなう発掘調査では数多くの遺物に混じり二体の黄金仏が出土している。

吉野山の主峰・青根ヶ峰（858m）は「耳我の嶺」「御金の高」などともいわれた。本誌前





克

号で、青根ヶ峰は「大峰山」「金峰山」と異名同山であることを述べた。  
山上ヶ岳は、大峰山脈の盟主で、白鳳年間、役行者が開いたという伝承がある。修験道の根本道場となり、日本の山岳霊場を代表する山である。今なお、全国でただ一ヶ所女人禁制が守られ、山頂に大峰山寺本堂がある。

中国五代後晋(945)から後周(954)になる僧義楚編纂『義楚六帖』日本国条には、「本国都城の南五百余里に金峯山有り。頂上に金剛薩王菩薩有り。第一の霊巖なり。大小の寺数百。曾て女人有りて上ることを得ず」とあり、平安中期には中国まで日本第一の修験の山と知られていた。

2004年、「吉野・大峰」「奥駆道」「熊野」「高野山」の「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された。

別称の大峰山の大峰は大と峰の合成語で、「みね」の「み」は美称、「ね」は高峻をいう(狩谷振斎『箋注和名抄』、また「峯」山が尖り高い処也)『色葉字類抄』、図書寮本『類聚名義抄』である。それに広大・尊気の意味を示す「おお」(大)を付した。白川静「字訓」によれば、「峰の「峯」は、木の秀(は)つ枝に神霊の降る形。「み」は神霊の意をもってそえる接頭語、「ね」は神霊の領(うしは)くところ、「みね」は神のすむ山の意」でもある。

山上ヶ岳の山名は、山上本堂、山上参りからみよるよう大峰山の「山上」がそのまま山名となったという説がある。しかし、霊山の頂上を禪定という。禪定は禅頂ともいうが、もとは高い山に登って山林修行することである。『義経記』巻七(直江の津にて亥(おい)探されし事)に「この清川と申すは、羽黒権現の御

手洗(みたらし)なり。月山の禪定より北の腰に流れ落ちけり」とある。山上ヶ岳(さんじょうがだけ)は「せんじょうがだけ」(吉田東伍『大日本地名辞書』)ともいうが、禪定→山上の転訛であらう。

### 山野草を買うことは是非

藪木 伸人

ずいぶん前に、松阪城址公園の市で、ユキモチソウを買った経験がある。その後4年程は、毎年花を開いて楽しませてくれたが、いつの間にか無くなってしまった。植えてもないカラスピシヤクは、毎年庭に姿を現し続けているのに。余談であるが、わが家には、鳥たちが運んできたと思われる、マユミ・ニシキギ・カラタチバナ・キミノセンリョウ・シロミノマンリョ

いは、元株を損ねずに株分け・さし木等のやり方で育てられたものも、よいかもしれない。  
しかし、素人が、その出所を把握したり、絶滅寸前の状況だと判別したりすることは、不可能に近い。前述の本には、随所に盗掘への怒りや盗掘品の不買提起が、書かれている。

絶滅の惧れが高い順に、CR(絶滅危惧ⅠA類)、EN(同ⅠB類)、VU(同Ⅱ類)、NT(準絶滅危惧種)の分類があり、各都道府県別の状況もおおむねわかる、良書である。

わが三重県では、マメナシがCR、ジングウツツジ・イワチドリ等がEN、フクジュソウ・セツブンソウ・ヒロハノアマナ・ミノコバイモ・タキミチャルメルソウ等がVU、シチョウゲ・ミスミンソウ等がNTとされている。

残念ながら、かつて私が県内の白生を確認していたユキモ

チソウ・クマガイソウは、「現状不明」とされており、キキョウ・フジバカマ・キンランは、「情報なし」ということらしい。「情報なし」なのだが、わが県では、対策どころか現状確認すら遅れているようだ。  
最近目にした新聞報道によると、稀少な種を合法的に増殖し、ネット販売することによって、盗掘を防ごうと試みている人達がいるようである。本当に花を愛する人なら、少なくとも出所不明のものを買うべきではない。「山野草は、なるべく買わない」そして、「絶滅危惧種は、早急に自生地に戻すべきである」ことを提案したい。「やはり野におけ……」である。



克

### 随想

ウ・ヒマラヤトキワサンザン他、10指に余る木々が育っている。以米、市や通販で山野草を買ったことは、一度もない。人からいただいたエビネとキエビネも近くに植えてあったら、いつの間にか交雑種ばかりになって、今に至っている。  
ところで、これまでは「育てられない花は買うまい」程度の認識だったのが、ある本によって改まった。(山と溪谷社刊「レッドブックプランツ」二〇〇三年)

「山野草を買ってはいけない」のである。この本によれば、絶滅寸前の野生種の大半は、盗掘によって、その現状を招いているという。販売業者は、「需要があるから」との理由で、盗掘品を売っているのだ。これでは、何の悪意もなく知らずに買った方も、犯罪に加担していることになるのではないか。数多い種の内、数個から実生で増やしたものは、よいかもしれない。ある



## 伝説の花の山を歩く

# 白山

## 木村太郎

# 白峰

冠雪四時尽きない信仰の峰、短い花の季節の白山に、例会山行「ファミリーハイク」で訪れた。白山本地伝をまつる白峰村の林西寺を通り、手取川の上流沿いを登山口へ向かう。別当出合で観光バスを降り、新しい大吊橋を渡り、砂防新道の登山道に入る。

白山に来て、最初に見つけた花はウバユリである。田中澄江さんが「新・花の百名山」で、「ほかで見かけるものもの二倍もの大きさで花の数をもっている」と驚いた花である。女神ヘラの乳が滴り、地上の白いユリになったとギリシャ神話に伝わるが、群生するユリに心が感わされそうになった。

登山道はブナ樹林帯のなか、ダケカンバやオシラビソの樹木に亜高山帯の雰囲気満ちている。砂糖菓子のようなセンジュガンビや線香花火のようなミヤマカラマツの白い小さな花が一服の清涼剤になる。別当観きから黒ボコ岩を遠くに眺め、45肩のザックが肩に重くのしかかる。

足を痛めて遅れはじめた数人の仲間を気遣いながら、葦之助小屋の広場で待つ。携帯用魔法瓶で昆布茶をつくり、自分自身に活を入れる。水ようかんやゼリーを仲間と分け合い、別山方面を眺めるがガスが渦巻いている。南竜山荘への道を見送り、黒ボコ岩

登山道には花の種類が増え、花園鑑を手にチェックする西さん、花に興味津々の本家さんの顔がほころぶ。草地のシモツケソウ・ハクサンフウロ、岩地のタカネナデシコ・ヨツバシオガマなど、色とりどりの花が群れている。白山の短かすぎる夏に、必死にはほえんで花の命を生きている。

花好きの渡部さんが列を離れ、花の写真を撮りに行った。キヌガサソウの群落地を見つけたらしい。十枚ほどの放射状に並んで輪形に集まった大きな葉の中心

部に、白い萼片を十枚ほどつけた花である。高貴な身分の人にさしかける衣笠に見立てた花は、名前にふさわしい気品を漂わせている。

甘露な延命水を過ぎて、十二曲りの急坂を登れば黒ボコ岩である。7月の長雨で土砂崩れがあり、観光新道の入口には通行止めロープが張られている。黒ボコ岩の岩塊の前で休憩をとらない元気な仲間達は、それぞれに写真を撮り合っている。弥陀ヶ原に上れば風景が変わる。目の前に水屋尻雪渓が広がり、稜線の果て

に御前峰の高みを手招きしている。真っ青の空に覆われガスも消え、最も気がかりだった雷をとまなう夕立の心配はなくなった。

この7月は長雨が続いた。登山道の状態が気かりで、梅雨明けですぐ白山の下見に入った。その日偶然、寝屋川の井上さんにお会いした。お友達と前日から白山に来ていと言った。弥陀ヶ原の水平道で、彼女と3日前にやりとりした会話を思い出した。

「ミヤマクロユリは咲いていますか」と尋ねたら、「室堂にはいっぱい、その辺にも咲いていますよ」と言われた。ナナカマドの木の花しか気づかないでいたが、弥陀ヶ原の草地のまわりで、伝説の花クロユリが群れていた。菊田一夫作「君の名は」、宝塚歌劇で歌われた「黒百合の歌」の花である。

神史風の言い伝えに、北陸の大名から淀君にクロユリが献上された時、淀君は北の政所に、「これが名高いクロユリ、高山の峰近く万年雪のはとりで咲く、まぼろしの花を手に入れたのもわらわらばこそじゃ」と自慢した。北の政所が屈辱感を味わい呪ったことで、淀君と秀頼



御前峰、室堂より (西條良彦画)







エコーラインより別山 (西條良彦画)

の真身を見せるように論じ、現出した一面観音と対面したという、白山伝説の神秘に満ちた池である。  
砂礫地にツガザクラ・チングルマ・コイワカガミ・イワギキョウが群れ、天界の楽園を彷彿とさせている。お花松原への道に分け、秦澄大師が千疋の悪蛇を閉じ込めたという、万年雪の千蛇ヶ池に向かう。山小屋の朝食をゆっくりとりたいため、千蛇ヶ池の雪渓を横切り、近道を運び室堂に引き返した。

荒れた山道から室堂平の散歩道に下りて来ると、ミヤマクロユリとハクサンコザクラの群生地があった。秦澄大師が一面観音の玉体に接し歓喜の涙を流した白山、妙理大菩薩の白山比咩の女神が支配するお山、それゆえ美しい花園に覆われているのだろうか。  
観光新道が通れないので、砂防新道で下山するため、エコーラインの木道に入る。木道を一列に並んで歩く仲間達、それぞれが胸に抱く白山への惜別の思いを、行く手の別山が慰めてくれている。  
エコーラインにも花は多い。最初はハクサンコザクラ、途中からニココウキスゲの群生に出会う。亜高山帯の湿った草地で黄色い姿を見せるニココウキスゲは、普段の里山で見られない高嶺の花なのである。  
スペインの伝説では、悪魔に魔法をかけられ、獣の姿に変えられた人間は、百合の助けにより元の姿に戻ると言い伝えられている。日本では、奈良率川神社の三枝祭の日に、ササユリを持った巫女が神楽を舞い、ササユリの山車が登大路を練り歩く祭礼が知られている。  
西洋でも日本でもユリは、神聖な魂の

やどる花とされている。クロユリの花言葉は「恋と呪い」だが、ヤマユリの花言葉は「荘厳」であり、ユリは純潔の象徴ともされている。白山比咩が住む山に、色は何色であれ、女神を惹き込んでユリが咲くのは理にかなったことといえよう。  
エコーラインで知らない女性が「あの山は何という山ですか」と聞いてきた。花に見とれて気づかなかったが、よく見ると御嶽山と乗鞍岳だった。  
大きな感動をくれた白山にお礼を伝えたくて、時々後ろを振り向いた。青空を背景にして、穂高連峰と槍ヶ岳の雄姿が現れ、下山する僕たちを見送ってくれていた。(平成18年8月3日〜4日歩く)  
▲コースタイム▼  
〔1日目〕別当合(45分) 中飯場(35分) 別当現(40分) 甚之助遊難小屋(25分) 南電分岐(50分) 黒ボコ岩(40分) 室堂  
〔2日目〕室堂(50分) 御前嶺(25分) 翠ヶ池(45分) 室堂(1時間10分) 南電分岐(30分) 甚之助遊難小屋(40分) 別当現(40分) 中飯場(40分) 別当合合  
▲地形図▼2万5千ノ加賀市ノ瀬・白山



ミヤマクロユリ

仲間達に食券を配り、部屋割りを終え、後の粗を迎えに行くことにした。半袖シャツ一枚で少し寒気がしたので、そばにいた村上さんにフリースを借りた。山小屋から外に出た所で、他人のザックまでかっぴだ大東さんの逞しい顔、最後尾にい

は共に減んだという、歴史の裏話が今に残されている。五葉坂の急登になり、最後のがんばりで白山室堂に着いた。宿泊の手続きに室堂センターに入ると、単独行で入山していた長岡京の川上さんの姿ウキウキを見つけた。ニッと思いがけない場所での再会に、少なからず驚いた。

西條さんの人懐っこい笑顔を見つけ、全員が合流できた。  
日暮れ前、ある人は御前峰を仰ぎながら室堂で憩い、ある人は室堂平のお花畑めぐりを楽しんでる。私は食堂が閉まるまでに焼酎用のお湯をもらおうと、ザックを探すがボトルが出てこない。甚之助小屋の休憩地で忘れてきたようだ。栗栖さんからボトルをお借りして、焼酎のお湯割りと山の話で、仲間達と消灯まで過ごした。  
早朝、寝泊まりした「こざくら荘」を出て、満天の星の下に集まった。中澤さんが天の川が見えると思差し、都会で見られない美しい星空に感動の声をあげた。柄杓形の小無座、夏の大三角形はすぐに見つけられた。星空観察しているうちに仲間達の顔が描い、ヘッドランプを頼りに歩き出す。  
暗闇の登山道を、朝日が出る山頂を目指す。ランプの光に突然、クルマユリの群れが浮かぶ。後醍醐天皇が笠置城から赤坂城に落ちのびた時、帝の足下を照らすと薄紅色に変化した、赤色系の伝説のユリである。山上までの夜道に点々とランプの灯が揺れ動いて、まるで銀河の

帯が続いているようだ。  
地上界と天上界を区切る青石を過ぎたあたりで、御日の出1時間前を知らせる祈禱殿の太鼓が響く。御日の出までに間があり、高天ヶ原でひと息入れる。白山比咩神社奥宮の白山御前峰(2702m)に登る頃、薄明の空に星は消え、夜明けが山を占有する。  
御前峰1等三角点の前で、妹尾さんが記念写真を撮ってくれた。そのまま仲間達は、御日の出を待つため、三角点のまわりに坐り込んだ。目の前に石割だらけの剣ヶ峰と雪渓をまとった大汝峰が見える。夢舞台の開演を待つ、観客のどよめきが聞こえた時、東の空に閃光が走り抜けていた。  
薄紅色にたなびいていた雲の上端に、紅色が重なっていき、み空は突然白銀の光線を放射した。白山では御日の出の名で讚美するご米光の時、山上でいっせいに拍手が起こった。白山比咩の女神が降臨したようにみえた。  
御前峰から池めぐりの道にくだる。紺屋ヶ池から雪渓の道を翠ヶ池に進んだ。この翠ヶ池は、白山開祖の秦澄大師が折っている時、出てきた九頭龍王に本地



南アルプスの花巡り、鳳凰三山を行く

薬師岳・観音岳・地蔵岳

田中 明

南アルプス

夏山を心待ちにしていた私にとって、今夏はあちこちで大被害が出るほどの集中豪雨・台風の襲来で、右往左往させられた。

そんななか、繰り延べになっていた、雲上の日本庭園と固有種の高山植物が楽しめる南アルプスの入門級コースの鳳凰三山登山を、天候回復により、お盆過ぎになってようやく決行することになった。

南アルプスとはいえ、いつものように花巡りが主目的の軟弱登山である。JRを何度も乗り継ぎ、やっと着いた甲府駅からのバスも長時間を要した。ガタンゴトンと地道の林道を走る車窓から、カラマツ林の林床にフシグロセンノウ・ママコ

ナ・ヨツバヒヨドリなどが道沿いに多く咲いているのが見えてくる頃、夜叉神峠登山口に着いた。

いよいよ縦走開始だが、いきなりソバナ・キバナアキギリ・ミヤマママコナ・ジャコウソウ・ヒナノウスツボ・タマガワホトトギス・コウモリソウ・カニコウモリなどが咲いていて、蝸牛の歩みとなる。

でもいいのだ。花歩きなのだ、前急ぎは後急ぎと言いつつも、わが身を納得させながらデジカメタイムを続ける。

カラマツ林に付けられた登山道はしっかりと整備されていて、幅広い。登山者が多いのもわかるというものだ。ササ原

になってしまおう花だ。  
夜叉神峠小屋前のお花畑で遊んだ後、縦走路をゆるやかに登って針葉樹林帯に入っていく。あたりは隙間も無いほど鬱蒼としている。足元をふと見ると、細かく切れ込む葉のエゾシオガママツのセリバシオガマばかりが目立ちました。

今回は、多種あるシオガマ属の間では、セリバシオガマだけが最初から最終のドンドコ沢まで見られたが、この種以外のシオガマには出会わなかった。  
急な登りはほとんど無いと言ってもいい道に行く。やがて狭い草原に出た。そこにはシナノオトギリ・ハナイカリ・ミ

ネウスユキノソウ・トリカブトなどがおびただしく咲いている。この一帯ではキタザワブシの名がトリカブトに付いている。もちろん林床にはずうっとセリバシオガマが続いている。

鉄パイプで組まれた標識には杖立峠とあるが、エアリアマップでのほんとうの峠はもう少し先のように思える。一本立てるほどに疲れていないのでそのままやり過ごしていると、暗い林床にウメガサソウの残花が一本だけきれいに咲いている。だが、これまた上手く撮れていなかった。我がカメラ技術はまだまだ潮を踏むのが足りないようだ。



タカネビランジ



を行くとひと汗もかかないうちに夜叉神峠に着いてしまった。峠から高谷山寄りに少し進むと、白根三山の好展望地があるというが、今日はガスのなかなのでパスして小屋前を出た。一気に明るくなり、鮮やかな紅色のヤナギランの群落がある。北アルプスでは何度も会っているヤナギランだが、紅色の色合いに惚れられずるのは私だけではないだろう。つい夢中

さらに進むと、薄暗い斜面に数本のシャクジョウソウが立ち並んでいる。葉緑素を欠く腐生植物で、葉を付けないギンリョウソウがよく知られるが、こちらははやや珍しい種であろう。でもこれまた暗くてピンアマとなっていました。いつまでたってもカメラ音痴で、見様見真似で構いません。

上り下りをゆっくり繰り返して傾斜がゆるくなると薄平。可愛い名の所で、昔はモミジイチゴかベニバナイチゴの群落でもあったのだろうか。今はその面影は見当たらない。

薄平から先もカラマツ・コマツガ・シラビソなどの針葉樹林帯で隙間が無く、昼過ぎなのに薄暗い。

飛び出した所の山小屋は、樹林帯が広がる標高2435mの平坦地にある南御室小屋だ。小屋の名前はすばらしい。でも建物はバラックで失礼ながらお粗末極まりない。

夜叉神峠から約1000m登ったこの小屋で世話になる。15人ほどの寂しい数の登山者で、夜も静かにそっと更けゆく。あたりに寝息が聞こえだす頃には雨音がしていたが、明けた空にはよい天





ホウオウシャジン

の河原では手を合わせた。後は急なザレの下りをキオンの群生を横目に一気に駆け下りていると、見飽きたタカネビランジがまだ咲き、ホウオウシャジンに出会えた。そばには何か違う花がと近づけば、ミヤマシャジンも並んでいる。ホウオウシャジンはわずかしら見られなかったのてやや寂しかった。

植林帯に入り、谷沿いにミソガワソウ

の残花を見てにっこりしたが、すぐにヤナギランが大満開の鳳凰小屋に着いた。まだ13時だ。うんざりするほど花巡りをしたはずなのに早すぎる気がした。でもこれがよかった。しばらく横になって休んでいるとザッと強い夕立が通り過ぎていった。展望には恵まれない縦走だったが、最後まで一度も雨具の世話にはならなかった。

30人程の客で静かに夜が更けた。夜中に雨音を聞いたが、翌朝は曇り空になっていた。

ドンドコ沢の植物をゆっくり見てくだろうと早立ちしたが正解だった。ドンドコ沢での今回の山行で初めて見た花はシラヒゲソウ・センジュガンビ・オオビランジ・レイジンソウ・ハンゴンソウ・レンゲショウマ・マルバダケブキ・シモツケソウ・コキンレイカ・クモキリソウ・モミジハグマ・シナノナデシコ、もちろん昨日までに見た種も多くあった。このドンドコ沢コースは花いっぱい私を喜ばせてくれた。

また五色滝・白糸滝・鳳凰の滝、一番豪快だと感じた南精進滝はすばらしくかった。おかげで5時間もかかってしまい、

- ▲参考タイム▼
- 〔1日目〕J R甲府駅 9・30 (山梨交通バス) 夜叉神峠登山口 10・55 夜叉神峠小屋 11・50 善平 14・35 南御室小屋 15・00 (泊)
  - 〔2日目〕小屋 6・25 ガマの岩 7・05 杖立峠 薬師岳小屋 8・05 薬師岳 8・30 40 観音岳 9・20 40 稜線 11・10 (昼食) 11・30 高嶺分岐 11・55 地蔵岳オベリスク 12・05 (賽の河原) 12・15 鳳凰小屋 13・00 (泊)
  - 〔3日目〕小屋 5・30 五色滝 6・20 45 白糸滝 7・10 15 鳳凰の滝 8・00 (朝食) 8・25 南精進滝 8・45 55 川沿道分岐 10・00 青木鉱泉 10・40 (入浴休憩) 12・15 (山梨中央交通バス) J R 垂崎駅 13・10
- △地図▽昭文社「甲斐駒・北岳」



イワインチン

気を予感するかのようには薄く青が広がっている。

きのう見飽きたヤナギラン・トリカブトなどのお花畑を素通りし、ザレ場をやり過ぎて樹林帯に入る。サルオガセがコメツガにまとわりついているのを見やりながら進み、ガマの岩に押し上げた。ところが残念、シラビソ林越しの白峰三山はガスが出て、展望はままならない。

青空はいっぱいあるのに、肝心の北岳方面には雲が張り付いている。目を見張るほどの雄大な展望はまたしても持ち越した。

いつの間にか森林限界を超え、ハイマツがあたりを広がりに、ダケカンバが横たわる砂払岳に着いた。さらにハイマツ帯を登るとすぐに薬師岳だが、振り返ると雲の上に富士が顔を見せていた。

北方の薬師岳は間近だ。さあ元気に登ろう。小さな薬師岳小屋から登り返すことわずかで、岩肌が見えだすとタカネビランジの登場である。うーん、でも10日ぐらい遅かったようだ。可憐なサクランウの花弁に一見似たナデシコ科の南アの固有種タカネビランジを心ゆくまで楽しもう、数ある株を探してきれいな所を目指した。

薬師岳の頂上は巨岩とザレ場の平地、風化した花崗岩が白砂の斜面に点在し、あたかも日本庭園のような自然の造形美が広がっている。アルペンのような山容は楽しめるが、ガスで展望はもうひとつ。岩場の隙間やハイマツの縁には最盛期後のタカネビランジが多数咲き残っている。そばにはミヤマウイキョウも負けていな

い。

稜線歩とまではいかなかったが、いつの間にか等三角点がある巨岩の積み重なる観音岳だ。遠望は無理でそくさと北へ露岩帯を登り返せば赤抜沢の頭でここからすかかに地蔵岳のオベリスクが眺められた。岩の稜線にはトウヤクリンドウも咲き始めており、何とキク科のイワインチンと久しぶりに出会えたのは嬉しかった。砂礫帯はイワツメクサ、また林下にはタチコゴメグサも大群生だ。タカネヒゴタイ・シラネアザミに、ウラジロナナカマド・タカネナナカマドなども同定ポイントを復習するようにチェックできた。ミヤマダイモンジソウ・ミヤマゼンコ・タカネイブキボウフウも見られた。

さらに白砂の鞍部から岩尾根をとって高嶺への分岐を見送り、賽の河原へくだと、タカネグンナイフウロやコオニユリが咲き残っており、そばにはミヤマホツツジが咲いている。オベリスクを見上げるが、またしてもガスがベールをかけたようにあたりを白くしてしまった。

地蔵岳鞍部は砂礫の平坦地で、子宝を願う小さな地蔵尊が数多く安置され、賽



## 平成17年盛夏、北海道登山紀行

# アポイ岳・阿寒富士・雌阿寒岳・摩周岳ほか

北海道

高島伸浩

7月29日(晴れ) アポイ岳(810・6㍎)

28日夕刻、車二台、60歳代の4人は、敦賀からのフェリーで苫小牧東港に着いた。襟裳岬に近いアポイ山麓自然公園のキャンプ場に向かい、着いたのはもう真夜中の23時30分。そのまま車泊。

29日、キャンプ場奥のレストハウスより6時スタート。アポイ岳は低山だが花の山として知名度が高い。ボンサヌベツ川というアイヌ語のややこしい名前の川に沿って幅の広い道がびてている。登山道ポストの前には花の山らしく季節の花が写真入りで掲示されている。すでに福岡県7名、山口県4名が先に登って

る。全国区の山だ。

お天気に恵まれ、朝日がトドマツ林に差している。銅鑼のような熊除け鐘が所どころぶら下がっている。一つずつ必ず鳴らしていく。エゾシヤクナゲが心を踊らせてくれる。各合目の標識とは別に沢に出合うことに休憩所があり、山や植物の説明が克明になされている。

五合目の山小屋広場に出ると、樹林から開放されて目の前に頂上と頂上への稜線が左手にのびている。日高の山塊が太平洋にのびた先端が襟裳岬だ。頂上や日高の海岸線を眺めて朝食をとる。

そこから馬ノ背へは岩が露出した急な尾根登りとなる。さまざまな花が群生し

アポイ岳にて



ている。特にマンテマの花が稀産種として珍しい。八・九合目にかけてイブキジャコウソウ・アポイハハコ・ヒメエゾネギ・ワレモコウ・キンロバイ・エゾルリムラサキ・ヒメギアヤメ・サマニ(榛似)オトギリなどが、ハイマツのなかに点々としている。頂上は1等三角点を中心にタケカンバが取り囲んでいた。ピンネシリへの縦走路が続く。下山は「櫻満お花畑」

と名付けられた南尾根へ下りる。ハイマツが登山道を狭くして体にチクチクと当たる。お花畑の手前は急直下。視界は開けて襟裳岬への稜線や太平洋が見えていた。お花畑というわりには花は少なかった。八合目にかけて水平道を捲いて戻る。馬ノ背から頂上を振り返ると、北へ吉田岳・ピンネシリ(957㍎)の頂が続いている。

数々の高山植物に見送られて五合目から樹林帯へと戻り、熊除け鐘を鳴らしながらレストハウスへと戻った。駐車場の側ではエゾ鹿のファミリーが草を喰んでいた。

下山後、襟裳岬へ向かう。途中で日高昆布に至る所で干している。おみやげにどっさり安く分けてもらった。襟裳岬は森進一や島倉千代子の歌で一大観光地となった。何もない春……、どころか灯台広場、歌碑広場、展望所広場、食堂・みやげ屋など観光客が右往左往。みやげ屋のおばあちゃんは戦後敦賀市蓬菜町に10年間住んでいたそうで、時々敦賀の友達のところへ行くらしい。上品なべっぴんさんだった。

阿寒湖畔から雌阿寒岳の登り口「野中

温泉・景福」へ投宿。乳白色の露天風呂にて手足を伸ばした。

▲参考タイム▼

レストハウス6・00―五合目7・15(朝食)7・40―アポイ岳8・50―9・05―お花畑9・25―五合目10・10―レストハウス11・15(所要5時間15分)

7月30日(曇り後晴れ) 阿寒富士(1476・3㍎)・雌阿寒岳(1499㍎)

夜中に雨が降っていたが朝には止んでいた。雌阿寒岳へは以前に野中温泉から登っているので、オンネト―湖から野中温泉へと廻ることにした。

オンネト―湖キャンプ場の隅に登山道ポストのある登山口がある。森は前夜の雨でしっかりとっている。エゾアカマツの樹林でナキウサギがクイーンと鳴いた。やや急な登山道で根っこが露出している所が多い。ここも各合目の標識があり登山の目安となる。五合目は火山観測所の小屋がある小広場。六合目からは樹林帯を抜けてハイマツ帯となる。道は火山礫の小石でややザレてくる。あいにくガスのなかへ突入り視界は無い。ひたすら足元を見ながら歩く。天気が良ければオン

ネト―湖が背後に浮かび上がる所だ。イワブクロやメアカンフスマ・メアカンキノバイの特有種が群生し、コマクサもあった。

八合目は阿寒富士への分岐点だ。ガイドブックには不明瞭で迷いやすいとなっている。ガスのなか、足元の石に書かれた矢印が頼りだ。いったん鞍部にくだり阿寒富士への登りが始まった。降り積った火山灰のなかをジグザグに登る。真っ黒な火山灰の斜面を見上げると、今にも転げ落ちそうな岩が危なっかしげにのしかかる。30分、ひたすら我慢の桶裏登り。バツと開けた頂上広場。その様はやはり地獄の底を見るように、赤茶けた露岩がゴツゴツと広がっている。

青空となり、雌阿寒岳の噴煙が時折雲の切れ間から覗く。1等三角点の横にケルンがあり、阿寒富士の看板が風で飛ばないように石でがっちり固定されている。下りは速い速い、富士山の砂走りながら……、しかし、分岐の八合目に戻って振り返るとそのジグザグ道は真っ黒のなかに直立に上がっている。それだけ勾配がきつく、登る前にその直立が見えていたら、キャンセルしていたに違いない。





阿寒富士にて

八合目からまた雲のなか、雌阿寒岳を  
目指してゆっくり登る。火口壁の緑を歩  
いているのだが白一色の世界。おまけに  
噴き上がる硫黄ガスも混じり、地球の吐  
き出す呼吸を共にする。

樹木も草も一切ない雌阿寒岳の頂上は、  
高さ1・2位の台形の方位盤がその目  
印だ。ロープの奥？は火口壁の絶壁だ。  
ゴッゴと噴煙の音がしている。野中温  
泉側から30人位の団体さんが上がって来  
た。

野中温泉側へ下りる。ガスと風を避け、  
九合目へ下りてから昼食をとった。ここ

は青空の下、緑、緑の下界が広がって  
いる。大きな岩が重なる八・七合目を過ぎ  
るとハイマツ越しにオンネトシ湖がコバ  
ルトブルーで光っていた。四合目からの  
ハイマツ帯は以前はトンネル状だったが、  
かなり刈られて広く明るくなっている。  
三合目から登山口までは大木の樹林帯だ。  
午後、オンネトシ湖からはくっきりと阿  
寒富士と雌阿寒岳が並んでいた。

旅館「景福」で汗を流す（宿泊者は無  
料）。阿寒湖へ向かう。ホテルやみやげ  
物店の町並を散策。おいしい富良野メロ  
ンを賞味。アイヌコタンで木彫りや熊の  
剥製を見て楽しむ。北海道ならではの雰  
囲気だ。

阿寒湖遊覧船に乗りマリモ見学。直径  
6mの玉になるのに150年かかるとい  
うから気の遠くなるような話だ。船上か  
ら雌阿寒岳がくっきりと男性的だ。雌阿  
寒岳は遠くに頭を雲に隠していた。

弟子屈町から川湯温泉の相撲記念公園  
（大鵬の出身地）に行き、車泊。周りのシ  
ナノキから花の甘い香りが降り注ぎ、心  
地よい眠りに誘われた。

▲参考タイム▼  
オンネトシ湖キャンプ場登山口8・00―

八合目分岐10・30―40―阿寒富士11・15  
30―八合目分岐11・50―雌阿寒岳12・  
15―25―九合目12・30（昼食）13・00―  
野中温泉14・30（所要6時間30分）

7月31日（曇り） 摩周岳（カムイヌブ  
リ）（857m）

6時、川湯温泉の硫黄山を見学後、  
「霧の摩周湖」へ向かう。摩周岳は摩周  
湖の右奥にツーンと尖った山だ。今まで  
摩周湖には何度も来たことがあるが、摩  
周岳へ登るのは初めてだ。駐車場脇に登  
山口がある。登山口といってもすぐ登る  
わけではない。むしろしばらくゆっくり  
くだって行くのだ。勝手が違う。標高差  
311mを7・2kmもかけて登るのだ。  
摩周湖畔に沿って歩いているのだが霧で  
湖面はさっぱり見えない。雨は降ってい  
ないがベトベトだから台羽を着てのやぶ  
酒さだ。

ササに混じり背丈を超すエゾシモツケ  
ソウの群生が目を引く。各合目の標識は  
無いが、所どころ頂上まで何々という表  
示がある。西別岳の分岐まで3ヶ所のビー  
クがある。ササが低くなる所では、チン  
マアザミ・ヨツバヒヨドリ・ウツボグサ・

シオガマグク・エゾチドリなど、本州で  
はあまり見かけない花も登場。また白樺  
の林立も美しい。

西別岳の分岐から頂上まで徐々に登り  
にかかる。カルデラ湖の摩周湖は水を湛  
えて神秘的だが、摩周岳の真下にもお椀  
の底のような噴火の跡がある。水は全く  
無く大きくえぐられた底は緑の原生林が  
広がっている。その火口壁に立つと垂直  
の壁が崖となっている。崖のコメツツジ  
の白花が儼しさを和らげていた。



北海道の山路図

急な頂上直下を廻り込んで山頂に到着。  
高度感には抜群。足下はスパッと深くえぐ  
られている。涼しい風が吹き上げ、霧の  
切れ間から摩周湖の湖面が見えた時は感  
激。晴れていれば雌阿寒岳・斜里岳も見  
えるそうだが、そこまでは見えなかった。  
頂上の崖上にイワギキョウが紫紺の花び  
らを風になびかせている。涼しい雲のな  
かで昼食の後、元の道をまた延々やぶ漕  
ぎで戻った。

屈斜路湖の展望所、藻琴山へ向かうも  
深い霧で途中であきらめ、  
屈斜路湖畔の観光に切り  
替えた。仁伏温泉「屈斜  
路湖ホテル」で入浴。熱  
めの掛け流し砂利露天風  
呂では湖畔の波がひたひ  
たと音をたてる。400  
円。

湖畔の砂を掘ると熱い  
湯が湧く「砂湯」は観光  
客がいっぱい。さらに足  
をのびして和琴半島を散  
策。天然露天風呂に手を  
浸けて川湯温泉へ戻る。  
大鵬の実家を通りすがり

に見る。小さい店先に相撲グッズが並ん  
でいたが、戸が閉ってひっそり。

清里町の道の駅「パスタランド」で夕  
食。以前ここで入浴したことがある。駐  
車場で車泊の段取りをして車の中へ落ち  
着いた途端、どしゃ降りの雨が降ってき  
た。明け方まで続いた。

▲参考タイム▼  
第一展望台8・00―西別岳分岐10・15―  
30―摩周岳11・10（昼食）11・40―西別  
岳分岐12・15―第一展望台14・05（所要  
6時間5分）

8月1日（曇り） 斜里岳（1547m）  
あれだけ降っていた雨も上がり、6時  
にはこれから登る斜里岳の鋭峰がすつき  
り見え、早くおいでと呼んでいる。

登山口の「旧・清岳荘」は98年に火災  
に遭い、今年5月から元の場所より70  
0m程手前に鉄筋コンクリートに立て替  
えられて営業している。駐車場も広々。  
斜里岳は滑らないナメ流の中を登って  
いくおもしろい山だが、今回はおもしろ  
いだけではすまなかった。前夜のおもしろ  
降りにより、ナメ流はもちろん下二保ま  
での潮行が本格的な波渉となっていた。





阿寒富士にて

八合目からまた雲のなか、雌阿寒岳を  
目指してゆっくり登る。火口壁の緑を歩  
いているのだが白一色の世界。おまけに  
噴き上がる硫黄ガスも混じり、地球の吐  
き出す呼吸を共にする。

樹木も草も一切ない雌阿寒岳の頂上は、  
高さ1・2位の台形の方位盤がその目  
印だ。ロープの奥は火口壁の絶壁だ。  
ゴッゴと噴煙の音がしている。野中温  
泉側から30人位の団体さんが上がって来  
た。

野中温泉側へ下りる。ガスと風を避け、  
九合目へ下りてから昼食をとった。ここ

は青空の下、緑、緑の下界が広がって  
いる。大きな岩が重なる八・七合目を過ぎ  
るとハイマツ越しにオンネトール湖がコバ  
ルトブルーで光っていた。四合目からの  
ハイマツ帯は以前はトンネル状だったが、  
かなり刈られて広く明るくなっている。  
三合目から登山口までは大木の樹林帯だ。  
午後、オンネトール湖からはくっきりと阿  
寒富士と雌阿寒岳が並んでいた。

旅館「景福」で汗を流す(宿泊者は無  
料)。阿寒湖へ向かう。ホテルやみやげ  
物店の町並を散策。おいしい富良野メロ  
ンを賞味。アイヌコタンで木彫りや熊の  
剥製を見て楽しむ。北海道ならではの雰  
囲気だ。

阿寒湖遊覧船に乗りマリモ見学。直径  
6mの玉になるのに150年かかるとい  
うから気の遠くなるような話だ。船上か  
ら雌阿寒岳がくっきりと男性的だ。雌阿  
寒岳は遠くに頭を雲に隠していた。

弟子屈町から川湯温泉の相模記念公園  
(大鵬の出身地)に行き、車泊。周りのシ  
ナノキから花の甘い香りが降り注ぎ、心  
地よい眠りに誘われた。

▲参考タイム▼  
オンネトール湖キャンプ場登山口8・00―

八合目分岐10・30―40―阿寒富士11・15  
30―八合目分岐11・50―雌阿寒岳12・  
15―25―九合目12・30(昼食)13・00―  
野中温泉14・30(所要6時間30分)

7月31日(曇り) 摩周岳(カムイヌブ  
リ)(857m)

6時、川湯温泉の硫黄山を見学後、  
「霧の摩周湖」へ向かう。摩周岳は摩周  
湖の右奥にツーンと尖った山だ。今まで  
摩周湖には何度も来たことがあるが、摩  
周岳へ登るのは初めてだ。駐車場脇に登  
山口がある。登山口といってもすぐ登る  
わけではない。むしろしばらくゆっくり  
くだって行くのだ。勝手が違う。標高差  
311mを7・2kmもかけて登るのだ。  
摩周湖畔に沿って歩いているのだが霧で  
湖面はさっぱり見えない。雨は降ってい  
ないがベトベトだから台羽を着てのやぶ  
酒さだ。

ササに混じり背丈を超すエゾシモツケ  
ソウの群生が目を引く。各合目の標識は  
無いが、所どころ頂上まで何々という表  
示がある。西別岳の分岐まで3ヶ所のビー  
クがある。ササが低くなる所では、チン  
マアザミ・ヨツバヒヨドリ・ウツボグサ・

シオガマグク・エゾチドリなど、本州で  
はあまり見かけない花も登場。また白樺  
の林立も美しい。

西別岳の分岐から頂上まで徐々に登り  
にかかる。カルデラ湖の摩周湖は水を湛  
えて神秘的だが、摩周岳の真下にもお椀  
の底のような噴火の跡がある。水は全く  
無く大きくえぐられた底は緑の原生林が  
広がっている。その火口壁に立つと垂直  
の壁が崖となっている。崖のコメツツジ  
の白花が儼しさを和らげていた。



急な頂上直下を廻り込んで山頂に到着。  
高度感には抜群。足下はスパッと深くえぐ  
られている。涼しい風が吹き上げ、霧の  
切れ間から摩周湖の湖面が見えた時は感  
激。晴れていれば雌阿寒岳・斜里岳も見  
えるそうだが、そこまでは見えなかった。  
頂上の崖上にイワギキョウが紫紺の花び  
らを風になびかせている。涼しい雲のな  
かで昼食の後、元の道をまた延々やぶ漕  
ぎで戻った。

屈斜路湖の展望所、藻琴山へ向かうも  
深い霧で途中であきらめ、  
屈斜路湖畔の観光に切り  
替えた。仁伏温泉「屈斜  
路湖ホテル」で入浴。熱  
めの掛け流し砂利露天風  
呂では湖畔の波がひたひ  
たと音をたてる。400  
円。

湖畔の砂を掘ると熱い  
湯が湧く「砂湯」は観光  
客がいっぱい。さらに足  
をのびして和琴半島を散  
策。天然露天風呂に手を  
浸けて川湯温泉へ戻る。  
大鵬の実家を通りすがり  
に見る。小さい店先に相模グッズが並ん  
でいたが、戸が閉ってひっそり。  
清里町の道の駅「ババスタンド」で夕  
食。以前ここで入浴したことがある。駐  
車場で車泊の段取りをして車の中へ落ち  
着いた途端、どしゃ降りの雨が降ってき  
た。明け方まで続いた。

▲参考タイム▼  
第一展望台8・00―西別岳分岐10・15―  
30―摩周岳11・10(昼食)11・40―西別  
岳分岐12・15―第一展望台14・05(所要  
6時間5分)

8月1日(曇り) 斜里岳(1547m)  
あれだけ降っていた雨も上がり、6時  
にはこれから登る斜里岳の鋭峰がすつき  
り見え、早くおいでと呼んでいる。

登山口の「旧・清岳荘」は98年に火災  
に遭い、今年5月から元の場所より70  
0m程手前に鉄筋コンクリートに立て替  
えられて営業している。駐車場も広々。  
斜里岳は滑らないナメ流の中を登って  
いくおもしろい山だが、今回はおもしろ  
いだけではすまなかった。前夜のおもしろ  
降りにより、ナメ流はもろろ下二保ま  
での潮行が本格的な渡渉となっていた。







「ここからは国後島がすぐ近くに見える  
て雄大ですよ」と、前回頂上で会った人  
が言っていたので期待していたのだが今  
回も見えなかった。

ハイマツ帯へ戻ったらず供達が風を避  
けて昼食をとっていた。「おお、ここが  
いいなあ」と言っていて自分達もそこで昼食  
とした。気温が高くないのでホテルで買っ  
たビールを持参。今回の北海道登山紀行  
の締め括りに「ご苦労さん」と喉をうる  
おした。

羅臼平から大沢の雪渓下り。銀冷水、  
極楽平、弥三吉水、オホーツク展望所、  
木下小屋へとくだるにしたがい天候は回  
復。真冬は流水で埋めつくされるオホー  
ツク海も、今は穏やかに豊かに知床半島  
を抱いていた。

#### ▲参考タイム▼

登山口7・40―弥三吉水8・55―9・07  
―羅臼平10・40―羅臼岳口・30―羅臼平  
の上のハイマツの中12・10(昼食)12・  
40―弥三吉水13・45―登山口14・40(所  
要7時間)

5日間連日の登山をし、体は戸戸戸  
(へとへと)になった。

午後は戸戸戸の体を癒すべくカムイ  
ワッカ湯の湯で遊ぶ。知床五湖より奥は  
マイカー規制でバスのみの運行。エゾ鹿  
が何度も飛び出し、バスは鹿の往來を待  
つ。

カムイワッカ湯の湯は斜里岳のナメ流  
登りに似て、幅広い湯の川の岩を渡るの  
だ。20分も濡ると突然滝壺が現れる。カ  
ムイワッカとは「神の水」とか。これも  
まさしく神の成せる業。泉温は39度位で  
ちょうどよい。硫黄の混じる炭酸泉のよ  
うだ。うーっ効くーっ、これぞ最高の温  
泉だーっ!

脱衣場などもちろんない。男も女もそ  
の場ですっばんぼん。いや、ちゃんとな  
んな水着を用意している。自然に抱か  
れて神の恵みを五体で感ずる。

世界自然遺産は当然だ。世界に誇れる  
自然だ。六ヶ国協議も、サミット会議も、  
イランもイラクもみーんなお出で!こ  
こで皆で入浴したら世界から戦争はな  
くなるよ!

知床峠から羅臼町へくだる。羅臼温泉  
登山口の前に無料の露天風呂「熊の湯」  
がある。利用者は大半は旅行者だが、地  
元の愛好会が管理していて、脱衣場に10

ヶ条が掲げられている。入浴している半分以  
上の人の賛成がなければ水を埋めてはい  
けない。さっと入ってさっと帰るような  
者は入る資格がない。等々……。一徹な  
10ヶ条の通り、地元のボスがへやれ下を  
洗ったとか、アチーイと声を上げると、  
黙って入れ」とばかり自配せをする。何  
とも心底温まる温泉だった。

羅臼町の食堂で夕食。その間に大雨に  
なった。食堂は民宿もやっているののでこ  
こで投宿した。

#### 8月3日(曇り)

海猫の鳴き声で目が覚めた。豪快漁師  
料理の朝食は高級ホテルの夕食かと思っ  
たほど、量も中身もデラックス。食べ切れ  
ないものは昼食用に回した。

夏の北海道で忘れてならない観光地は、  
富良野のラベンダー畑。ラベンダーの香  
りと味(ソフトクリーム)も堪能して船の  
人となる。道内での走行距離は1500  
だった。

#### 8月4日(晴れ)

涼しかった北海道。能登半島辺りから  
暑い暑い夏へと戻ったのである。

## 静かな池を取り囲む

# 国東山と大日山

## 山形 明

## 伊勢

「冬の陽だまりのなか、森のなかを1  
人さすらっていた」と書けば格好いいが、  
いわば山中で迷ったのだ。国東山の先の  
尾根上にある三角点を探し廻り、やっと  
見つけた後、反対側へ下りてしまい、途  
方にくれてしまった。地形図を持たない  
登山、低山とあなどるなかれ。山は山、  
街は街である。

三重県度会郡北部に位置する国東山は  
伊勢の山らしく、国を束ねる山なのだ。  
前日に新ハイ例会「牛草山登山」に参加  
した後、近くにあるこの山を訪ねてみた。  
大久保集落から砂利道を山の麓の国東  
寺まで車で入り、寺の裏手から山道に入  
る。山道を丁目毎の石仏に導かれて登る

と、山頂直下の木々に囲まれた広大な台  
地に出た。昔、国東寺が建っていた跡で、  
今は墓石が残るだけである。

国東寺はおよそ1400年前、聖徳太  
師が皇大神宮の神勅にしたがい、伊勢神  
宮の真西の地に、天照大神と素戔嗚尊  
の胸衣を納めた所だ。その後、平安から  
鎌倉時代にかけて大道場として栄え、六  
堂伽藍と百三十二坊を数える伊勢有数の  
古刹として明治の始めまで信仰を集めた  
そうだ。明治の廃仏毀釈により当寺も衰  
微を余儀なくされ、戦後一部の建物を、  
空襲で伽藍を失った大阪の四天王寺に移  
し、国東寺は山麓へ移築されたそうだ。  
伽藍跡の裏手を登ると木々に囲まれた

牧戸池から国東山



国東山(411m)山頂で、白山社の石  
碑が建っている。山頂から先の二本の尾  
根上やぶのなか、三角点を探すが見つか  
らず、寺跡へ戻る途中支尾根を見つけ、  
行ってみると小さなピークがあり、そこ  
に2等三角点と見越山との小さな山名板  
があった。そこから先、尾根は二本に分  
かれ右の尾根を50分ほど行き、天然記念  
物の檜の大樹を見て引き返す。途中、三





大日山山頂

1ヶ月半後、登り損なった山を再度訪ねてみた。  
今回は先に大日山に登り、二つの池を経て国東山に至る。そこから熊野古道(伊勢路)の女鬼峠へくだる計画で、地図持参の登山だ。牧戸バス停から北へ向かう道に入ると、その先に大日山が見える。道のふくらんだ所に車を置き、作業小屋の横を通り山道に入る。この大日山は伊

勢富士、浅間山などと呼ばれ、人々に崇められてきた浅間信仰の色濃い山である。よく踏まれた道の両側にはショウジョウバカマが多く咲き、西側からの道と合流してしばらくで山頂(302.8m)に着いた。山頂には祠があり石仏が祀られ、三角点は3等である。樹林に囲まれ眺望は無い。

頂上から北西の尾根をくだるが急下降が続く樹林のなか、一気にくだって林道に出る。牧戸池の堰堤を渡りやぶの急斜面を這い上がって堤右岸の林道に出る。林道は平生村池堰堤までのびており、そこから山道に入り池沿いの水平道を行う。ショウジョウバカマの咲く道の道で、池には多くの水鳥が遊び全く人気が無く静かだ。池に流れ込む沢を渡り、沢沿いの道を行くが水が無くなる頃、この道も消える。地図にある破線の道も、どれを登ってもしばらくでやぶに消える。仕事道のような。沢から離れてやぶの斜面を這い上がると稜線に出たが、稜線上もやぶだ。

この尾根を西南に登ると北からの参道に出て、さらに登ると国東山山頂に出た。さらに三角点峰に登り返し、そこから西へ

▲コースタイム▼  
国東山(1時間) 大日山(40分) 牧戸池堰堤(2時間) 国東山(1時間10分) 女鬼峠(30分) 東相瀬瀬集落  
△地形図▽2万5千Ⅱ国東山

途中、開けた所があり浅間山・三谷山・七洞山・獅子ヶ岳が見えるが、この日は一日中黄砂が飛び交い山影もぼんやりしている。  
東相瀬瀬集落に出て、県道を坂井バス停まで歩き、1時間に一本のバスに乗り、牧戸へ戻った。  
(平成19年4月2日歩く)



国東山・大日山付近略図

▲コースタイム▼  
国東山(50分) 国東山(20分) 三角点峰(1時間) 弘法温泉  
△地形図▽2万5千Ⅱ国東山

(平成19年2月18日歩く)

人気商品紹介  
◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店  
**神戸ザック**  
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのザックです。

☆26/☆  
・カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー  
・カラー ファイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー  
・重さ 820g  
・素材 ナイロンU・リップ  
・価格 ¥10,500

イモック山遊行くらぶ  
秋の山行予定  
●9月初旬、北ア・碓氷  
●11月下旬、屋久島登山  
詳細はお問合せ下さい。

イモック山遊行くらぶ  
IMOCK.  
KOBÉ  
〒653-0225 神戸市長田区日本町1丁目2F  
カナンビル2F  
TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528  
営業時間/10:00-20:00 日曜日も受付



新ハイ関西95号  
標高△△95mの山

小谷山 (495m) 湖北  
 ゴンニヤク (1095m) 美濃  
 広河内岳 (2895m) 南アルプス  
 寒江山 (1695m) 朝日連峰

小谷山

標高500mに足らずの低い山だが、日中が短い12月の日帰りの山ならば、単独のんびり山行にはちょうどいいと思っ

て出かけた。  
 9時にJR河毛駅に着いた。京都はよく晴れていたのに、さすがに湖北はどんよりと曇っている。駅前には先陣人気のあったテレビドラマにあやかって、浅井長政とお市の方を描いた飾り付けで町おこしをわらっているような風情だった。  
 河毛の集落を抜け北陸自動車道の下をくぐり抜けると、小谷山の麓の郡上集落

に入った。魅力的な家並を通り過ぎて清水谷の小桥を渡る。少し上流へ歩いた所で登山口の標識を見つけた。

細道を登ると車道にも出たが、尾根通しに登って小谷城址の各跡地の名前や由来説明などに次々と出会いながらの道となった。よく歴史のロマンと言う人がいるが、私はここで斬り合いがあり、血が飛び散って、うめき声が山にこだまし、憎悪の感情が渦巻いた人間の負の修羅場を思い浮かべた。実際に暗くて陰惨な雰囲気だ。折しも雪が舞い始め、遠く過ぎ去った時代を思うのに演出効果満点だった。  
 跡地を過ぎると、ごく普通の里山の姿

ゴンニヤク

人工的な痕跡が少なく、草木の緑からあふれる潤沢な自然の優しさに包まれた山だった。

岐阜新聞社が出した「続・ぎふ百山」に載っているのを参考にして「門原」と「上ヶ瀬」の地形図を広げ、その境にある三角点1095・3m付近を眺める。広葉樹林の印が多くゆるやかな地形から想像して、赤布を持って行けばたどり着けそうかと思いい、三宅さんと田邊さんと私の3人で出かけた。  
 前夜は郡上八幡の北の郡上十六和から県



道52号線に入り、金山の手前の峠広場にテントを張った。当日の朝、関市(旧板取村)と郡上市(旧大和町)の境の峠に上  
 がって東南方向へ続いている林道に入った。その林道がもう一度市境に変わる所の三叉路にゲートがあり、車を止めた。  
 車の来ない広い林道を歩き出す。ねぎ谷出合は林道の三叉路で、ねぎ谷の源流に向かって林道風の、草が茂り始めた広い道をゆるやかに登る。  
 周りは下草が適度に茂って緑、また緑の雑木林。すばらしい緑滴る道だ。踏み跡となって源頭を左俣に入り登りつめると、小さな沼のある稜線に出た。三角点はそこからほんのひと登りだった。  
 (平成14年5月12日歩く)

寒江山

朝日連峰は一度しか行ってないが、2日目の鳥原小屋を出発した1時間ほどだけがいい天気、あとはずっと霧や雨だった。そんななかを大朝日岳から以東岳まで歩いたが、花が美しくて印象の良い思い出が多く残っている。



ヤブレガサ

広河内岳

久しぶりに白峰三山を歩いた時、農鳥小屋から農鳥岳を経て大門沢へくだる前に、初めて広河内岳に寄ってみた。  
 たいして景色は変化しないとわかっていたが、白峰南嶺の広々とした尾根が足

寒江山

その中でも寒江山付近が最も美しい所で、その北側の狐穴小屋の美しかったことと相俟って、朝日連峰の楽しかった思い出の中心部となっている。  
 (平成10年7月30日歩く)



下の町バス停発、能見口バス停着

## 天狗峠往復

小山誠次

### 京都北山

今回の山行は比良山系を離れて、下の町バス停からワサ谷を経て小野村割岳に登り、尾根筋をピーク951直下までたどり、そこからさらに尾根筋をピーク927、ピーク921を経て天狗峠に到り、同じ道を引き返してピーク951まで戻り、コウンド谷を経て能見口バス停に帰着する予定である。

コース的にも厳しく、また公共交通機関を利用するので、時間的にも7時間40分しかない。そのため、十分すぎるほどに下調べをし、昼食タイムは設定できないことになった。歩き食いのみである。平成18年9月30日の前日の天気予報では、京都府南部の降水確率は午前0%・

午後10%、晴れのち曇り、京都府北部と滋賀県全域は午前・午後共0%である。当日朝になると、京都府南北共、午前10%・午後0%で晴れ時々曇り、南部の最高気温は28度とのことである。

7時50分出町柳発広河原行き京都バスは定刻に発車した。5分前に発車したいつもの馴染みの朽木学校行きは、立ち席の人がそこそこあったが、こちらは4分の1ぐらゐの乗車率である。

上空は青天の中に巻雲が広がっていて、一部に巻積雲も現れている。川端通りはヒガンバナが満開で、賀茂川辺ではセイタカアワダチソウがわずかに黄色くなりつつある。気持ちのいい山行日和だ。

(写真1) 小野村割岳から望むピーク951 (中央の高み)



この路線は狭い公道を通過するので、バス誘導のための京都バス職員がいつも4人で担当する。このバスにも3人が乗り込んでいて、それぞれの誘導地点で勤務に就く。御苦労様と言いたい。鞍馬温泉からグリーンスリープスの曲を流しながらの運行も悪くない。

花背の里では、ほとんど稲刈りが終わり、スキが真っ盛りのなか、コスモス

も満開、川辺のオタカラコウの黄色い花もよく目立つ。今朝方のニュースでは、大雪山系で紅葉が盛んとのことだが、花背山の家あたりでは一部だけ紅葉が見られた。

9時39分、定刻より3分早く下の町バス停着。準備を整えて、4分後にバス停右側のワサ谷林道を出発した。林道入口

はアキチョウジが生い茂り、少し歩くと最初の鎖によるゲートがある。以前はここを車でも通行できたはずである。さらに36分後、本来の鉄扉によるゲートに到着した。標高594mと地形図では表示されている。

トチの木の殻だけがやたらに落ちていて、間もなくコンクリート製の

の橋を渡り、傾斜が最も急な石のゴロゴロした歩きにくい道を辛抱すると、突然目の前に滝が出現した。ここで標高750mである。4分間の休憩をとり、写真を撮った。

さらに石のゴロゴロした道をたどると、左側に展望されてくる。遠方に望む山は品谷山であろう。間もなく左右の分岐路に到るが、躊躇せず左側の道を選ぶ。もう少し進むと、ようやく平坦、やや下りの林道となり、ついに林道終点の小広場に到着した。標高870mである。

これからやっとな道を歩くことになる。小さな溪流を渡ると、すぐロープの設置された急坂になる。本月初めての山道らしき道を楽しむ心境である。と思う間もなく、わずか12分後に小野村割岳に到着した。11時16分である。

一般的にはここでゆっくり休憩するのであるが、本日はそんな余裕はない。3等三角点にタッチし、水分補給してひと息ついただけで、アンパンを片手にピーク951直下を目指して出発した。

小野村割岳から東に10分程度進んだ所からは、南東にピーク951が遠望できる(写真1)。ここから直線距離で約1・2







(写真2) 巨大な台杉

である。コンパスを首からぶら下げて、南東尾根を注意深くたどり始める。この尾根上には比較的大きな台杉が多い。

カズラ谷乗越でいったんくだった後にまた登るが、その後は比較的アップダウンは少なく、コンパスと踏み跡を頼りにピーク951直下までやって来た。前方には広い平坦な尾根上に小高くピーク951が見える。

一方、左手前方には天狗峠へと続く尾根が同定できる。目前の黄色いテープに

は天狗峠を示す矢印も認められる。ここから本日メインイベントである。先ずはピーク927を目標とする。大体の位置はここから北東に約1kmである。

出発して2分後、巨大な台杉を発見した(写真2)。白倉中岳頂上の台杉に勝るとも劣らない。しかも、根元は向こう側に通じている。ゆっくり潜っている時間はないので、観察だけに留めて先を急ぐ。このコースでは、実は細い踏み跡がアチコチに残っている。というのも、森本次男著『京都北山と丹波高原』(昭和13年発行)の由良川源流図にも歩道として記載されているからである。現在では、本日の小野村割岳からのコースは、京都市左京区と南丹市(旧美山町)の境界上を主に歩くことになる。

ピーク927に近づくと、右手前方にフカンド山から続く尾根が視界に入ってきた。ピークの直前にはクマザサと一部ネマガリダケが繁茂し、やぶ漕ぎとなった。今までは、クマザサが疎らに生えていることが多かったのに、この地点は特異である。やぶを通過した後、9分間休憩とした。

ピーク927をくぐって北方に向かう

00mの尾根歩きだ。もう少しだ。途中から傾斜が増し、目前のこんもりした頂上地点に到達すると、右手の樹木に天狗峠928mの札が掲げられている(写真3)。

ここでゆっくり昼食休憩をとりたいところだが、出発時刻からざっと4時間かかっている。復路のほうが難路なので、同じく4時間と概算すれば、帰りのバスに乗り遅れてしまうことになる。急がないといけない。飲水してひと息ついてから、ジャムパンを片手に、先の由良川源流図にある天狗峠から七瀬谷に向かう尾根を確認した。再び札の掲げられている頂上に戻り、帰路についた。天狗峠頂上は15分間だけだった。

天狗峠からのやせ尾根をたどって再びピーク900に達し、ここで南方に向きを変え、先程の谷まで一直線にくだる。経ヶ岳のなだらかな山容を再確認する。

ピーク921に向けての標高差70mの直線的な登りにとりかかる。初めての山道は、登りは体力、下りは注意力が必要だと改めて考えながら、15時30分までにピーク951に到着したいと頑張る。

ピーク927の手前で、磁北の西88度

とき、後方を振り返ると、フカンド山に到る尾根道のほうがまっすぐで切り開かれ、今たどって来た道はクマザサがわずかに疎らになっているだけである。帰路は大いに注意しなければいけないと、手持ちのテープでマークしておく。

さて、ここからはやや北方に向くのであるが、ピーク921までの約1kmは、アップダウンはあっても忠実に頂上をたどる。部分的には先の古道跡が溝状に続いているので、利用することにした。この辺りから左手はずっとカズラ谷の源流域である。

ピーク927を出発して24分後にピーク921に到達した。といっても、ここはピークを捲くように古道跡が残っている。ピーク直下の西側で8分間の休憩をとった。残念ながら、本日は尾根からの眺望は、前後左右共あまり期待できそうにない。わずかに木々の枝葉の間から山並が見える程度である。

13時1分にピーク921を出発し、いったん登った後は、標高830mの谷まで直線的に標高差70mをくだることになる。13時10分着。谷からは磁北84度に経ヶ岳が辛うじて眺められる。ここからに小野村割岳を同定することができた(写真4)。確かに地形図上でも、ピーク951稜線を頂点として小野村割岳とピーク927に到る尾根で、二等辺三角形を形成している。

さて、往路に問題視したピーク927であるが、自らのテープでマークしていなければ、間違った尾根を進みかねない。往路と同様にやぶを漕いで、無事元の尾根に戻った。間もなく往路で発見した巨大な台杉に再会し、しばらく抱擁し、数百年の生命に改めて敬意を表した。

ピーク951は、往路に見た広い平坦な尾根上の小高い丘と判断し、直線的にピークを目指した。15時9分、ピーク951を示す木札が懸かっている地点に到達した。ここで5分間の飲水休憩をとり、今度はクリームパンを片手にコウソンド谷を目指す。

ピーク951からは、いったんすぐ西側のもう一つのピークにちょっと向かうので、太陽の光が眩しい。その後、すぐに南下する方向の尾根をたどる。この尾根では、親切なテープのマーキングが導いてくれるので、大助かりである。

標高910mで、進行方向右手直角に

直線距離で約3kmである。

今度は一転して同じく標高差70mに登り、天狗峠手前のピーク900に到達した。ここまで、ピーク921から約1kmである。先述の由良川源流図には、ここから三國岳に到る尾根が歩道として記載されているが、ピークから実際に眺めると、磁北100度はかなりの急斜面をくだることになる。初めて歩くならば、とても尾根上とは思えないくらいである。さて、ピーク900からは北西に約4



(写真3) 天狗峠



# いよいよ 夏山直前で！ 2007年夏山ツアー受付中

弊社山旅のご一部です。他にも多数の国内・海外の山旅をご紹介します。お申し込み。夏、ベストシーズンの山へ！詳しくは弊社総合カタログをご請求ください。

7/15(土)~18(水) 154,000円  
どっぶり花の幌尻岳から戸蔭別岳縦走

**ツアーのポイント** 催行予定  
\*日本百名山・幌尻岳に渡渉コースで登頂。  
\*奥深い日高山脈・戸蔭別岳へ縦走。  
\*特有の高山植物の群落と七つ沼カールの展望。

7/24(火)~26(木) 68,000円  
平日に登る 槍ヶ岳

**ツアーのポイント** 催行予定  
\*登山者憧れの槍ヶ岳に3日間で登頂。  
\*夏山のベストシーズン。混雑を避け平日に。  
\*槍ヶ岳から新穂高温泉に下山。

8/7(火)~10(金) 149,000円  
花の沼ノ原・五色ヶ原からトムラウシ縦走

**ツアーのポイント** 募集中  
\*大好評！カタログに載っていない追加企画。  
\*沼ノ原から五色ヶ原を経てトムラウシへ。  
\*山中は避暑小屋に宿泊する静かな縦走コース。

8/23(木)~27(月) 99,000円  
北アルプス 赤牛岳から読売新道

**ツアーのポイント** 残席僅か  
\*北アルプスの景観、日本2百名山の赤牛岳へ。  
\*秘境高原温泉から読売新道へ縦走。  
\*抜群の展望と歩き応えのある健脚コース。

①9/19(水)~26(水) ②10/17(水)~24(水) 398,000円  
追加設定！ 青蔵鉄道で崑崙山脈を越えるチベットの旅 8日間

**ツアーのポイント**  
\*今話題の世界の屋根を走る人気の高原鉄道に乗車。  
\*中国最大の塩湖・青海湖も訪れます。  
\*ラサキ観光はもちろん、ヤムドゥク湖も訪れます。



見ごたえたっぷり国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登山ツアーまで幅広い商品をご用意しています。見るだけで楽しいオールカラー152ページのポロリューム。そして、これから登山やハイキングを始めの方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。送料・本体ともに無料でお届けしております。どうぞお気軽にご請求ください。



お電話 おはがき FAX・HP にて **送料・本体共に無料です。お気軽にご請求下さい！**

## 大好きな自然の中で働いてみませんか！ 山岳添乗員・山岳ガイド大募集

山岳専門旅行社アミューストラベルでは夏山の繁忙期に向けてツアーのお手伝いをしてくれる方を募集しています。自分のペースで、大好きな山の中で働いてみませんか？ご興味をお持ちの方は一度お問合せください。男女 & 年齢不問、登山リーダー経験者優遇、詳しくは下記までお問合せ下さい。

**アミューストラベル株式会社** 国土交通大臣登録旅行業第1356号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階  
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [amtosafamuse-travel.co.jp](mailto:amtosafamuse-travel.co.jp)  
**06-6456-3366** FAX **06-6456-3377**



(写真4) ピーク927手前から望む小野村割岳

急斜面をコウソク谷源流まで下降する。クマザサを把持し、木々を持ち替えながら踏み跡をジグザグにたどるが、筆者はむしろこういう道は好きである。緊張は強いられるが、おもしろい。といっても、6分後には谷の源頭部に到着した。ここからは水濡れしている狭い谷をくだることになる。道は無いが、谷そのものが道である。途中からは水が出てきたので、滑らないようにルートを遊びながら慎重にくだって行った。たい

した流も無い。源頭部から17分後、ようやく左右両股の合点に到着した。このあたりからは注意すると踏み跡がわかる。何回か渡り返す道をたどって、15時55分、やや小広くなったコウソク谷林道終点に到着した。ここまで帰着すれば、もう帰ったも同じである。この後はゆっくり、のんびりとコウソク谷林道を歩く。さすがに人もあまり通っていないようで、地面は湿地が多く、一面に苔生している。時に狐の鳴き声も落ちてくるので、熊除けの鈴を鳴らしながら光磁口橋に到り、コウソク谷を後にした。後は能見川に沿って、民家の点在する久多峠からのアスファルト道を行く。ヨメナ・ノコンギク・ヒメジョオン・ミソソバ・イヌタバが道端に咲き、時々車やバイクに注意しながら、能見口バス停までゆっくりと32分間、達成感を味わいながらの歩行だった。17時22分刻に、客の乗っていない京都バスに乗り、鞍馬温泉まではアニー・ローリーの曲と共に帰途についた。

昭文社の「京都北山2」地図(1999年)  
昭文社の「京都北山2」(1999年版)  
昭文社「京都北山」(1999年版)

9年感では、コウソク谷源頭部から天狗峠を通過して由良川源流の七瀬谷合出までの往路・復路共、それぞれ12時間と記載されている。とうてい日帰りコースは不可能と即断していたが、それでも天狗峠は筆者の行ってみたい北山の一つだった。それ故、時計と常に相談し、途中からの撤退を覚悟しての単独行は、成功裡に終結した。(平成18年9月30日歩く)

▲コースタイム▼  
下の町バス停(4分) 鎖のゲート(32分) 鉄扉のゲート(15分) 滝(17分) ワサ谷林道終点(12分) 小野村割岳(25分) ピーク951直下(29分) ピーク927(24分) ピーク921(9分) コル(24分) 天狗峠(15分) コル(15分) ピーク921(21分) ピーク927(23分) ピーク951(8分) 910地点(6分) コウソク谷源頭部(17分) 左右両股合出(10分) コウソク谷林道終点(23分) 光磁口橋(32分) 能見口バス停(2万5千円) 久多



## 新ハイ自然観察山行

# 鳥甲山

## 鷺見守康

### 北信越

長野県栄村と新潟県津南町の県境に「秋山郷」と呼ばれる地域がある。

苗場山と鳥甲山に挟まれた、国道405号線沿いに点在する12の集落の総称で、津南町には穴蔵・逆巻・清水川原・結東・見倉・前倉・大赤沢の7つの集落が、栄村には小赤沢・屋敷・上野原・和山・切明の5つの集落がある。

この秋山郷を初めて世に紹介したのは、江戸時代の文人鈴木牧之と伝えられている。牧之は「秋山紀行」のなかで、秋山郷の美しい自然と、素朴な山村の習俗を紹介したという。

山々に囲まれたこの地域は積雪量が日本最多(7月85%)を記録したこともあ

るわが国有効の豪雪地帯であり、また、平家落人伝説の里として、最近まで古い生活様式や風俗習慣が残されていたことから、長く「秘境・秋山郷」として紹介されてきた。現在では、グリーンツーリズムや温泉ブームにのり、自然と民俗の里として知られるようになった。

平成17年12月から翌年1月上旬を中心にした記録的な大雪を降らせた「平成18年豪雪」は、この秋山郷を孤立させ、甚大な被害を及ぼした。この状況は、連日マスコミによって報道され、全国に支援の輪が広がっていった。

この全国的な支援に対し、津南町と栄村は3月に入り、東京で「豪雪支援あり

に下り立ったときには、けっこう疲れを感じていた。

待機していたバスに乗り込んで栄村上野原の公共の宿「のよさの里」を目指した。

「のよさの里」という名称は、この地方で歌い継がれる民謡「のよさ節」に由来している。「おらうちちの衆は嫁をとることノヨサ忘れたか」と歌われる「のよさ節」は、秋の実りを見て、嫁をとるかどうかを考えるほど厳しい暮らしを表現する、哀調に満ちた民謡である。

建物は茅葺き屋根の本家と、400坪の長さの廊下で結ばれた分家が七戸ある。宿泊棟となる分家は八畳と四畳半の和室と囲炉裏があり、当時の暮らしを再現しているという。

バスが上野原に近づくと、苗場山からはガスで見えなかった鳥甲山の

「のよさの里」から仰ぐ鳥甲山



がとうキャンペーン」を共同開催したが、それは同時に観光・秋山郷復活のアピールでもあったようだ。

私が8月例会山行に苗場山と鳥甲山を選んだのはこの頃だった。

毎年続けてきた夏の日本アルプス山行にも一区切りをつけ、他の山岳へと関心が移っていた。また、以前から多勢でお金を落とすことになる宿泊山行では、で

雄姿が眼前に立ちほだかった。夏でも雪が残る鳥甲山は、第二の谷川岳ともいわれ、岩壁は荒々しくて険しく、怪鳥が羽を広げたような、人を寄せつけない荘厳さを漂わせている。

実は、行く先を秋山郷と決めてから山を探した私は、新ハイ誌上でグレイドを「一般向き」と案内してしまっただ。申し込み葉書が集まってから鳥甲山を調べるにつれ、「一般向き」とはとうてい言えないことがわかり、困り果ててしまったのだった。いくら何でも黙っているわけにはいかず、山行の2週間ほど前にグレイドを「やや健脚向き」と訂正のうえ、例えば戸隠山のような山です、と案内し、改めて参加の意志を確認した。

取りやめた人が数人いた。「覚悟して参加します」と応じる人もいた。「私で行けるでしょうか」という問い合わせには「戸隠山とか愛蔵連峰を歩いた方なら心配していません」と答えるしかなかった。

そんないきさつがあり、宿から目の前にそびえる鳥甲山の迫力に、この日、メンバーの胸には緊張感が高まった。翌朝の出発が早いこともあって、恒例の「反

きることなら、苦境のなかで観光客を心待ちにしている地域に行ってみたいという思いを強く抱いていた。そんなことから、まず行く先を「秋山郷」と決め、それから登る山を探すこととなった次第である。

鳥甲山山行の前日は、越後湯沢から苗場山に登り、栄村の小赤沢に下山した。越後湯沢の和田小屋からの道はゆるやかに登りやすかったが、小赤沢道は段差が大きな急坂の連続で歩きにくく、三合目



鳥甲山付近略図





箱庭のような秋山郷

主稜線にたどり着いてほっとした。パーティメンバ―の気持ちにもゆとりが生じたのか、冗談も出る。  
しかし、主稜線には大部分が左右絶壁となっており、油断はできない。1時間ほどしてカミソリ岩に到着。  
戸隠山の「蟻の戸渡り」と同様に極端にやせた道だが、手がかりとなる樹木があるので、恐ろしさはない。ここを通過

し、大きな岩場の下の壁を40分ほどトラバースした。次の岩場は捲き道となり、途中、直角に下降し、コルから振り返り仰ぐと、急峻な岩場がそびえている。  
山頂へは、さらにアップダウンを繰り返し、やがて草付きの急登を登る。屋敷からの道を合わせて、11時半、鳥甲山(2037・6m)頂上に到着した。  
頂上は、標識と三角点があるだけの狭い場所だった。迫力のある山岳からするとあまりにも平凡で拍子抜けし、「写真撮影の済んだ人から先に進みます」と宣言して立ち去った。  
昼食は、屋敷コースを少しくだり、草付きの斜面に坐り込んでとった。かなり暑さにまいていたので、冷えたビールが体にしみこんだ。  
30分ほどの休憩後、屋敷登山口へ下山を開始。  
赤山の頭で展望が開け、鳥甲の壮大な岩壁と裾野に広がるブナ林、そして、箱庭のような秋山郷の景観がすばらしくかった。この秋山郷の叙情あふれる景観は、鳥甲に登った者にしか目にする事はできないだろうと思つた。  
赤山の頭から続く尾根は長大である。

- ▲コースタイム▼
- 栄村宿5・30(バス)ムジナ平登山口6・05
  - 10―尾根7・10
  - 20―万仏岩7・30
  - 50―白雲の頭9・35
  - 50―カミソリ岩10・35
  - 鳥甲山11・25
  - 35―分岐下11・40(昼食)
  - 12・10―屋敷登山口15・30
  - 45(バス)栄村宿16・00(泊)

比較的確やかな尾根は先端で段差の大きな急坂となり、膝をガクガクさせながら一気にくだって行った。  
最後の屋敷登山口付近のぬかるみで足をとられて転がった人はいいたが、幸いに怪我もなく、全員が無事に縦走できた。  
炎暑のなか挑んだ鳥甲山は半端な山ではなかった。19人中14人が完登したが、14人全員、疲れ果てて下山だった。  
これまで自然観察山行に何回も同行しているバスの運転手さんは「こんなに疲れた姿の鷺見さんは初めて見た」と驚いていた。(平成18年8月19日歩く)



赤山の頭付近から望む鳥甲山

「省会」も省略し、早々に床に就いたのだった。

翌日、宿の朝食も断り、5時半に出発した。およそ30分後にムジナ平登山口に到着。登山口の広場には車が一台駐車していた。

バスは、私たちを降ろすとひとまず宿に帰り、時間を見計らって下山予定の屋

敷登山口付近に待機する手筈だが、運転手には、屋敷登山口の前にいったんムジナ平登山口に立ち寄ってくれるよう依頼した。縦走をとりやめて戻る可能性もあるからだ。  
私が心配したのは、体力の消耗だった。万仏岩とかカミソリ岩などの難所は、戸隠山の「蟻の戸渡り」を想定すればいいけれど、炎暑のなか「白雲の頭」までの登高はかなり辛いものとなるに違いない。夏に計画したことを半分後悔していたが、こうなれば、行動時間をたっぷり確保するしかない。10時間ほどかけてゆっくり歩くことにしていた。  
準備運動をして6時過ぎに出発。スギの植林地を過ぎ、ブナ林に入ると急登となる。ブナ林の林床にはブナの芽生えの双葉が夥しい。直登の道はひと息つく間もなく、体調の悪い人は降り落とされってしまうような厳しさである。

1時間かけて尾根に達し、休憩。ここから白雲の頭までの急登が本日のもっとも苦しいコースであるが、ここで体調の悪い数人が登高を断念、サブリーダーの仲谷さんが付き添って下山した。  
最初の難所である万仏岩の手前で、通

過に時間を要することを考慮し、後に着いていた3人パーティに道を譲ろうとしたが、先に行ってくれ、と言う。  
万仏岩にはアルミのハシゴが設置されているが、下部が固定されておらず、いわば縄梯子のようなものである。ともすれば、その不安定さに目を奪われがちだが、ハシゴを登り切った地点のほうがむしろ危険であった。高度感にバランスを失いそうになる。  
右に赤山の頭や岩壁を望み、両側が切れ落ちた、胸を突く険しいやせ尾根を全身運動で攀じ登り、慎重に進む。緊張感に満ちた体力勝負だ。

やがて、私の両足のふくらはぎの筋肉がビクビクと震えだしてきた。Kさんから薬をもらい、応急処置をし、いつ塵埃を起すかわからない不安と闘いながら、一歩一歩でいいいに足を運んだ。  
白雲の頭まで、にせピークが数回あることは承知していたので、精神的な苦しさはなかったが、暑さが身にこたえた。  
9時半過ぎ、白雲の頭に達した。樹林下で見晴らしも無く、標識が無ければ気づかず通過してしまうような場所であり、いささかガッカリしたが、とりあえず、



# 横根三山

長谷川 雅俊

鈴鹿

久しぶりに、時山へ向かう。仕事が早く終わったので名古屋の自宅を21時10分に出発。時山の駐車場に22時30分到着。民家の明かりもすでに消えていて、このあたりの人々の早起きがうかがわれる。朝4時起床、まだ真っ暗だ。仕度を済ませて4時37分、ヘッドライトを点灯して出発。すぐに牧田川の橋を渡り、左折して右岸を進むと、お地藏さんがまつてあるので、今日1日の安全山行を祈願してから歩き出す。突き当たりを右折すると、すぐ左手に新しく出来たワサビ田(実験用の小さな水耕栽培)があり、右手にはお墓があるので足早に通り過ぎる。この道はアンゾ谷の左岸になり、通常はこ

の道から三国岳に登るのだが、この時期のアンゾ谷はむちゃくちゃヒルが多いので、すぐに右手の尾根にのる。

皆さんご存知だと思うが、鈴鹿の山中では、春から秋にかけてヤマビルが出没する。特にこのアンゾ谷と治田峠への青川はヒルの巣窟で有名で、特に雨の日に入山すると大変なことになる。次から次へと襲ってきて、ちぎっては投げちぎっては投げを繰り返しても、とても間に合わず、上からも知らないうちに取り付いて、顔中まっ赤かになり、高速道路の料金所のおじさんが腰を抜かしたこともあったほどだ。

そんなわけで、なるべく隠便にという

度もお気に入り撮れていない。果たして今日はどうでしょうか?

まだ薄暗いのでちゃんと撮れるか心配だったが、案の定、絞りをF11にしたらISO1600でもシャッタースピードは1秒になってしまった。三脚無しで大

丈夫かな……とにかくブレないように、カメラを木に押さえつけて撮ることにする。多少は時間と共に明るくな

てくるので、ISOを1600→800→640と修正していくが、シャッタースピードも0.5秒→0.3秒→0.2秒と短かくなっていった。後でパソコンで見ても、けっこう撮れていて、手前の木の葉だけがブレていておもしろそうな写真になっていた。

さてこの池の名前だが、琵琶湖に似ているから琵琶池とも呼ばれ

ダイラの池



ことで、今日は尾根伝いで行くことにする(何と軟弱な!)。植林された登りやすい急な斜面を尾根筋に沿いながら登って行くがすぐに息が切れる。250度→195度→220度と進み5時07分、445分ヘッドライトを消す。すぐに鳥が鳴きだし風が出てくる。いつもの夜明けのバターンだ。

5時24分、540分植林帯から二次

ているが、「山想山歩の集い」を主催されている加藤規四夫氏がダイラの池と呼ばれていたもので、小生もそう呼んでいる。

6時17分、池から歩き出す。そのまま尾根筋を登れば手取り早いのだが、趣もなく楽しくないので、今日は尾根筋をはずれてダイラの方へ向かう。この斜面は、西尾寿一氏の本に書いてある、ダイラ北部一帯で採れたマンガン鉱を時山へ運ぶためのソリ道かもしれない。

570分左手下方を小鹿が走っていった。6時30分、565分斜面が平坦になり、植林帯に入ると右手に大きな炭焼き窯跡が現れる。ここがダイラの入り口である。まっすぐ歩けばすぐに植林帯を抜け、ダイラ特有の二次林の森となるが、このあたりはワサビ谷の源流部である。

アンゾ谷をたどって行くと、サンヤ、現役の炭焼き小屋を過ぎ、現在は使われていない大きなワサビ田に出る。登山道は左手の尾根をトラバースするのだが、ワサビ田の所で右から合流するワサビ谷をたどれば、このダイラの北部に到達できる。このルートは昔の袖道で現在は廃道になっていて、所どころに痕跡を留めているだけである。そういうえばヤマケイの



林が変わる。595分で斜面が台地状となり、5時45分、615分で最初の目的地であるダイラの池に到着。ザックを降ろして写真を撮る。この池は、フィルム一眼の時に気に入った写真が一枚撮られただけで、デジタルになってからはまだ一





ダイラの薫跡

AG(アルペンガイド)の登山地図帳に載っている登山道の線は、説明文と違っている。昔のルートであり、今の登山道のものではない。新しく改訂された地図帳でも修正されていないので、ほとんどの人は気づいていないのかも知れない。まあガイド本の地図をきちんとチェックする人はほとんどいないから問題ないかな。

そうそう、もう一つ、とっておきのお話……これは実際に小生が経験した怖い

話です。

もう10年程昔です。雪の多い年でしたが、この日も晴いうちから歩き始めました。牧田川を渡る橋です。膝まで雪があり、しんどくてなかなか歩を進めることができませんでした。薄明るくなりかけた頃、ようやくサンヤ手前の橋を渡り、アンゾ谷右岸に出たのですが、踏み跡の全く無いパウダースノーの雪面の真ん中に、突然幅10cm、深さ1cm程の刷毛で掃いたようなスジが走っていたのです。何だろうと思いつきながら、そのスジを追ってラッセルして行ったところ、道を外れサンヤ(人の死体を焼く焼き場)の小屋の横を通り過ぎて1〜2分の焼き穴にそのスジが入っていったのでした。

その時の恐怖をどう表現したらよいのか? 小生のようなバキヤブラリーの不足している人間にはわかりませんが、膝が震えてきて後からお化けに抱きつかれるのではないかと思ひ、振り返りながら一目散に逃げ帰りました。車にたどり着いた時には心底ホッとしましたが、周りの民家からはまだ人の気配も無く、車に飛び乗り、疾風のごとく家に帰り着き、フトンに潜って昼までひたすら寝ており

ました。それから、このアンゾ谷を晴いうちから歩くことはしておりません。クワバラクワバラ……

さて、話は戻ってダイラのなかを南西の方角へノンビリと歩いて数ある薫跡の一つに着いた時、大きな雌鹿が右から左へと走り抜けていった。ワサビ谷源流部であるのは間違いないのだが、どのあたりを歩いているのかわからなくなったので、250度に向かってひたすら歩き続ける。斜面を斜めトラバースする感じになってきて、6時52分、645分にて清水が湧き出している。周りにはマツカゼソウが所どころ咲いている。そろそろ斜めトラバースにも慣れてきた頃、斜面上に空が見えてきたので、まっすぐに登り、尾根芯にたどり着き、目の前のピークに這い上がる。7時07分、高度計は725分であった。

そのままダイラの頭へ行くために斜面をくだったのだが、コンパスを見ると294度であった。何となく胸騒ぎがして地形図をもう一度確認すると、174度へ行かねばならない! ああ、アホ……! 何てアホなんだ、またやってしまった。このまま行ったら、毘沙門谷右岸尾根を

の食事としてソーセイジパンを食べる。7時39分出発、7時46分に左下方を小鹿が走り去る。ガスで鳥帽子岳・三國岳は見えなくなっていた。

7時53分、高度計は810分、ダイラの頭(803分)に到着。地形図を見ると、そのまま280度へくだり、鞍部を少し右に登れば次のピークに到達するはずだ。8時02分、790分、ピークに着くが周りがチェーンソーできれいに刈り払われている。ただしそれは、尾根の左側だけで右側は昔のままなので、入会権が分かれているようだ。お蔭で横根の山並を右斜め前方に見ることができた。それから伐採のお蔭で非常に歩きやすくなり300度、左325度へ行くが、下り急斜面の尾根でマムシと出会う。8

時16分、715分、平行になり333度へ進む。このまま進めば、地形図にも載っているように、左側斜面がガレているはずだが、8時23分、やはりガレに到着。案の定すごいガレ場である。ここから転落したらおそろしく命は無いであろう。このガレをぐるっと抱いて進むはずが、目の前のわかりやすい尾根の方へ入ってしまう。すぐに気がついてコンパスをチェック。340度へ向かっていたので、もう一度戻ってからやぶのなかを252度へ潜って行くと、やがて正しい尾根が現れた。左手のガレに落ちないように、気をつけながらやせ尾根を進むと、尾根芯の切り株にまたもやマムシが潜んでいたのが前へ進むことができない。しばらくマムシとにらめっこしていたが、ラチがあ

くだってしまったところだった。まあ小生の方向感覚なんてこんなものです(ダスン……)。すぐに登り返してピークから174度へ進む。途中、植林の間から左手に鳥帽子岳から三國岳の稜線がガスのなかに垣間見えた。7時19分、次のピークに到着。高度計は740分なのでたぶん地形図に載っている732分ピークではなからうか。188度の方向に大きなピークが見えたのでたぶんあれがダイラの頭であろう。

そのまま斜面を下りて行くと、見覚えのある毘沙門谷源頭部の峠に到着。西尾寿一氏の本ではA峠と書かれている所だ。これでひと安心で休憩する。

この峠はとても居心地のよい所ですが、必ず休むことにしている。今日初めて

## 関西の沢登り[3] 南紀の沢

樋上嘉秀著 四六判並製 一九九五円

新刊

長いナメ床と大滝に南紀の谷のよさを知る。十津川直系、三越川、大塔川、赤木川、高田川、熊野川直系、北山川直系、柏野谷川、日置川、り三〇の谷を詳細な通行図付きで紹介する。

◎好評発売中◎ [1]台高の沢 [2]大峰の沢 各一九九五円

## 比叡山1000年の道を歩く

竹内康之著 A5判並製 一六八〇円

比叡山の諸堂へと続く古道や峠道は、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

ナカニシヤ出版  
http://www.nakanishiya.co.jp/

★表示の価格は5%税込です  
京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
☎075-723-0111 〒606-8161



かないので、カサで突っついて移動していただく。このカサは折り畳みではなく長いので、ステッキとしても使えるし、透明なビニール製なので花の写真を撮る時などもレフ板として大助かりだが、欠点はもちろん雨の日は大助かりだが、欠点はやぶのなかでは邪魔なだけである。

前方のピーク、たぶん676標高点に急降下、急登で向かう。このあたりは両側共に植林帯となっている。ここでまた三匹目のマムシと遭遇。尾根を左手に大きな白い木が立っていたが、たぶんカミナリが落ちて枯れたものだろう。

それからは318度、240度、322度と進み、目の前にどっしりとした横根のピークを見た。左斜面が植林帯となっている。まっすぐ行くと植林帯のなかに入って、尾根が70度と296度の二つに分かれた。地形図でチェックして296度へ向かうことにするが、お腹が空いたのでこの尾根分岐で休憩、アンパンを一個食べる。このアンパンはコンビニで四個人入り105円で買ったのだが、最近までは五個人入りだったのでかなりの値上げである。

腹ごしらえの後、9時18分、296度

へ出発する。しばらくして急登となり、ふと見上げると、鹿が二頭、小生を見下ろしている。ジツと見つめ合っていたが、そのうち鹿のほうから去っていった。

この急斜面は以前来た時にはものすこいやぶで、四つん這いになったり匍匐前進したりして登ったのだが、今はきれいに刈り払われて、とても登りやすくなっている。

9時39分、ついに横根にたどり着いた。高度計は735m、時山から5時間もかかってしまった。ここでは休まず歩き、260度へくだると程なくで、尾根がまた二つに分かれる。右346度、左226度であるが、地形図をチェックしてコンパスを240度に合わせる。この二股からは全体が植林帯となり、左240度へ歩き出すと、右斜面だけが植林帯となった。途中、シコクマコナがたくさん咲いているが、小生の好きな花ではないので、撮っていても気分がのらなくて、後でチェックしたらほとんどピンボケだった。

次第に斜面がきつくなってきた振り返ると、横根とダイラの頭(たぶん……)が見えたので写真を撮るが、ガスでダイラ

ある。

コンパスを7度に合わせて下りる。昔下りた時はひたすらコンパスをチェックしながら7度を保って下りたのだが、今回は多少余裕があるので、左右を盗み見しながら急斜面をくだっていると、左側に何となく歩きやすそうな尾根がある。

豆腐のように意志の柔かい小生はつい引寄せられるようにその尾根へトラパスしてしまった。確かに歩きやすそうな感じで、すぐに植林帯に入る。695mに炭焼き窯跡がある。580mにもあり、さらに10m程下にも立派な窯跡があり、これなら大丈夫と安心し、コンパスをチェックすると300度に向けて下りているようだ。法面に出たらどうしようかと不安になったが、「まあ何とかなるさ」とくだって行くと、権現谷林道にあってなく下りてしまった。時間は11時48分。まさかこんなにも簡単なルートがあるとは知らなかった。下りで33分、登りでも1時間もあれば十分だろう。しかしここから横根最高点到登ったとしても、もっとも楽しくないよね……

林道を五僧に向かって行くとすぐに橋が現れ、右岸から左岸へ渡る。しばらく

すると川の右岸に見覚えのある作業小屋があり、横根橋にたどり着いた。ちょうどここが以前下り立った場所である。横根橋を左岸から右岸へ渡り進むと、目の前でカラスアゲハ?とモンキチョウ?が戯れていた。

すぐに道が二手に分かれる。まっすぐが、白谷、保月への道、右に登る道が廃村となっている五僧集落への道である。廃屋が二軒だけ残っていて、以前はちゃんと戸締まりされていたが、久しぶりに訪ねてみると、雨戸が壊れ、野ざらしになっている。先程の分岐の所に、何年か前の新しいお墓が二基建てられているが、家屋までは手が廻らないようである。12時20分、五僧峠に着いた。

五僧峠は歴史的にみても非常に有名で、1600年の関ヶ原の合戦で敗走する島津義弘がこの峠を越えたので、島津越とも呼ばれている。

峠から時山までは、ひたすらくだるだけなので、ここで最後の休憩とする。これからくだる牧田川源流部もヒルが多いので、絶対に立ち止まることは許されない、この峠で十分休んで英気を養っておかねばならない。アンパンを二個食べて



西横根手前から横根、ダイラの頭

し攀じ登るといふ感じで全く問題はない。11時15分、横根最高點(764m)に到着。ここでも高度計は765mを表示していたので正確。このピークの南側は植林されている。

さて、ここからどこへ下りるかが問題だ。権現谷林道へ下りるのが、距離的にいちばん近い西や南側は、地形図で見ると、林道の法面になっている所があり、それで大変だ、それに五僧集落までは遠い。やはり北側へ下りて行って横根谷と林道が接する横根橋へ出るのが妥当である。そこからなら五僧までは指呼の間で



水を飲む。今日は二層持ってきて、ほとんど飲んでしまったが、後は谷歩きなので飲み水に不自由はしないので安心である。

12時31分出発。いつもの道をくぐって行ったのだが、人があまり入らなくなってきたのか、道が不明瞭になっている。全く消えてしまった所もあるが、谷沿いを下ればよいので問題はない。しばらくして、ふとヒルがいないことに気がついた。普通であれば、足元に尺取虫のように四方八方からやってくるのであるが、どうしたのだろうか？ それに谷の雰囲気は何かとなく今までと違うのである。何が違うのか？……

そう、明るいのです。以前は、この牧田川源流部は木々が鬱蒼としていて薄暗く、湿度も高かったのですが、今日は、土も岩も空もカラッとして乾いているのです。だからヒルがいなくなったのでしょうか？……

12時44分、395mにて谷の右岸へ渡った所で、通行手形（鹿の角）を発見。久しぶりというか、今年初めてである。昨年は四本、一昨年は十二本も授かったのに、今年はまだ緑がなさそうである。

ふと見上げると、左岸斜面上方に新しい道路のガードレールが目に入った。え、何でこんな所に！……もうこんな所まで林道が来ている……ま……さ……か……

確かに、時山から五僧峠を越えて権現谷林道につながる道がつくられていることは知っていたが、こんなに早く出来るとは。おおよそ、行き着く先は廃村の五僧集落や保月の集落であるから、必要があるとはとても思えない。出来ると思ってもみなかったのだ。

どうもこの林道のために谷が荒れて明るくなっているようである。途中、「工事の為危険ですので通行禁止」という看板が立っていたが、引き返すわけにもいかないし、斜面を攀じ登って林道へ出るのもベカらしいのでそのまま歩くと、350mでも倒木で軸道が通れず、谷芯に下りる。しばらくして軸道に戻ってみるが、すぐに左岸が崩れていてまたもや谷芯に下りて進む。

乾き切った明るい白砂の谷を歩きながら、うーん、鈴鹿の幽玄の世界はどこへ行ってしまったのだろうか（ついでにヒルまでも）……と考えることをしながら、毘沙門谷出合に到着、13時06分、高度計は3

35mであった。

途中、旧道と新しく建設中の林道との出合いの所で急に足が滑ってしまった。水だけで塩分を摂らなかつたからかも知れないが10分程、激しく痛むのを我慢して膝を曲げたり伸ばしたりしていたら何とか治ってきたので、再び歩き出す。

13時32分、藪谷橋通過、高度計は295mだったが、地形図では273m標高点になっている。13時50分、やっとの思いで時山の駐車地に到着。川原では、最後の夏休みで帰省中なのか、子供が5、6人、父親といっしょに川遊びをしている。この子達にとっては、ヒルのいない明るい川原のほうが良いかもしれないなあ……と思いつながら、複雑な気持ちで帰途についた。（平成18年8月27日歩く）

#### ▲参考タイム▼

時山4・37―ダイラの池5・45―ダイラの窯跡6・30―732mピーク7・24―ダイラの頭7・53―ガレ場8・23―横根9・39―西横根10・26―横根最高点11・15―権現谷林道11・48―五僧峠12・20―毘沙門谷出合13・06―時山13・50  
△地形図V2万5千II築立

ラップランドのトレッキング踏破を目指して

## 「王様の散歩道」南部を歩く

利倉 正洋

### スウェーデン

#### ●「王様の散歩道」について

スウェーデンの最北部、ラップランド地方にはいくつかのトレッキングコースがあります。その中でも一番ポピュラーなのが「クングスレーデン、王様の散歩道」と呼ばれているもので、北端のアビスコから始まって南端のヘマーバンまで、延々440km続いています。

高度で言うと大体800mあたりを歩き、時には川を渡したり湖をボートで渡ったりします。コースは大昔の水河の名残である幅の広い谷間や、とてつもなく開けた高原などけっこうバラエティーに富んでいて、日本ではちょっと見当たらない景観です。

#### ●今回歩いたコースと計画

クイヴィックヨックという村が全コースのほぼ中間点にあり、クングスレーデンはここを中心として北部と南部に分けることができます。トレッカーのほとんどがこの、北部コースを歩いている、クイヴィックヨック村から南の、南部コースになる途端に人が少なくなり、その理由の一つが「南部コースにはほとんど山小屋が無い」ことにより、ここを歩くには食料とテントを自分で担がねばなりません。また、北部コースに比べると、水河や切り立った山などのドラマチックな風景が少なく、どうしても目が「北部コース」にいきがちです。し

かし裏を返せば、静かなトレッキングが期待でき、本来の目的である「歩き」に徹することができるというわけです。

ラップランドのトレッキングを始めて5年目になる昨年の夏、初めてこの、南部コースを歩いてみました。とりあえずは、南部コースを二つに分けて、今回上（北）半分を歩くことにしました。

すでに「北部コース」は2年かけて山小屋泊まりで歩いていきます。今回はテント持参で1人旅、どんな出会いが待っているか、期待と不安が交錯します。北部コースに比べると極端に乏しい情報をインターネットでかき集め、次のような計画を立てました。

・ストックホルムから夜行列車でイエーンという町まで北上する。

・翌朝イエーンから「南部コース」のほぼ中間点にあるイエックヴィック村までバスで入る（約4時間）。

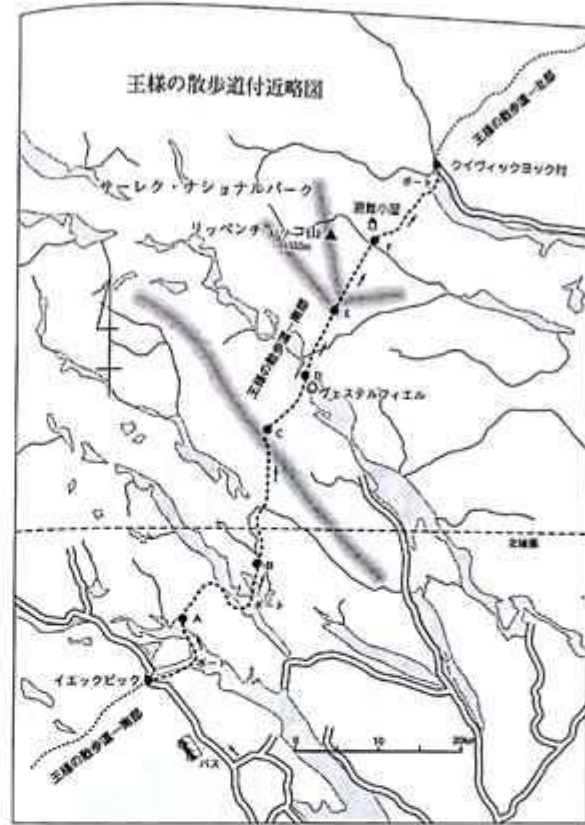
・イエックヴィック村からコースを北に向かって歩き、前述のクイヴィックヨック村までの約80kmを6日間かけて歩く（予備日2日）。

・ボートで渡る湖が、スタート地点・中間点・最終点の三箇所あるが、これに



ついでには行けば何とかなるだろう。その他には、毎日余裕をもって歩くこと(急がない)、幕営に適した場所(水・風がなければ時間的に早めであってもテントを張ること、などです。ということ、まだ梅雨の明けない7月13日、関西空港を飛び立ちました。

●トレッキング記録  
7/13 57/15  
いつもようにストックホルムのYHで1泊。翌日、町の登山用品店でコンロ用の燃料(アルコール)を買い、夕方5時発の夜行列車で北へ向けて出発。イエーン駅に翌早朝着く。数名降りた



が、ザック持ちの登山者は私だけ。ちょっと拍子抜けだ。問題発生。当日が土曜日だったためバスが途中の町(アルイェブローグ)までしか行かない。そこから先のバスも翌日の夕方になるという。少しでも近づいておくためアルイェブローグまで乗り、オートキャンプ場でテントを張る。

7/16 アルイェブローグ→イエックヴィック村→A点(湖畔)  
夕方やっと来たバスに乗る。このバスはノルウェー側から来ており、この町で折り返すのである。17時イエックヴィックで降りる。すぐ下が湖畔なのだが、どこからボートに乗るのかわからない。私設YHの小さな建物に入って、主人にボートの持ち主を携帯で呼んでもらった。ボートが湖面を飛ばす。小雨が頬に冷たく痛い。着いた対岸には無人のサウナ小屋があった。そのスノコ状のテラスにテントを張る。ラップランドで初めてテント1人寝。水鳥の音が時たま水面にこだまする。夕食後GPSを出して三種類の設定変更をしたら、位置表示が地図とピッタリ合った。パンザイ。

1日目 A→B点(美しい川の畔)  
朝の気温10度、7時過ぎ出発。小雨は

んの少し。ここは長い半島になっており、その半島を横切って(高度差400m)向こう側へ下るのである。湖でスポンが濡れるのでレインスーツを着る。最初林間のややきつい登りがやがて高原状、そして下りとなる。所どころ木にペンキマークがあり心強い。昼前に湖畔に出た。私設YHの主人がこちら側のボートの持ち主にも電話をしてくれて、正午に湖畔で待つことにしていた。鉛色の湖水が寒々しい。やがて対岸から立派なボートが来て無事渡り終える。着いた所にはサミ人の小さな集落がある。魚獲りがメインの仕事のようである。

林のなかを約2時間歩いて右にきれいな広い川が流れている場所に出た。晴れてきて川面が眩しく輝く。少々早いがテントを張ることにした。テントに入ってから横になったら眠ってしまった。夜中、0時頃目が覚めて短波ラジオでNHKを受ける。ジャマイカで地震があった模様。まだテント内で字が書ける明るさだ。冷えてきた。

2日目 B→C点(山を下りた小川のそば)  
7時過ぎ出発。青空、空気が清々しい。

微風が白樺の梢にざわざわと流れる。手袋をする。小さい湖が点在して美しい所だ。ドイツ人の父娘がテントを張っている傍を通る。「魚は釣れたか」と声をかける。この父娘とは最後まで抜きつ抜かれつ、私と同じ方向(北)へ歩いている唯一のトレッカーだった。

遠方に見えていた山に昼頃近づき、左の鞍部目指して登りとなる。登り切ると冷たい風が強かった。小さな岩の陰で風を避けて寝ころんでいると、反対側から若い男性2人が来た。手を上げて挨拶する。風に声も吹き飛ばされてしまうくらい。コースは広い尾根状の岩湿じりの草地であり、小さな上り下りを繰り返して進む。標高も1020mを超え、気温が下がってきた。所どころ岩にマークがあるからいいようなものの、悪天候だと苦労するだろう。かなり歩いてやっとコースは右手へ山をくだる。斜面をくだり切つて心地よい小川のそばにいい平地を見つけた。益々風が強くなるなか、張ったテントに転がり込む。この日は最高に歩い

た。

3日目 C点停滞

風が収まらないので沈殿。強風が山の斜面を滑り降り、テントをバタつかせる。テント内で5度、寒いはずだ。風の音を



(3日目) C点、山を下りた小川のそば





(4日目) ベステルウイエル遠望

聞きながら寝袋でウツラウツラするのはまことに気持ちがいい。時折トナカイのカウベルが遠くで聞こえる。夕方少し夕焼け。北極圏のラインを知らぬ間に昨日通過していたことに気づく。

4日目 C→D点(広い川の砂地の河原)  
明け方外気温3度。風が収まり快晴、9時出発。少し歩いたところ、サミ人の泥小屋がまるで春のよう、小さい高原池が点在する。30代の男性と会う。ヘマールパンまで歩くという。高原の端まで来ると眼下に湖とサミ人の集落ベステルウイエルが遠望される。白樺林の斜面をぐんぐん高度を下げて行く。やがて湖岸沿いの森のなかを行く。岩がゴロゴロの細かいアップダウン、白駒池の池畔の感じだ。マークがまばらになりちよつと心細い。湖に注いでいる川に出た。吊橋を渡る。下はとうとうとした流れ。親子3人が釣りをしていた。左に川を見ながら林のなかを歩きテント地を探す。河原に広い砂地を見つけテント地に決めた。風は冷たいのにテントの中は強い日差しで猛烈に暑い。今までにない経験である。細かいブヨが多い。

空はまったくのピーカン。南部コースがこんなに人が少ないとは予想以上である。それでいて寂しさとか不安を感じないことにちよつと驚く。朝のコーヒーがおいしい。竿を持ってサブザックを背負った中年男性がテントのそばを通った。声をかける。ここはポートを使えばわりと容易に入れるので、フィッシュィングに向いている川のようなのだ。  
モンベルの「一日除け」を後頭部に付けて出発。途中でTシャツになる。白樺の森のゆるい登り。風が無く暑くなってきた。すごいブヨ。くだつて小川が小さい湖に流れ込んでいる所で休憩。肌には防虫液をしっかりと塗る。ドイツ人父娘が追いついてきて初めてゆっくり会話をする。製菓会社の役員らしい。古いフレイムザックの重さは30数あると言う。  
少し行った所にトナカイ用の柵があり、柵をくぐるポイントを見逃してちよつと道に迷った。やがて白樺が少し生えている明るい台地を登る。左下は渓谷だ。テント地を探しながらゆっくり登り、川に張り出した台地のへりに決定。コケモモの短いブッシュなどのどこにでも張られてしまう。夕方、意を決して下の川に下り、

身体を拭きさっぱりした。

6日目 E→F点(避難小屋)

6時起床、快晴。朝食にオートミールを初めて使用。9時過ぎ出発。朝川で洗った下着を洗濯バサミでザックに吊るす。



(6日目) リッペンチョッコ山、右のコルを目指す

行く手に山(リッペンチョッコ山)がそびえている。この山の右手のコルに登るのだ。11時一つ目の尾根に登りついた。左にそびえる岩壁がすごい。ちよつと雪が残っている。静かだ。広がる赤茶けた砂礫の斜面は月面のような。今日は反対側から誰一人来ない。小さい流れを二本越え、広い峠に出る。はるかかなたに雪を頂いた連山が見える。たぶんサーレクであろう。北から風がヒョーヒョーと吹く。あと4きくだるのみ。広いカール状の草地をどんどんくだる。所どころで気持ちのいい清水が流れており、テント地に良さそう。やがて前方下に小屋が遠望された。今夜泊まる避難小屋だ。

16時小屋着。広い川の脇に建てており、すぐ近くに吊橋がある。内部を見ると2人分の寝袋用木台しかない。ドイツ人父娘も到着して、彼等は川岸にテントを張ると言う。私は小屋に入ったがこれが失敗だった。殺しても殺してもどこからか入ってくる蚊に悩まされ寝られなかった。

7日目 7/23 F→クイヴィック

ヨック村  
最終日である。8時出発。徐々に雲が

多くなってきた。白樺の疎林をゆるく登る。時々水鳥が泳ぐ池があったりする。やがて急な下りとなる。かなり長く感じられた。下り切ると深い針葉樹の森に入る。このあたりの下植はブルーベリーばかり。15時船着場に着く。  
ポートを呼ぶには岸辺の木箱の中にある電話を使うのだが、ドイツ人父娘が来るのを待つ。彼の持っていた携帯で連絡はついたが忙しいのかポートはなかなか来ない。3人揃ってザックを枕に岸辺で昼寝。身体が冷え切った頃ポートが来た。あつという間に対岸のクイヴィックヨック村だ。

こうしてクングスレーデン南部コースの旅が終わりました。地図で想像していたよりも歩きやすいコースでした。これでクングスレーデンの4分の3を歩いたことになりました。残りは最南部の4分の1のみ。出来ば今年(2007年)の夏に完歩したいと考えています。

このあと村で食料を補給して、友人ヘニングと荒野サーレクの10日間の旅に再び出発しました。

(平成18年7月17日〜23日歩く)



京都北山を歩く ●ミニガイド (第4回)

## エリア別徹底研究

盛夏、涼しい谷筋と滝、樹林の稜線を歩く5コース

■村田 智俊



### 盛夏の山ミニガイド

京都北山の山々へ四季を通じて歩いてみませんか。

今号は暑い夏の1日、木陰の谷筋を歩いて流れや滝を觀賞して行くコース、樹林の稜線をたどるコース、山のなかでのウォーキングコースなど、五つ紹介します。この中で「滝又の滝から東俣山」「小野村割岳」を、村田が案内する山行例会に組み込んでいます。ガイドを譲り、興味をもたれた方は、ぜひご参加ください。

夏場といえども、京都北山に入ると温度は市街地と比べ10度近くも低く、とても涼しく感じ、やはり山に来てよかったと思ってもらえます。

\*美しい「滝又の滝」、涼しい谷筋の愛宕参詣道、巨杉の群立する「小野村割岳」への尾根、北山の奥の「頭巾山」では8月に赤トンボが舞う、バラエティーに富むコースです。

### コース① (一般コース)

#### 滝又の滝から東俣山 (ナカマタ)

前号94号(初夏)、中川光郎氏の口絵写真「緑に包まれた滝又の滝」。夏に訪ねたい滝の風景である。

京都駅発周山行きJRバスに乗り、約1時間で最寄りのバス停愛宕石道に着く。愛宕山への裏(北)からの登山口で知られ、降りたことがある人も多いだろう。

バス停からバス道を20分戻ると、滝又の滝への道標を見て、左へ民家の間を歩いて行く。谷川に沿う道で、やがて左山田谷、右轟谷に分岐する。滝又の滝は轟谷



の上流にあるので、橋を渡った所で道標を見て、右の小道に入って行く。谷を何度か渡渉して行く。途中、右山腹に八畳洞を見る。織田信長の叔父、十界因果和尚が修練した所という。

やがて右下に谷を見ながら登って行く。滝又の滝に到着する。二段に落下する滝は20分ほどの高さ、滝を見上げて休憩して行こう。飛沫を浴びるほどの流ではないが、山間にひっそりとある美しい滝である。

案内するコースは、滝の奥から余野へ行くが、滝見物が目的なら引き返してもよい。バス停から往復1時間30分もあれば十分である。

余野へは、滝から少し戻り、右岸の高橋き道と奥へ行く。展望の良い岩に出ると、すぐに余野から来ている林道終点に出る。杉林のなかの林道を余野へ向かう。途中のT字路は右方へ行き、峠を越えたと余野の車道に下りる。

左折して北に向かう車道に行く。のんびりとした村を過ぎ、途中、右に大森への伏見坂を見る。なおも車道をたどると、射撃場手前あたりで分岐する。まっすぐ行けば余野坂から周山にくだる。東

俣山へは右の道に入る。

林道終点から登山道へ入り、左へ廻り込むように尾根の高みを目指して登山道がのびているので、それを登って尾根になる。尾根道は自然に右へ茶吞峠に向かうが、東俣山(3等△670・5分点名余野、別名ナカマタ)は反対の左側の高みにある。知らずにそのままどって行くと、三角点を逃すことになる。左手(西)に行けばすぐ山頂である。このあたりは広葉樹が広がっている。京都駅発8時過ぎのバスで来たからお昼になる。展望は無いが、木陰のなかでゆっくりしよう。

あとは先ほどの尾根分岐に戻り、そのまま茶吞峠にくだる。茶吞峠からは、鳴の堂から電ヶ坂を山国に下山してもよいし、カモチ(稲荷)谷林道をくだれば周山バス停へ下山できる。

#### ▲コースタイム▼

JR京都駅(バス1時間10分) 愛宕道(40分) 滝又の滝(30分) 余野(1時間) 東俣山(20分) 茶吞峠(2時間) 周山バス停(バス1時間30分) 京都駅  
△地図▽昭文社『京都北山』  
\*JRバス 075(672) 2851



## コース② (ロング一般コース) 愛宕林道から神明峠・愛宕山

亀岡から昔の愛宕参詣道をたどって神明峠へ行き、裏道から愛宕山へ登ってみよう。暑い夏、車の通らない静かな谷沿いの木陰道を歩いてみたい人にはおススメである。

愛宕谷川は、明智越えの尾根と牛松山の間を流れる谷である。谷沿いの愛宕林道を行くのであるが、紅葉や楓の木が多く、自然林におおわれ涼味満点だ。



JR亀岡駅から保津川の大橋を渡って保津町に入り、明智越えの道を文覚寺へ行く。明智越えは右へ、愛宕参詣道の愛宕谷の林道へは左手、北へ向かう。民家の中を行くと左に谷が見え、自然に愛宕林道に入っていく。しばらく行くと車両通行止めとなり、あとは静かな林道をたどっていく。

道すがら、何ヶ所かに参詣道名残の道標や遺跡があり、それらを見ながら行く。上は樹木で覆われ日差しをさえぎり、岩場があって谷の流れも美しい。

約1時間もたどって行くと、昭文社の地図上、池が二つ表記されている所に着く。林道から池を見ることがかなり大きな池だ。周囲はよく手入れされ、土手には桜などが植えられている。

中に入って休憩したいが、柵がしてあって立入禁止。釣りなどをして過って濡れたりする人がいるからだろうか。以前は池畔でゆっくり休めたのに残念である。池の下の谷(愛宕谷川の源流)では、沢蟹を獲っている人を見たことがある。

池を過ぎてすぐ左に道がある。これは上流の谷を原集落へ上って行く。神明峠へはこのまま林道をカーブして上って行

く。神明峠の三叉路へ着いたら、左、原への車道をくだる。

右へ行けば水尾に下りてJR保津峡駅へ出る。これからの愛宕山への登りが嫌な人は水尾にくだってもよい。

山慣れた人なら南の尾根に入り、巡視路をたどって明智越えに出て、亀岡へ戻るのもよいだろう。

車道を原に向かってくだって行くと、すぐ右手側に愛宕山への参詣道が上っている。これを登って約1時間30分で、原からの参詣道に出会い、右折して愛宕山の社務所に出る。

愛宕山から下山のガイドは不要だろう。時間をみて自分にあった道を選んでくだろう。

**Aコースタイム**  
JR亀岡駅(40分) 愛宕林道(1時間) 池(30分) 神明峠(1時30分) 原道出合(20分) 愛宕山社務所(表参道1時間30分) 清滝バス停(バス1時間) 京阪三条駅・京都駅

△地図▽昭文社「京都北山」「北摂・京都西山」  
\* 京都バス ☎075(871)7521

## コース③ (一般コース) 佐々里峠から小野村割岳

佐々里峠から尾根道をたどって小野村割岳へ行ってみよう。途中には巨大な声生杉が群立しており、見事な古杉を見て驚嘆するであろう。

佐々里峠までは、前号の「佐々里峠から品谷山・魔村八丁」で紹介したので参考にしてほしい。

佐々里峠の石室の前から、北へ芦生・由良川沿いの森林軌道跡、灰野への登山道を行く。約30分も行くとテープや標示を見て、右手(東方)斜めの道に入り、小野村割岳への尾根道にのる。尾根にのっ



てしまえばあとは一本道でそのまま尾根道をたどって行けばよい。

灰野への登山道の分岐点から約40分もすれば、道の中央にカミナリに打たれた大杉を見る。このあたりは広場になってるので昼食休憩によい。バスで来てオバナ谷から歩いて来た人ならちようど昼どきである。ここが、巨大な声生杉が群立する所で、昭文社の地図「京都北山」では、大生杉群と記されている。

北へくだる支尾根をしばらく散策してみよう。支尾根には、樹齢を経た巨大な古杉がいたる所に林立している。休憩時間を長くとり、ぜひ観賞して行ってほしい。往復で30分みておこう。

さて、なおも尾根道をたどり、●832を越え、しばらく行くと、小野村割岳のコースが直角に右折する箇所がある。まっすぐ行く尾根にも踏み跡があり、ついでこの尾根をくだってしまいがちなので、要注意地点だ。小野村割岳へは北へ下りて行くような尾根はとらない。木の陰でよくわからないかもしれないが、曲がり角右に標示があるのでよく確認して行く。右折してしばらくすると、左の谷を廻り込むように左折しながら行き、先ほ

どの間違いやすい尾根が谷を挟んで左手下に見えてくる。

やがて、北の赤崎東谷と南のサエ谷源頭の鞍部にくさり着く。北方へも南方にもくたどって行く踏み跡があるが、小野村割岳へは東にまっすぐ尾根をたどる。

鞍部から約1時間30分で小野村割岳(△931.7m)に到着する。以前は狭い山頂だったが、最近では切り開かれ展望があり、芦生や北山北部の山並を見ながらゆっくり休憩できる。

下山は山頂から南の道をくだって行く。谷の手前で急な下りとなるが、谷を渡ると右折してすぐワサ谷林道終点に着く。あとは林道を1時間ほどで下の町バス停に帰り着く。

**Aコースタイム**  
京阪出町柳駅(バス2時間) 広河原バス停(50分) 佐々里峠(30分) 尾根分岐点(40分) 大生杉群(30分) 鞍部(1時間20分) 小野村割岳(10分) ワサ谷林道終点(1時間) 下の町バス停(バス1時間50分) 京都駅

△地図▽昭文社「京都北山」  
\* 京都バス ☎075(871)7521



## コース④ (一般コース) 花背峠から斧生峠・滝谷峠・二ノ瀬ヨリ

花背峠から斧生へ行き、斧生峠から尾根道に入り、滝谷峠・二ノ瀬ヨリを経て叡電二ノ瀬駅までのコースを紹介する。午前中は森の冷気にふれながらの林道歩き、午後は涼しい風に吹かれての広葉樹林の道。暑気払いに山のウォーキングと洒落てみよう。

花背峠へは、京阪出町柳駅から京都バスの広河原行き(7時50分発)に乗り、約



1時間後の9時前には到着する。バスを降り、進行方向へ車道を少し進むと、左側にテラスを見て登山道が上っている。この道に入って天狗杉(△837・2m)に登り、くだると旧花背峠である。

旧花背峠から京見坂を越えて斧生への林道歩き。林道といっても山道と変わらないほどで、森のなか気分よく歩ける。勢電天満宮に立ち寄り休憩後、村を過ぎて車道が南の斧生峠に上っているのをそれを伝う。昼でも薄暗いほどの杉林のなか、冷気を感じるほどである。グイグイと登っていけば、汗はかくがよいウォーキングになる。

斧生峠に登り着き、少しくだって行くと、右手に尾根に上る道を見る。この登り道に入って10分も上っていけば、魚谷山から滝谷峠へ続く尾根道に出る。

ここで尾根への10分の登りを嫌い、車道をそのまま貴船にくだったら大変、下り道とはいえ暑さのなかではバテテしまう。車道歩きが延々と続き、貴船口駅までは遠い。

上った尾根分岐を左折して滝谷峠を目指す。しばらくは樹林のなかだが、やが

て伐採地に出て展望が広がる。やっと明るい広場に飛び出たようで、涼しい風も吹き抜けているだろう。北山の山並を眺望しながらのランチタイムは最高だ。ゆっくりと寛いでいこう。

滝谷峠まではまた樹林の木陰道となる。周囲は広葉樹の自然林だ。途中、分岐道に出合うが、滝谷峠へは尾根をはずさないようにまっすぐ行くこと。アップダウンもなくルンルン気分、これからは森のなかの山のウォーキングだ。滝谷峠に着いたらひと息つける。

滝谷峠からは有名な二ノ瀬ヨリ道、改めて案内する必要はないだろう。途中、貴船山(△699・8m)を踏んで下山すればなおよいだろう。

### ▲コースタイム▼

京阪出町柳駅(バス1時間)花背峠バス停(20分)天狗杉(5分)旧花背峠(1時間)斧生(30分)斧生峠の尾根取付点(10分)尾根上分岐(40分)滝谷峠(30分)貴船山(50分)叡電二ノ瀬駅(電車25分)出町柳駅

▲地図▼昭文社「京都北山」

\*京都バス ☎075(871)7521

## コース⑤ (中級コース) 福居から頭巾山

日の長い夏なら北山の奥へ行ける。周山までJRバスがあるが、この先の美山町のバスは登山の時刻があわず、周山からタクシーに乗るか、自宅からマイカーでの往復になる。

頭巾山(△871・0m)は、京都・福井の府県境にそびえ、若狭の山と言ってもよいが、京都北山の山ということで京都側からの一般コースを紹介する。

登山口の福居へは、周山街道(国道162号線)を北上し静原を過ぎ、堀切トネル手前の田土バス停付近から左へ入



る。国道から約4kmで福居に着き、突き当たりで左右に道が分岐する。手前に公民館があり付近に駐車可能。マイカーで京都市内から2時間はみておこう。

頭巾山へは、T字の分岐を右へ。上谷沿いの林道を行く。20分ほどで右にコンクリートの立派な橋を見る。橋を越えて林道がのびているので右折してそれに入る。橋の所には道標もある。右折しないでまっすぐ林道を行き、上谷コースからも頭巾山へ行けるが、8年前、新ハイ例会で下山に歩いたときは荒れていた。

林道はカーブして左手の山腹へと上って行き、橋を渡ってから10分もすれば林道終点の広場に着く。頭巾山登山口を示す案内板があって安心する。ひと息ついて山道に取り付く。

山道になってしばらくで右から谷を渡り、左の尾根へ取り付くと急坂となる。

尾根にのるといくらかゆるんで自然林のなかを登って行く。一本道の尾根で迷うような所はないが、前方に府県境の稜線が見えてからもかなり時間がかかる。登り一方でからゆっくり登ろう。林道終点から約1時間余りで若丹国境尾根と呼ばれる府県境の稜線にのる。

頭巾山へは左に折れて稜線を西へ向けて縦走することになる。アップダウンの少ない尾根をのんびりとたどって1時間もあれば頭巾山だ。広葉樹林の尾根は快適に歩ける。一ヶ所樹林が切れて草原に出て、前方に頭巾山を望む。縦走路をしばらく行くと鞍部に広場があり、大勢での休憩にも適している。太陽が照りつける炎暑の日なら、山頂には木陰が無いのでこゝらで昼食をとって行こう。

ここから15分で上谷コースとの合流点に着いて、直下の登りとなり、15分がんびりで山頂に到着する。

長細い山頂広場には、雨の神・小和木権現を祀る祠がある。天気が良いと日本海まで見える展望だ。

下山は往路を引き返す。2時間30分もあれば福居に下り立つ。

### ▲コースタイム▼

京都市内(マイカー2時間)福居(20分)右折する林道の橋(10分)林道終点登山口(1時間)府県境稜線(1時間10分)頭巾山(往路2時間30分)福居

▲地図▼昭文社「京都北山」

▲地形図▼2万5千1:0坂本・丹波大野



## 花の山、早池峰山

東北

磯部 純

三陸沖を通過した台風7号は、翌日に北海道沖で熱帯性低気圧に変わった。台風一過、明日は上天気が望めそう。気仙沼を訪ねるのに、京都から車で来るのは今回が最後になるかもしれないと思いやって来たが、抜けるような青い空を見ると、このまま帰るのはもったいなく、早池峰山まで足をのばすことにした。

早池峰山は、北上山地の中央に位置している。岩手山につぐ岩手県第二の高峰で、川井村・大迫町・遠野市に跨がる山である。古代に隆起した日本で最も古い地層の山で、そこに自生する花はこの山独特の貴重な種類が多く、全国から花を見に来る人が絶えない。山へ登る段に

なあって、風邪気味でクシャミばかりしていた妻は、「登れないと思うが、とにかく山裾まで行ってみる」と言っていたが、結局、鼻水をすすりながら山頂まで登り、多くの花を満喫したのだった。

本吉を出発したのは7時ちょうど。昨年、焼石岳へ登るのに、気仙沼市を通過して一関インターへ向かったが、大渋滞に巻き込まれて、予定時間を大幅に遅れてしまったことを思い出し、今回は少し遠廻りになるが、信号の無い農道を通って若柳・金成インターへ向かい、東北自動車道に乗ることにした。8時過ぎに東北自動車道に入り、8時50分には花巻インターを出て、国道4号線、県道214号

二合目から雲を抜った早池峰山を望む



線、102号線、国道396号線とつなぎ、大迫町から県道43号線を北上。早池峰山まで来ると、右手の山々の奥に早池峰山の頂が見えてきた。道の駅「早池峰」から東へ走ると早池峰神社のある岳の集落「峰南荘」に抜抄をして、小田越を指して車を走らせた。

にして、二つのルートがある。標高1050mの河原坊から登るコメガモリ沢ルートと、標高1200mの小田越から登るルートがそれである。登る距離の関係から、一般には小田越から登り、河原坊へくだる周回ルートをとる人が多い。ただ、早池峰山の人気が全国的に高まり、年を追うごとに訪れる人が多くなった。高山植物保護、互隣崩壊防止の意味からも、平成13年頃から、6月第二日曜日から8月

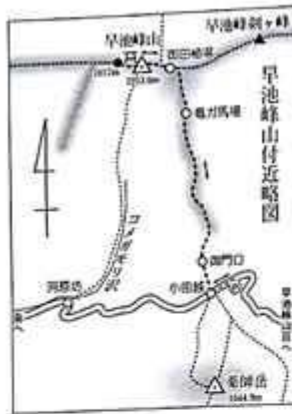
第一日曜まで、土・日曜と祝祭日に車規制が始まり、自家用車は岳から先への乗り入れができず、シャトルバスに乗らなくてはならなくなった。一方、平日の自家用車の乗り入れは可能だが、小田越は駐車禁止になったので、河原坊へ駐車す

るしかない。そのため、休日に登りに来た人はシャトルバスに乗って小田越から登ることができず、平日に来た人は河原坊に車を置き、ここからコメガモリ沢ルートに登るか、小田越から登る人は河原坊から小田越まで歩くか、定時のバスに乗ることになる。

今回、早池峰山へ登るに当たり、河原坊に車を置いて車道を歩き、小田越から登って河原坊へくだることにしていたが、河原坊へ着いた時間が時間。ここから小田越まで歩くのでは体調不良の案内を連れては無理と判断。そのうえ定時バスの時刻が合わず、平日なのを幸いに、そのまま峠まで車で行ってしまった。もちろん、この時は小田越が駐車禁止になっていて、全く知らなかった。小田越に米を見ると、駐車禁止の立て札が立っていて車を置くことができない。困ってしまった、たまたま小田越の小屋にいた監視員の方に厚かましくも駐車場所を尋ねると、「峠から東へ200m程度くだった所に、車五台程置けるスペースがある」と親切に教えてくれた。行ってみると一台のスペースが残っていて、木立にラッキー！としか言いようがなかった。

10時5分、小田越登山口に立つ。入口にあったはずの山頂にある早池峰神社奥宮に向かった、朽ちかけた大きな鳥居は無くなっていて、代わりに「国定公園早池峰山」と彫られた大きな石が置かれている。この時間から登る人は少なく、後に続くのは2人連れだけ。登山道に入るとアオモリトドマツの林。カニコウモリの花が咲き、ミヤマカラマツ・ヤマブキシヨウマの花も点々と続いている。夏だというのにウグイスが喧しいほど囀っている。登るにつれて木々の背丈が低くなり、30分もゆるく登ると突然樹林が切れ、岩のゴロゴロした斜面が目の前に広がっている。ここが御門口と呼ばれる一合目だった。前方を見ると、岩と緑の雄大に広がる斜面のはるか上の方に、岩がゴツゴツした山頂稜線が見えている。斜面には登って行く人の姿が、豆粒のように点々と続いている。

大きな岩の上を飛びながら登って行く、次第に岩も小さくなっていくが、歩みにくいことには変わりない。先程まであったナナカマドは姿を消し、背丈30cmにも満たないハイマツが斜面を覆い始める。その間にハヤチネウスキソウがア





チコチに花を開き、黄色のキンロバイも今が盛り。ルートの両側には紐が張られ、高山植物斜面に入らないように区切つてある。歩くルートの両側には白い小花のホンバツメクサの群落が、この先ずうつと続いていた。なかに可愛らしいピンクの小花の塊はイブキジャコウソウ。

花を見ながらゆっくり登り、一つ目の岩塊のある所で休憩する。そこには名前のわからない花が咲いていたが、休んでいた人に聞くと、チシマフクロ・サマニヨモギ、それに花とは思えない形をした花をタカネサギソウだと教えてくれた。このあたりの斜面には花の終わったイワウメの花軸が、一面に残っている。

ここから上の岩塊地点まではゆるい斜面をジグザグに登って行く。ナンブトウウチソウ・ネバリノギラン・ミヤマオダマキ・ミヤマアズマギクと、花を見ながらの登りは疲れを忘れさせてくれる。あの岩陰に咲く濃いピンクの花はタカネナデシコだろう。早池峰山固有のハヤチネウスユキソウは至る所に咲いている。この斜面は風の通り道になっていて、この日は照っているが風は冷たく、寒いほどだった。

御金蔵の岩塊を越え、竜が馬場と呼ばれる所で、八合目に当たっている。ハイマツと蛇紋岩の赤茶けた岩肌が美しいコントラストを見せている。登る人は少ないが、上から河原坊から登ったという人達が列をなしてくだって行く。聞くところから登り始めたと言っていた。ゴツゴツした山頂は左手上方に見えており、あとわずかの登りだった。後ろを振り返ると出発地点の小田越の小屋がはるか下に見え、すぐ南にある薬師岳は目線の下、かなり高くまで登って来ている。

傾斜が一層急になり、大岩を捲くと、大岩に取り付けられたハシゴ場。わずか20分程度のハシゴ登りだが、急勾配のハシゴを登りながら下を見ると、足元に大斜面が落ちていて、高所恐怖症の者にとっては耐え切れないほど怖い。ひたすら足元のハシゴだけを見て登る。このハシゴを登り切ると、もうひと登りで剣ヶ峰へ続く尾根にのる。

ここは御田植場と呼ばれる平坦地で、これまでの岩根を避け、湿原地帯と言ってよいお花畑である。ハイマツに混じって背の低いアオモリトドマツが見られ、湿原地帯の中の水道を歩くとき近くには、

ヨツバシオガマに混じって、ハクサンチドリの花もいっぱい見ることができた。時折見る黄色い小花のキバナノコマノツメも可愛らしい。山頂直下の斜面には、この年当たり年だというコバイケイソウが一面に咲いている。あたりの花を見ながら登って行くと、一塊になってチングルマ・ミヤマアズマギク・コイワカガミ・マイヅルソウが咲いていたのにはビックリ。これまであげた花の名を全部知っていたわけではない、いっしょになつた2人連れの方に教えてもらった花も数多くあった。それ以外にも多くの花があったが、聞くチャンスを通し、名前のわからない花も多かった。山頂尾根のお花畑では花の写真を撮ったり、ゆっくりと花を楽しんだり。最後の岩道を登ると早池峰山頂避難小屋があり、一段登ると早池峰山山頂。12時45分の到着だった。

岩のゴロゴロしている山頂広場の西には、岳にある昔の盛岡藩の城東の鎮山として重要視されていた、早池峰山大権現を祀った早池峰神社の奥宮があり、その東の広場に三角点が埋められている。1等三角点、点名「早池峰」で、標高は1913・6分であるが、一般にはこの西

のピークの標高が1917分なので、早池峰山の標高を1917分としている。この日は平日、時間も遅かったので、山頂に屯する人はまばら。その人達も次々にくだって行き、我々が食事を終わる頃には、5〜6人しか山頂に残っていません。

食事を終えてから展望を楽しもうと思つたが、ガスが出始める。晴れた時には西方から北方に向け、焼石岳を始め岩手山や八幡平などの奥羽山脈の連なりを見ることができると聞いていたが、全く見えない。かろうじてガスが流された時、南に薬師岳の姿を見ただけだった。下りは河原坊へくだるつもりでいたが、河原坊への下り道には花が少なく、そのうえ、河原坊から小田越へ車を取りながら小田越



早池峰山三角点

へくだることにした。出発する前に、散策していた2人連れの方に教えていただき、河原坊下山口を5分程くだった所に咲いているハクサンシャジンを見に行く。13時25分、下山にかかる。山頂には男女2人が残っているだけ。くだるのは我々ともう一組の夫婦の方とこの山へ月に20回は登っているという山岳監視員の方の5人。わからない花の名前を覚えていた大きな下りだった。恐ろしいハシゴ場をくだってひと息つき、山頂を振り返ると、山頂はすでにガスのなか。一方、ここから下は陽に照らされた斜面が雄大に広がっており、目の前に薬師岳がドクシリと坐っている。

その夜は岳にある「峰南荘」に泊まり、あす早池峰山へ登るといふ大阪から来た人達とも話をして、ゆっくりと寛いだ。翌朝、早池峰山へ登る人達のざわめきに起こされた。5時30分の始発のバスは満員で、四台も連なっている。20分おきに通過するバスも満員。この土曜に登っていたら、山頂は坐る場所もないほどで、あのハシゴ場で大渋滞に巻き込まれていたに違いない。平日に登ってほんとうによかった。

ゆっくりと朝食をとり、7時20分に京都へ向け、「峰南荘」を出発した。途中道の駅を越えた所で車を止め、早池峰山を振り返ると、昨夜の雨は上がり、山頂はガスに覆われていた。

(平成17年7月29日歩く)

#### ▲コースタイム▼

小田越(2時間40分) 早池峰山(1時間40分) 御門口(30分) 小田越

△地形図V2万5千II早池峰山・高松山(問い合わせ先)

岩手県下閉伊郡川井村役場企画課

☎0193(76)2114



連載 旗振り通信の新研究 ④

# 岡山ルートの資料

柴田 昭彦

愛知県内ルート(91・92号)と岐阜県内ルート(93号)をまとめた後、岡山ルートの資料が集まったので、報告しよう。兵庫県赤穂市の黒鉄山は旗振り山と判明した。また、岡山市の梅ヶ原山は旗振り山の可能性があることがわかった。

### 【兵庫県の旗振り場】

須磨岡田「新・はりまハイキング」(神戸新聞総合出版センター、平成18年)の黒鉄山のガイドを見ていて、次のような記述(121頁)に気付いた(平成18年11月21日)。

「昔は旗振り山として活躍したので、山頂からの眺めは最高である。」

黒鉄山については、本誌69号で考察したが、次のとおりで、旗振り山かどうかは、はっきりしないままになっていた。

①昭和56年に、旗振り通信の岡山ルートの再現実験を企画立案した、西宮市の吉井正彦氏は、再現時に、黒鉄山を旗振り地点として用いているが、旗振り伝承があるかどうかについては言及していない。

②橋州赤穂駅前からタクシーを利用した時、運転手は、車窓から見える黒鉄山を指して、「あの山は旗振り山では」と言っていた。伝承があるのかどうか尋ねると、聞いているわけではないが、と曖昧な返答であった(平成13年12月24日)。

③赤穂市教育委員会市史編さん担当の矢

野圭吾氏によれば、「赤穂市の旗振り地点は、炭屋台と大師山で、その他の旗振り場はわからない」という返答であった(平成14年1月)。矢野氏の旗振り場についての返答は「赤穂の地名」(赤穂市・赤穂市教育委員会発行、昭和60年)に基づくものであった。

筆者が須磨岡田氏に典拠を問い合わせたところ、平成19年1月9日に返信が届いた。

須磨岡田氏によれば、赤穂市役所発行・総務部秘書広報課編集の「広報あこう」(平成17年3月号、No.639、3月10日発行)の連載記事「山とひと」No.3「黒鉄山(くろがねやま)」によったものであり、その内容は次のとおりであった。

「明治になって電信技術が普及するまでは、大阪(堂島)の米相場価格を手旗で各地に伝える中継地となり、出荷量の調整が行われていたようです。」

この記述の出典は、山本善嗣氏(赤穂市大津自治会の会長)と橋本登氏(上郡高校の先生)の両名(故人)が、昭和59年2月1日に作成した「黒鉄山」と題した記録に収められた「黒鉄山について」(橋本登氏稿)という計6頁の記事で、旗振り

通信に関する内容は次のとおりである。①「米」の相場価格の手旗信号所であった。

明治になって、電信技術が普及するまでの間、米の消費地大阪市堂島の米相場が播州平野の米価格を決定していた。旧赤穂町加里屋二丁目に当時米取引所があり堂島の価格も手旗で十ヶ所以上の中継点を経て、黒鉄山に伝えられ、鳥取米や千種川流域米等を船で出荷する量を調節していた。尚鉄道がひかれるまで山陰と山陽を結ぶ経路の最短距離が千種川を利用することであった。そのため千種川流域は交通の要所として盛えた。

赤穂は当時千種川を利用して山陰の米を大阪へ、大阪の雑貨品を山陰へ送る中継基地であった。

手旗は赤旗と白旗で、これを望遠鏡で見ている。赤旗は価格の下落、白旗は価格の上昇を示していたようです。

②鎌倉、戦国時代には「とりで」があったように思われる。

頂上に「石のとりで」に近いようなものが残っている。明治時代の旗ふりもこの石の上で行なわれていた。ただし頂上には水のないところを見ると、本格的な

山城ではなく、遠くまでながめが良いため、敵の動きを察知する見張り台ではなかったかと思われる。」

この「黒鉄山」の資料の概要は、平成19年3月6日に、赤穂市地域整備部農林水産課林務担当の室井氏から、筆者へ送られてきた記事、藤谷深「黒鉄山(くろがねやま) その二」(ふるさと思考第三十一号、青年公民館発行、平成13年3月)の中に紹介されており、手旗信号所であったことも掲載されている。この記事によれば、「黒鉄山」の資料は、平成11年当時、市史編さん室(室長は矢野圭吾氏)にはなく、藤谷深「八、黒鉄山(くろがねやま)」(ふるさと思考第三十号、平成12年3月)の記事を見た、赤穂市教育委員会文化財係から送付されてきたものだという。

平成14年1月、筆者が矢野氏へ黒鉄山・赤穂高山に旗振り伝承があるかどうか問い合わせたところ、不明との返信であったが、情報の把握に関する事情が判明したように思う。

黒鉄山が旗振り山であることは、地元では昭和59年に明らかにされていたが、平成13年まで再び忘れられていて、平成17年の「広報あこう」で、ようやく周知

され、平成18年の須磨岡田氏のガイドブックで広く知られるようになったというわけである。

岡長平「岡山太平記」(宗政修文館、昭和5年)によれば、「龍野―赤穂―寒河」と中継されたという。筆者はこれを「金輪山―赤穂高山―天狗山」と考えてきたが、黒鉄山が旗振り山と判明したことから、一直線に並ぶルート「金輪山―黒鉄山―天狗山」に修正すべきと考えられるようになった。赤穂高山が旗振り山かどうかは、依然として確定できないままであるが、「相場振山(天市)―天下台山―赤穂高山―天狗山」の可能性は考えられるだろう。年代や業者の違いによって、異なった複数のルートが設けられたのではないだろうか。今後の解明に期待したい。

インターネットで検索してみると、姫路市企画財政局政策企画課による「姫路市地域夢プラン」(平成17年作成)において、朝日中学校区の「京見山」(標高216m)と、東中学校区の「旗振り信号跡」(大平山、標高194m)の記事が見つかる。京見山の解説には、「旗振り通信も行われていたのではないかとわれています」との記述がある。立地条件から、「北山





奥山―麻生山―京見山―棚干」というルートが想定できる。  
 筆者の『旗振り山』の発行以降に出された兵庫県の関係文献を紹介しておこう。長田区民まちづくり会議が作成したパンフレット、『長田99+1選 名物マップ』(長田区役所まちづくり推進課、平成18年3月)には、神戸市長田区の名物の一つとして「3・ながたの旗振り山 正法寺」を紹介している。  
 『六甲・まや1001の大疑問』(神戸新聞総合出版センター編集・発行、平成19年3月)の中には、疑問74「山で旗を振ったのは何のため?」(84頁)と題した項目がある。この記事で、旗振り通信網を「旗ネット」と呼んでいるのが興味深い。

#### 【岡山県の旗振り場】

楠原佑介・本間信治「地名伝説の謎」(新人物往来社、昭和51年)に次のような記述があるのに気付いた(平成19年1月6日)。「米崎の西にある標高一二〇メートルの梅ヶ原山は、まるでコニーデ型の火山のような美しい形をした山である。地籍名にも梅ヶ原があるから地形図がまちがっているのではないだろうか、この山は地

元ではもっぱらトウケンショーと呼ぶ。漢字を当てれば遠見所であろう。  
 地元の小磯昇翁の説では、幕末に小串の丸山城址に備前藩の台場がつくられたとき、それに付随してこの梅ヶ原山の山頂に望遠鏡を備えて黒船の航行を監視した。それ以来、遠見所という名称が出たのだという。

たぶんそうであろうが、私が子供のころ聞いた話は少しちがっていた。つまり、大阪の米相場の隣藩を備前藩が即日知るために、狼煙をあげて伝えた。大阪から淡路島、小豆島、この梅ヶ原と経由して岡山の操山を最終中継点として城内に到達した。その番人がつめて、いつも遠見していた、という話であった。

渡辺久雄氏の『忘れられた日本史』には、同じ江戸時代の大坂―岡山間の通信を、手旗信号を使って送るルートが紹介されている。そのルートは島ではなく、内陸の山を利用するもので兵庫県各地の旗振り山なる地名があげられており、また現在のマイクローエーブコースと割合よく一致する事実が指摘されている。  
 当時の大坂―岡山間の通信ルートは、別に一つに限られたものではなかったか

もしれない。それに、私の考えでは狼煙がもし遠距離まで届くのならば、海上の島づたいのほうが早く送信できると思う。(2005201頁)

執筆者の楠原氏は『地名用語語源辞典』(東京堂出版、昭和58年)の編者の一人で、地名研究に造詣が深い。楠原氏の出身地は、児島湾に面した岡山県児島郡小串村(現岡山市)阿津であり、その南東方向3km付近に、児島半島東端の米崎と梅ヶ原山がある。

楠原氏(昭和16年生まれ)は昭和20年代に地元で古老から、梅ヶ原山と操山における江戸時代の狼煙伝承を聞いたのであるが、大阪から淡路島、小豆島を経由してきたという内容については疑問が多い。

大阪から須磨・明石・淡路島を経て、徳島に伝える明治9年当時の通信ルートについては、本誌68号で述べたとおりである。

児島半島や小豆島に旗振り伝承があるかどうかについては、本誌70号で考察したことがある。小豆島の最高峰、星ヶ原山に烽火台があったというが、旗振り伝承は不明である。

岡山市小串の梅ヶ原山(標高1226m)の山頂は、旗振り伝承のある西大平山(瀬戸内市・備前市)や旗振台古墳(岡山市、操山の南東)と通信できる立地にある。  
 梅ヶ原山の南方に浮かぶ豊島(香川県小豆郡土庄町)を中継すれば、高松市に送信できるが、筆者の知る範囲では、土庄町や高松市で旗振り伝承は見つかっていない。

梅ヶ原山と小豆島を中継することは可能であるが、小豆島と淡路島を中継することは相当困難であろう。小豆島と淡路島間の距離は、最も近い場合で34km、考えられそうな山頂どうしを結ぶと46kmとなる。江戸時代に実際に用いられた十三峠・ボンデン山の距離は46kmであったが、望遠鏡で通信できる極限であった(通常の通信距離は24km以下であった)。

海上では霧が発生しやすく、陸上での通信と比べても、便利であったとはいえない。楠原氏のいうように、通信ルートが複数あったことは間違いないが、海上の島どうしをつなぐルートはあまり用いられなかったのではないだろうか。

(つづく)

(平成19年3月24日成稿)



醒井に「梅花藻」を訪ねて

松永恵一

居醒の清水

醒井は水のまち。まちの東端賀茂神社の境内に湧き出る清水は「古事記」「日本書紀」に登場する名水。伊吹山の賊を退治にやってきた日本武尊が熱病に倒れた時、清水で体を癒されたところ高熱の苦しみがとれた霊水と伝える。「居醒の清水」と呼ばれ、「醒井」の由来となった。神話の時代より絶えることなく湧き出る清冽な水は、いくつもの湧き水が合流して地蔵川となって街道筋を流れる。水脈は霊仙山(1094m)の伏流水。

醒井は旅人達の憩いの場所。片側は中山道の町並を残す建物。虫籠窓、格子戸。反対側に桜、百日紅。その後ろの建物の間に地蔵川が流れる。春は水辺に満開の

桜がキラキラと輝き、夏は梅花藻と百日紅が咲く。秋は紅葉、冬は雪景色。

むすぶ手に濁る心をすすぎなば

浮世の夢やさめがいの水

阿仏尼

醒井の木陰の清水掬ふとて

しばし涼まぬ旅人ぞなき

鴨長明

水上は清き流れの醒井に

浮き世の垢をすすぎてや見ん

西行法師

水清き人の心をさめが井や

底のさざれも玉とみるまで

雨宮芳州

雨宮芳州は滋賀県高月町の出身。朝鮮通信使との折衝・応接に貢献し、善隣友好

梅花藻



互恵対等の姿勢は、高く評価されている。あらば今捧げまほしく醒井のうまし真清水ひと零だに

日清戦争の際、近衛師団長として台湾に出征された北白川宮義久親王が、熱病にかかり病床で水を求められたとき、師団参謀長鮫島重雄中将が詠んだ歌。聞かれた親王はにっこりされたという。

梅花藻とハリヨ

水温15度前後を保つ澄んだ湧水を好むキンポウゲ科の水生多年草で、梅の花に似た五弁の白い小花を咲かせることから梅花藻の名が付いた。地蔵川の梅花藻は、6月下旬から8月にかけてが見頃。川の水底に群生した鮮やかな緑色をした藻から、1丈にも充たない愛らしい花が一斉に川面から顔を出す。夏の終わりに、地蔵川沿いに植えられた百日紅の花が落下して、川面が白と紅で彩られる。地蔵川の透きとおった流れに身を任せるかのように、右に左にゆらゆらと揺れる梅花藻が水中ライトアップされて、妖艶な景をかもし出す。

地蔵川には、絶滅危惧の魚で天然記念物に指定されているハリヨが生息する。居醒の清水のほとりの地蔵堂前に備えられた水槽で見ることができ。トゲウオ科の淡水魚で体長は4〜6cm。岐阜・三重・滋賀の三県にのみ分布する。産卵期の雄の婚姻色は鮮やかで、目を見張るものがある。背鰭の棘は二本。梅花藻に寄生する水生昆虫はハリヨの好物で、梅花藻が繁殖することにより急流をさえぎり、営巣・産卵に絶好の場所を提供している。

中山道醒井宿

醒井宿は江戸から61番目の宿として栄えた。本陣一軒、脇本陣一軒、旅籠十一軒、問屋の数は他の宿場に比べ多く常時七軒以上あったという。問屋とは、宿場を通行する大名や役人に馬の提供や荷物の積替えなどの引継ぎ事務をおこなっていた所。街道に沿って流れる地蔵川の脇に醒井宿資料館(問屋場)が残る。問屋を営んでいた川口家住宅の一部で、宿場に残された建物が見られるのは全国的に見てもほとんどなく、大変珍しく貴重な建物。建てられた年代はよくわからないが、巨木を自然の形のまま使った柱や梁、手斧仕上げで通柱が多いなど、江戸時代でも古い様相を呈している。

将軍に献上される宇治茶を葵の紋の茶壺に入れて運んだお茶壺道中。「お茶壺本陣」は旅籠越後屋に置かれ、書院にはお茶壺を置く上段の間が設けられていた。歌川広重の描いた「木曾海道六拾九次之内静か井」は、古くから知られる名勝を避け、宿場の西の外れに六軒も同じ形の茶屋があったという六軒茶屋の辺りを東から西に向かって描いている。松の巨木越しに見える遠景は琵琶湖方面。

醒井宿資料館(旧醒井郵便局舎)

ウィリアム・メレル・ヴォーリズが、設計に携わっていたことで知られる木造二階建ての擬洋風建物。大正四年(1915)に建てられた。昭和九年に外側をモルタル張りしているため、一見すると鉄筋コンクリート造りの洋館のように見える。懐かしい郵便ポストがある。改築されながら昭和四八年まで郵便局として活躍した。国の登録有形文化財に指定され、一階は休憩施設、二階は江戸時代を通じて醒井宿の庄屋や問屋場を長く務めていた江籠宗左衛門家に伝わった古文書や醒井宿の歴史を紹介している。長さ53m30cmに及ぶ「醒井宿絵図」を見ると、現在の町割はほとんど江戸時代と変わっていない。

復元された電話ボックス、カウンターの跡など郵便局の面影が残る一階から、年代を感じさせる階段を二階へ上がる。昔の部屋がそのまま展示室に利用されている。窓は「座っていても外の景色がよく眺められる高さになっている」と説明を聞いた。ガラス窓に目を向けると微妙かに波打っている。手作りガラス越しに見える外は、陽炎のように見えた。





旧醒井郵便局舎

コース概観

「木曾路名所図会」が、「此駅に三水四石の名所あり、町中に流れありて至て清し、寒暑にも増減なし」と記した中山道醒井宿。伊吹山で楽しんだ後、時間があれば寄ってみたかったが、いつもまたの機会になっていた。日本武尊の伝説、地蔵川に咲く梅花藻。気分転換を兼ねて、清流のせせらぎに梅花藻が群生する趣のある街並に会いたくて出かけてみた。

JR東海道本線醒ヶ井駅下車。構内にある醒ヶ井コミュニティセンターで観光パンフレットなどを手に入れる。右手に醒井水の宿駅。北東の方向に伊吹山がきれいに見える。国道21号線を渡る。左に折れ右に入ると、六方旋の泡子堂。昔ながらのお菓子屋さん。ほっくりとした白あんの六方旋を食べながら地蔵川へ。3段に満たない川幅、水深30cmほど。ほとんどのきれいな綺麗な小川。ゆらゆらと揺れている白い可憐な梅花藻と対面する。名神高速道の防音壁を右にとると広重の描いた地。松並木、醒井宿のあった大和郡山藩の飛び地と彦根藩との境界に建てられた同じ形の六軒の茶屋があった。今はトタンをかけた茅葺の家が一軒。ギャラリー六軒茶屋として残る。

左にとる。右手に醒井三名水の一つ西行水。東国への旅の途中、西行法師はこの地の茶店に立ち寄る。法師が立ち去った後、茶店の娘は飲み残した茶の泡を飲んだ。娘は懐妊し男の子を産む。婦路、話を聞いた西行は、「もしわが子なら元の泡に返れ」と念じ、「水上は…」の歌を詠む。子はたちまち消え元の泡となった。「泡子墓 一煎一服一期終即今端的

雲脚泡」と記された五輪塔、児醒井の字が残る。水琴窟がつくられている。柄杓で西行水を汲み、石の上からゆっくり注ぐ。優しい音が伝説の世界へと誘う。

川の中に「十王」と記された石塔が建つ。醒井三名水の一つ十王水。平安中期の天台僧浄蔵により水源がひらかれた名水で浄蔵水と呼ばれていたが、傍らに十王堂があったことから十王水と呼ばれる。ニジマスが泳ぐ小さな醒井大橋を渡る。醒井宿資料館(問屋場) 界限は、最も当時の面影を残す。資料館では「醒井花鳥風月」と題したコンサートなどが年四回開かれる。虹鯉料理の本陣樋口山の玄関には、中山道を行き来し、宿泊や休憩した際に建物の玄関に掲げられた大名などの名が書かれた関札が展示されている。

醒井公会堂は昭和初期の公民館的な建物として貴重なものとなれ、国の有形文化財に登録されている。アーチを形どった窓や両脇の白い隅石とドイッ壁、腰壁上方の連続菱形模様の装飾などが特徴。梅花藻が流れを彩る醒井木彫美術館は、上丹生出身の彫刻家森大造と、今日の上丹生を築いた先輩彫刻家の常設室を備えた木彫美術館。土・日・祝日のみ開館。

地蔵堂は大垣城主石川日向守が病氣全快を感謝して建立したもの。鎌倉時代後期の御丈一丈二尺の花崗岩の地蔵菩薩坐像を祀る。昔は水中に安置されていたので、尻冷やし地蔵と呼ばれていた。8月23、24日に地蔵盆が盛大に行われる。

日本武尊が清水で熱を冷ましたと伝えられる居醒の清水は地蔵川の源流。加茂神社の裾よりこんこんと湧きだし池になっている。日本武尊が右手を高く掲げて立つ

ている。日本武尊にまつわる伝説の石がある。鞍を掛けて休まれた鞍掛け石、腰を掛けて熱を冷ました腰掛け石。蟹石。影向石。ねがい橋が架けられている。階段を上ってお参りする。社殿の上に名神高速道路がそびえている。道路建設で現在地に遷ったと記されていた。境内の端からの眺めは壮観。

旧中山道の雰囲気を楽しみながら、JR醒ヶ井駅へと向かう。地蔵堂の辺りに咲く不断桜、右手にヤマキ醤油・醤油屋喜代治商店の雰囲気のある建物が目に入る。白壁に虫籠窓と袖うだつが美しい。店先に大きな石灯籠がある料亭が元旅館

たみ屋。江籠家の門前に「明治天皇御駐蹕所」の石碑が立つ。彦根城の山門を移築した法善寺。右奥に了徳寺。銀杏の葉の上に銀杏の実が付くという天然記念物に指定されたの大銀杏「お葉付き銀杏」の推定樹齢は二百年。

懐かしい風景に触れながら、しばらく街道筋を散策する。地蔵川は果物や野菜などを冷やし、花などを浸すなど生活に密着している。各戸から川に下りる川戸と呼ばれる階段が設けられている。醒井大橋まで戻る。中山道から離れて

右の道を行くと醒井宿資料館(旧醒井郵便局舎)。左に松尾寺政所。本尊は空中より、飛来されてきたと伝わる飛行観音像。醒井水の宿駅を覗く。宿場料理居醒は和風ランチバイキング。喫茶梅花藻、居醒の清水でたてた自慢の名水珈琲を楽しむ。特産即販所で梅花藻のキーホルダーを購入し、醒井を後にした。

▲コース▼

JR醒ヶ井駅(5分) 西行水(5分) 十王水(5分) 旧問屋場(3分) 醒井木彫美術館(2分) 居醒の清水・加茂神社(10分) 旧醒井郵便局舎(5分) 醒井水の宿駅・醒ヶ井駅

△地形図V2万5千 彦根東部  
△費用▼  
醒井宿資料館 200円  
醒井木彫美術館 500円  
(問い合わせ先)  
米原市観光協会

0749(58) 2227  
醒井宿資料館 0749(54) 2163  
醒井木彫美術館 0749(54) 0842  
醒井水の宿駅 0749(54) 8222





〈山のレポート〉  
山の地名を歩く②  
「佐目子谷」  
西尾 寿一

鈴鹿山地にはよく登り、よく歩いたけれども、取り組み方によってはまだまだ謎の部分が残っている。

地域研究で特定の山塊を愛し徹底的に調べ、登山人生すべてをかけて打ち込む人は多い。この国の地方の山々は、そんな人達によって研究され解明されてきた。あの山城なら「あの人だ」といわれる人々の名と顔が浮かんでくる。山への愛に裏打ちされた執念とたゆまぬ情熱が優れた結果を生んでいる。

この国に山の数は多い。広く浅く見ていくのも手段として理解されるべきだが、一本道の山の人生も当然のこと評価されるべきものだ。

小生の「鈴鹿三昧」も長い間続いたが、一応の区切をつけて次へ進んでいる。飽き性なのか、それとも他の山々の魅力が大きすぎるのか、あるいは鈴鹿の謎の部

分を研究する人が増加し安心したためか、実態不明のままは自然のうちに前に進んでしまっている。

それでも、時々思い出したように鈴鹿の資料に目を通すときがある。そんなとき、ふと目に留まったのが「佐目子谷」の名称である。愛知川の有力な支流で、昔は炭焼きの多くいた谷筋だった。長い流路のわりに難所も無く通過できるが、上部でやぶが覆ってくる。

姫ヶ滝の脇をからんで「水舟ノ池」や「お金明神」へ登拝する道があって、佐目の集落ではよく利用されたのだが、永源寺ダムによって水没し、村は高台へ移転と、下流へ転居とに分かれた。昔の佐目を知っているのは少数となるなかで、往古の登山スタイルを反芻してみよう。

鈴鹿中央部の登山を終わり、茶屋川から、あるいは御池岳からの帰りの苦労は並大抵のことではなかった。通りがかりの車に便乗したり、夜中歩き通してタクシーの来る村落まで行ったりした。佐目の集落がダム工事で破壊されてゆく姿を目の当たりにして絶句したこともあった。そんな佐目の村が妙に気になって、その由来を考えてみたくなった。

みると次のものがある。

- イ 沢目 谷川の出口・出合の集落
- ロ 境目 境界を示す地点
- ハ 醒 目がさめるまたは「ささめく」「さめく」水の音
- ニ 白眼 牛馬の目の色や長い毛並が青白く特色があること
- ホ 沢の岩石の色調
- ヘ 寒ノ神(境ノ神)の所在地
- ト 狭・冷・寒・清・浅などの漢字に 対応する意味

以上となるが、困ったことにいずれの場合も無視できない意味をもっている。

②は東北地方に川目と共に多く、沢が本流に出合う場所であったりだ。③も境目をサメと言うことがあるので佐目もそれに当たる。④は醒々井がそれらしいので外してもよいが⑤は⑥と同じ理由で可能性は残る。⑦と⑧は外してもよいが⑨についてはいまいち荒唐無稽な説とは言い難い。なぜなら「お金明神」の伝説があるからで、山の怪物が襲ってくる話は現代のSF映画のようで見事な飛躍をみせる。

東北の沢目で考えるべき例として「目」は戸と同じく余戸のように山間の小平地

に使われている。吉田東伍「地名辞書」で「戸」は或は部、目又は幣、辺にも仮る。本来イエの義にて此れは数戸、数煙の集落を指せる称」とあるように、一戸一戸などの由来が説明できる。現在この地名をもつ所は説明通りの小集落でなくなっているが、開拓時代の地名としては納得できるものだ。そしてそれらの地名に付された数字のナンバーは開拓の順序を表していると言える。

東北地方には「目」地名が特に多く、旅の途中に1日に二〜三個の目に出合うほどである。

川目、上・中・下川目、内川目、南北川目、堅川目、横川目、西川目、川原目、種戸川目、山屋川目、境川目、浜川目、里川目、沢川目などいくつもある。それらの地名は、ほとんどが川と川の出合が大川と支流の出合いの集落であった。

「川の、溪谷谷の平地」(日本国語大辞典、小学館)であって、開拓者は最も早く住居を定めるべき場所に選んだのだろうし、そんな場所はこの国の自然の中に無数に存在する。そしてそんな「川目・沢目」地名は、その土地が歴史を重ねるうちに新しく発生した要因によって、よ

佐目は愛知川に合流する相当水量の多い支流の出合に存在した。その支流の名を佐目子谷、あるいは佐目ゴ谷と言った。古典的名著である住友山岳会の「近畿の山と谷」の「補記」で「佐目ゴのゴといふのは河(ゴ)に意味し、従って佐目ゴ谷と称するのは重複であるとする説もある」と述べているが、おそらく正解であろう。最近では「佐目子谷川」とする地図もみられるが、これは三重複だろう。「佐目の川」でよいのだと思われるが、それを証明できるか否かは別として、次のような例がある。

神崎川(愛知川と一般的に言われる)が愛知川と名を変えるあたりに「ミナゴ」(南川)の名が残っており、役場の台帳にもあったことから信用に足る地名と考えられる。

この例から考えると、川を河(ゴウ)と理解できると思われ、先の住友山岳会の説は極めて妥当と言えよう。子・ゴの用字は全て川・河と言ってよいかと思う。問題は「佐目」のほうである。佐目は、愛知川筋だけでなく犬上川筋にもあって、何らかの共通性がある可能性があり、醒々井も存在する。佐目(サメ)を資料で

り適切な地名に改名されていったものと思われる。従って山間の川目はいつまでも変化なく、都市部が次々と改名され全く忘れ去られたものもあると考える。東北地方に残る多くの川目は開拓が比較的新しい時代になされた故に、変化の度合いが少なかったと言えるのである。

都市の地名が幾度も改名されるという歴史的試験を受けたのに対し、今も残る川目地名は純粋で素朴な一次的要因をもつ大切な地名であることがわかる。

なお「余目」は、「余部」または「余戸」が本来の姿なのではなからうか。

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372



(里山シリーズ40 東近江市)

兵乱の舞台、歴史と伝説の

長光寺山(瓶割山)・巖蔵山

一般コース(★)  
長宗 清司

JR東海道本線(琵琶湖線)近江八幡駅から南東方向に目をやると、ラッタの背を伏せたような二つの丘陵が見える。左が長光寺山(瓶割山)、右は巖蔵山(地元では通称西山)である。

近江八幡駅で近江鉄道に乗り換え、次の武佐駅で下車する。武佐は、中山道近江路の九つある宿場町の一つで、ここを起点として、伊勢に向かう八風街道(現在の国道421号線がほぼ踏襲)や八幡町内へ分岐する交通の要所である。

武佐駅から見える北側の踏切を渡り、西へさらに南へ、東海カーボンの横の道を南行すると、正面に見えるのが瓶割山である。

北からの登山口は、墓地の脇にあり幅2畝余の山道を登る。長光寺山(瓶割山)は、山頂部を中心に築かれた山城の遺構(いくつもの曲輪・石垣・堀切)が残る山で、古く応仁の頃、佐々木一族によって築かれた。

百年の世を経て、織田信長の傘下に入り、猛将として世に知られた柴田勝家が守護した長光寺城だが、元亀元年(1570)、六角氏が攻撃の際、攻めあぐねた六角軍は城の水源地を断つ作戦に出たが、これを知った勝家は、水が乏しいにも拘らず、これを知られまいと、わざと水瓶を壊して味方の士気を奮い立たせ、ついに六角軍を破った。以後、この山を瓶割山と言うようになった。

鉄塔から尾根には踏み跡があり、城跡の見張郭や本丸の位置を示す標木のある広場、土橋などを経て3等三角点(234・5)に着く。

ここから巖蔵山との鞍部までは急下降。踏み跡は途絶え、かなりの傾斜地である。倒木・雑木・イバラを避けながらくるとアスファルト道に出る。小峠から少し北へくだった所で、左の篠竹が生い茂るなか、三つあるタンクの場所に出る。

無造作に四角に割った石も残っている。頂上をきわめて西へくだる。西麓には貴重な文化財をいまに伝える、冷泉寺・西米寺・福寿寺・真光寺・馬見岡神社などの寺院や神社があり、想像もできないほど多くの歴史が刻まれた地域と言える。江戸時代中期造成の名園(池泉回遊式)で有名な福寿寺の境内には、掘とモッコクの見事な古木に出会った。

妙感寺の庭園を拝観して、上部にある諏訪神社内の古墳(石室)を見学後、白鳥川を渡り、雪野山域の倉橋部山に向か

う。集落の西麓寺の裏山から尾根に登る。秋はマツタケ山である。鞍部から南の安吉山へは、尾根通しでなく、一度西田井橋の所から直登。4等三角点(1991・2)の標石は訪ねる人もなくきれいだっ

た。昔、和泉式部が竜王寺にしばしば通った歌坂の峠道を浄土寺町の集落にくだる。再び岩倉のバス停に向かって倉橋部町へ。矢鎗馬の里、正一位安吉大明神(安吉神社)に立ち寄る。安吉山は、「日本書紀」にも出てくる山である。



倉橋部町東の西田井橋から西山を望む(左巖蔵山、右瓶割山)



巖蔵山は名の通り岩の宝庫。昔、安土城や大坂城にまで石垣用に地元石工が切り出して運んだ山で、灌木帯のなかに岩がゴロゴロ。小さく砕いた石は丸く、

(平成11年12月5日歩く)

⑩ 歌坂から尾根伝いに雪野山への道があるので、時間と脚力のある方は足をのばされるのも一興である。

\*コースの山中はやぶ漕ぎを覚悟。

☆コースタイム☆

JR近江八幡駅(電車5分) 近江鉄道武佐駅(20分) 登山口(30分) 瓶割山(30分) 三つのタンク(15分) 巖蔵山(30分) 福寿寺(10分) 妙感寺・馬見岡神社(5分) 諏訪神社(50分) 西麓寺(30分) 安吉山三角点(40分) 歌坂(30分) 安吉神社(45分) 岩倉バス停(バス10分) 近江八幡駅

△地形図▽  
2万5千1近江八幡・八日市・日野西部(問い合わせ)

近江八幡市観光案内所

☎0748(33)6061

東近江市役所 ☎0748(24)1234

近江タクシー(近江八幡) ☎0748(37)0106

近江鉄道バス八日市(営業) ☎0748(22)5511



下山時のエスケールルートで歩いた  
槍ヶ岳への新ルート

## 奥丸山直登コース

山田 明男

7月15、16日、槍ヶ岳に初めて行った。14日、夜は民宿に泊まり、15日、朝6時15分に新穂高温泉を出発。右俣経由で槍ヶ岳山荘には14時35分に着けたが、強い風と雨で槍ヶ岳山へは行けず待機となった。16日、朝5時半に雨風も弱くなり、空身で山頂を往復した。

槍の山頂に三角点はないはずだが、三角と読める標石があり、多分御料局の標石ではないかと思われるが、三角以外の文字は消えていて読めなかった。

梅雨前線が下がってきていて天候はしばらくは雨。三連休で入ったが、穂高への縦走は諦めてすぐに下山することにした。槍平小屋までの登山道も川になって

いる場所が多かった。帰りの流谷・白出沢の渡渉を心配していたが、本当になってしまった。

槍平小屋で休憩中、新穂高登山指導センターから白出沢の渡渉が困難だと連絡が入った。実質的な川止めである。帰りの際、奥丸山へはこの小屋の手前から行けるのは確認していた。新ルートが左俣から奥丸山へ出来たのを、昨年新聞で見知っていたからである。どうしても早く帰りたい人は奥丸山経由でと話しが合ったが、小屋の人も実地に新ルートは歩いていないようだ。昨夜、槍ヶ岳山荘で私達の前で食事をしていて親子は、帰りたいうそでコースの詳細を聞いていた。

小屋のすぐ裏で川を渡るのだが、行ってみると、親子が渡るころだった。我々も続いて歩き始める。小屋にいた3人グループも後に続く。小屋の主人に板を渡してもらって川を渡る。思った以上に流れが速く、かみさんも足をすくわれけけてしまったが、ずぶ濡れにはならなかった。

尾根を登っているとさらに4人が続いて来ている。皆早く帰ったかったのだろう。岐阜市の女性2人は残ったようだ。

と小屋で聞いていたが、30分歩いても分岐は現れず、新しくササが切り払われた感じになってきた。「新穂高温泉まで8km」の表示を見たが、新しいものはなかった。40分で自立ツープがあり、分岐だとわかった。

分岐から、下の左俣林道までテープと黄色い杭が続きは1から190番ほどだった。分岐からは急な下りが続き、新たなルートはまだ固まっておらず、少しぬかるむ。今回は通るつもりで来たわけでもないのよいが、登りはきつそうである。一方、なかなか行けない奥丸山に來れたから良かったとも聞いた。奥丸山から2時間程で小池新道の分岐の橋を渡った。この新ルートでも一つ沢を渡ったが、渡れないほどの水量でなくてよかった。鏡平の方からくだったってきた3人の女性に話を聞けば、残雪が多くて戻ってきたそうだ。橋の下流100m程の左俣本流は雪で覆われ、水は下を流れスノーブリッジになっていたのには驚いた。林道の雪渓を越えてくた。

ワサビ平小屋までは15分程度で到着し、電話で槍平小屋へ14名無事下山と伝えた。道ははっきりしていたので、親子連れも

奥丸山、手前は下丸山（小池新道より見る）



百名山は道も道標もすっかり歩いて誰でも歩けるが、逆に鈴鹿のような道のはっきりしない山のほうが一般には歩き辛いだろう。有名な所しか行っていない人は、全く未知のルートは不安なのだろう。総計16人がこのルートでくだったのが、先行する親子には追いつけなかった。

道の無いやぶ山を歩いていて自分としては、昔の仙道でもはっきり見とれる

たぶん下山したと思われるとも伝えた。小屋近くでサイハイラン・コケイランが見られ、左岸に移ると、昨日は雷だったオオヤマレンゲが咲いていた。川の水はずいぶん増えていて雨が強く降ったようだ。槍平小屋に残っていたらいつ帰れたかわからなかった。

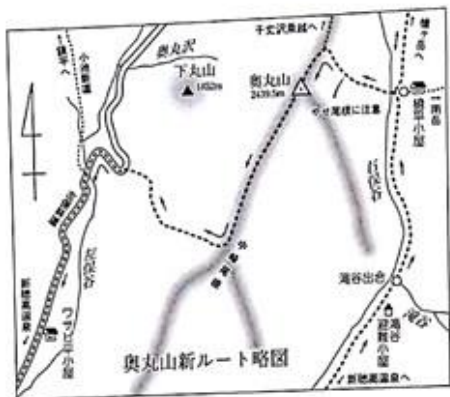
とてもきつかったが帰れるルートがあったよかった。槍平小屋の小屋主が板を渡してくれたお蔭でずいぶん助かった。この場を借りて御礼申し上げます。

(平成18年7月15・16日歩く)

### △参考コースタイム▽

（上り）新穂高温泉（1時間）穂高平遊  
難小屋（1時間）白出沢（1時間20分）  
流谷（1時間）槍平小屋（1時間25分）  
千丈乗越分岐（1時間30分）飛騨乗越  
（15分）槍ヶ岳山荘（1時間）山頂往復  
（下り）槍ヶ岳山荘（1時間）千丈乗越  
分岐（1時間10分）槍平小屋（1時間20  
分）奥丸山（40分）左俣分岐（1時間）  
小池新道出合（15分）ワサビ平小屋（1  
時間10分）新穂高温泉

△地形図▽  
2万5千II 槍ヶ岳・三俣蓮華岳・笠ヶ岳



ので不安はない。美濃の高丸山・笠ヶ岳・猿ヶ馬場山・御前岳にもやぶ漕ぎで行ってきた。いつも同行している人はよくわかってるので、ついて来る。

奥丸山頂上までは標高差4000mで1時間位とみていたが、1時間20分で到着した。山頂付近にニコウキスゲが咲いていた。先に行ってもらった4人は待っておられた。この先歩くコースがよくわからなかったのだらう。

中崎尾根を30分位歩いてから右にくくだ



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

## 京阪電車

▽スポンチファミリーハイク「星のプランコ」・星田妙見宮から逢合橋へ。7月7日(出小滝行・荒天中止)集合 私市駅前公園9時30分〜10時(コース) 私市駅前公園一星の里いわふねーほだ園地(ビトンの小屋一星のプランコ)一星田妙見宮一星の森一星田公園一光林寺一天野川緑地一交野橋一逢合橋一交野市駅前(約11時一般向) 参加費無料、京阪電車ハイキング担当06(6947) 3702

## 叡山電車

▽歴史ウォーク「一乗寺・慈雲院」7月3日(雨)雨天中止(集合)一乗寺9時30分〜10時(コース)一乗寺駅一乗寺辻児童公園一蘭光寺一薬山観音一曼珠院一神楽寺一赤山神社一御蔭神社一龍瑞光院一八潮比叡山口(約5時一般向) 参加費無料、叡山電車営業課075(702) 8111

## 京都市バス

▽三角点トレック「蛇谷ヶ峰コース」7月7日(荒天中止)7月14日(集合)京阪出町柳駅地下コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)榮野橋一猪の馬場一天狗の森一蛇谷ヶ峰一与市谷一ふれあいの里(バス)出町柳駅(約9時)参加無料(バス代別送)参加定員200名、電話申込制(6月7日(雨)9時より受付)(申込先)京都市バス運輸部075(871) 725112

## 神戸電鉄

▽火曜ハイク「六甲部分経走路」7月3日(雨)雨天中止(集合)魚屋道登山口(有馬温泉駅へ約15分)10時(コース)有馬温泉駅一魚屋道一水無山一大平山一岩倉山一阪急宝塚駅(約15時健脚向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

## ▽木曜ハイク「菊水山・石井ダム

コース」7月5日(雨)雨天中止(集合)鈴蘭台駅9時〜10時(コース)鈴蘭台駅一菊水山一石井ダム下流一管理用道路一鈴蘭台駅(約6時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイク「やなせ苑と小野富士コース」7月8日(雨)雨天中止(集合)市場駅10時(コース)市場駅一やなせ苑一惣山(小野富士)小野駅(約12時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽木曜ハイク「シユラインロードコース」7月12日(雨)雨天中止(集合)有馬口駅9時〜10時(コース)有馬口駅一逢合橋一シユラインロード一記念碑台一六甲ヶ丘一山ノ上(約8時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽駅長ハイク「山田道・再度公園コース」7月14日(雨)雨天中止(集合)谷上駅10時(コース)谷上駅一関の茶屋一高川湖一再度公園一牛の背一軒茶屋一北鈴蘭台駅(約10時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

## 8(592) 4611

▽木曜ハイク「出雲神話の神出の里コース」7月19日(雨)雨天中止(集合)緑が丘駅9時〜10時(コース)緑が丘駅一雄岡山一雄岡山一小林池一志楽駅(約7時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイク「裏六甲地獄釜湯・記念碑台コース」7月22日(雨)雨天中止(集合)大池駅10時(コース)大池駅一地獄釜一ノースロード一記念碑台一六甲ヶ丘一山ノ上(約7時健脚向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽木曜ハイク「有馬六甲湖遊コース」7月26日(雨)雨天中止(集合)有馬温泉駅9時〜10時(コース)有馬温泉駅一紅葉谷道一極楽茶屋一六甲最高峰一魚屋道一有馬温泉駅(約11時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽駅長ハイク「新湊川コース」7月28日(雨)雨天中止(集合)紫水山登山口(鈴蘭台駅前)約7時〜10時(コース)鈴蘭台駅一紫水山一石井ダム一鳥居野水滝一新

## 淡川沿い一会山公園一淡川駅

(約8時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽木曜ハイク「菊水山・再度公園コース」8月2日(雨)雨天中止(集合)鈴蘭台駅9時〜10時(コース)鈴蘭台駅一菊水山一再度公園一牛の背一鈴蘭台駅(約9時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽谷上駅山の家オープン2周年「谷上乗船の登山道・森林植物園周遊コース」8月4日(雨)雨天中止(集合)谷上駅(ロジック谷上)10時(コース)谷上駅一山田道一森林植物園一徳川道一黄葉谷一炭ヶ谷一谷上駅(約9時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽火曜ハイク「地獄釜・桜谷道コース」8月7日(雨)雨天中止(集合)鈴蘭台駅10時(コース)鈴蘭台駅一酒川湖一布引谷一地獄釜一柳原台一桜谷道一マムシ谷一炭ヶ谷一谷上駅(約15時健脚向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽木曜ハイク「丹生山田の里」

## 8月16日(雨)雨天中止(集合)

藍鳥駅9時〜10時(コース)藍鳥駅一藍那小学校前一丹生宝庫一六條八幡宮一太滝口一箕谷駅(約10時一般向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイク「竹中半兵衛の墓・平井山ぶどう狩りコース」8月26日(雨)雨天中止(集合)恵比須駅10時35分(コース)恵比須駅一若菜神社一八雲神社一竹中半兵衛の墓一平井山ぶどう園(入園自由・有料)一恵比須駅(約5時健脚向)参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

## 会員募集

大阪低山登山会 大阪府橋連加盟

主に近畿周辺の山々を日帰り楽しんでるグループで、今年で27年目になります。歴史ウォークや山麓ハイクなどの軽ハイキング・初級・中級の登山や時には道も無い登山にも登ります。例会は日曜祝日だけでなく平日山行も開催しています。40〜70歳位までの山と自然が好きなお方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。

〒536-0006  
大阪市城東区野江2-5の19  
慶佐次盛一方

山陽電車の計画は暑い夏にはありません。近鉄の計画は編集の時点で詳細が不明で掲載していません。近鉄の駅構内に置かれているパンフレットでご確認ください。



# やせらび

題字・小林琉璃三

3月早々、奈良県桜井市の外  
 鎌山(2933m)へ登った。高  
 給で寒さ嫌いの私だが、4月下  
 旬並みの暖かさと晴天が続いた  
 ため、今年初めての山歩きを実  
 行したのである。

外鎌山は、朝倉富士・忍坂富  
 士と別名を持つふるさと富士で  
 あり、標高こそ低いものの、頂  
 上からの展望はすばらしかった。  
 特に西方が大きく開けていて  
 香具山・畷傍山・耳成山の大和  
 三山が展望され、その後方には  
 金剛山・葛城山・二上山が遠望  
 された。北方には三輪山や巻向  
 山も近くに眺められているが、朝  
 山には全て登っているが、嬉  
 しくて、時の経つのも忘れるほ  
 どであった。

下山は忍坂方面とし、大伴皇  
 女墓、鏡女王墓、舒明天皇陵を  
 拝観後、古い家並を残す忍坂街  
 道へ出てウオークを楽しんだ。  
 帰路での何よりの収穫は、朝  
 倉台西住宅の最も高い場所にあ  
 る忍坂古墳の上部から、外鎌山  
 の全容を展望したことだった。

幸先のよい山登りが体験でき  
 たが、外鎌山の知名度が低いこ  
 とに、奇妙な思いを抱かされる  
 各種の地図を見ても出ていない  
 し、歩き始めた近鉄大和朝倉駅  
 前の案内板にすら載っていない。  
 山と溪谷社の「ふるさと富士登  
 山ガイド(関西周辺)」にも詳  
 しく紹介されてなく、「目で楽  
 しむふるさと富士」として触れ  
 られているに過ぎない。

家内にインターネットでいろ  
 いろ検索してもらったが、地元  
 の桜井市から送ってもらった資  
 料が最も役に立った。

(枚方市 東谷 宏)

新ハイキング関西45号で「残  
 雪の尾根を歩く、金養岳・白倉  
 岳から花房尾根」を紹介したが、  
 このコースを毎年4月の第二日  
 曜に最後の雪山歩きとして、親  
 しい仲間達と登っている。

年によって違うが、イカリソ  
 ウ・フキノトウ・キンキマメザ  
 クラ・マンサク・タムシバ・ダ  
 ンコウバイ等の花々を愛でなが  
 ら、大バノラマの雪稜歩きは最  
 高だ。

去年は近年にない豪雪、車を  
 鳥越林道に乗り入れるのは無理  
 かと思ったが、崖崩れ補修工事  
 で除雪してあり途中まで入るこ  
 とができた。

中津尾根は深い雪で右側の植  
 林帯を登る。上部の林道を過ぎ  
 ると積雪が増え、大バノラマが  
 展開。金養・白倉・花房尾根は  
 靑空に白く輝き、天空に白の大  
 回廊が展開した。黄砂の上に薄く  
 雪が積り、黄色のトレースを残

して登る。

金養岳はドーム状の大雪原で  
 360度の大眺望。伊吹・奥美  
 濃の山並、琵琶湖を望む。  
 深谷の谷の左側は4.5m以  
 の垂直の雪の壁。白倉岳に登る  
 とここも広い雪原。金養岳の南  
 斜面の雪は薄い青・白・黄色の  
 淡い縞模様になり輝いている。  
 ・彩雪は青・白・黄色縞模様淡  
 く輝き一期一会か

少し下りた灌木の横の雪原で  
 の昼食は春の山菜天ぷら。フキ  
 ノトウ・タラノメ・ツクシなど  
 で盛り上がった。

奥山へと続く雪稜はいたる所  
 に亀裂が走り、その横を長靴で  
 ルンルン気分で踏破。奥山から  
 は今日歩いた全コースを眺めた。  
 ・靑空に白の回廊輝いて金養ブ  
 ラボー・ブラボー白倉  
 滝谷山を下りて旧道に着いた  
 が、雪に埋まった倒木がずうと  
 続き、乗り越えもぐり込み廻り  
 込み、ヘトヘトになったが、最  
 高の雪山となった。

(近江八幡市 岩野 明)

名鉄可児川駅で市観光協会発  
 行のカタクリ群生地マップを

もらう。カタクリで町おこしを  
 しているようだ。3月末に開花  
 と聞いていたので4月早々出か  
 けたが、残念ながら最盛期は過  
 ぎていた。

気を取り直し、斜面を南向き  
 に突き上げるとあずまやがあり、  
 平家岳・別山・白山・大日岳・  
 槍・穂高・栗根・御嶽、手前に  
 納古山が見られ絶景だった。  
 尾根を西にヒカゲツツジのト  
 ンネルを潜りつつ、313・5  
 丁の3等鳩吹(はとぶき)山、  
 南西向きを変え4等の339・  
 9丁西山と273・1丁懸鹿尾  
 (つがお)山を小縦走した。  
 途中でシテコブシも見られる  
 という幸運もあり、青春18き  
 っぷが無ければまず来ることがな  
 いであろう三座を得た。

余談ながら、朝のJR内で  
 『京都府の三角点峰』等の筆者  
 と乗り合わせ、我々と一緒に鳩  
 吹山をお誘いしたが氏は自分の  
 計画通り行かれた。さらに余談  
 を重ねると氏は翌日、鳩吹山か  
 ら私達と同じコースを歩かれた  
 と聞いた。青春18きっぷの成せ  
 る枝に強烈な涙みを覚えた。

(向日市 湯浅康夫)

たぶん冬ですな

今年の冬は暖(ぬく)かった  
 ちょっと歩くと汗が出る  
 スキー場には雪がない  
 ゴルフ場にも雪がない  
 困る人と 喜ぶ人  
 雪が降るのに熊が出た  
 冬眠できずにうろうろと  
 空腹抱えて困ったんだね  
 野に野犬あり  
 山に野犬あり  
 心して  
 山に入られよ  
 オレの人生  
 山あり 谷あり  
 海あり 川あり  
 酒もある  
 先がないのに  
 やることまだある七十一歳

(熊谷市 山形 明)

(六甲讃歌・新生篇)

06年1月24日 最高峰  
 塵の存在でも僕は生きている  
 ビックバンの光降り注ぐ地球  
 06年2月5日 市章山  
 ビーナステラスに愛の鍵かける  
 恋人達は夢繋ぎ合うために  
 06年4月2日 夙川緑道  
 涙色した雨のトレモノ聴いて

さくらの土手で君はゆれてた

06年6月21日 再度山  
 地平線に沈まない周極星のよう  
 君はいつでも僕らのそばに  
 06年7月7日 摩耶山  
 散開星団のちらばる山の駅  
 手招きしているよアジサイ娘  
 06年10月8日 渡雲台  
 見晴らしの塔に登りて妻は笑む  
 風の楽譜でハミングをして  
 07年2月15日 寒天山道  
 この道を進むしかない時は今  
 なにかに僕は生かされている  
 07年2月26日 荒地山  
 岩はしこよじ登り岩道に願う  
 わが遊び場でここ生き返り  
 07年3月4日 黒岩谷  
 生きてよかったでしょう花が  
 マンサクの花がささやく道  
 07年3月19日 ごろごろ岳  
 こもれば光る谷間でふりわけば  
 生きてきた一筋の道が見え

(吹田市 木村太郎)

2月4日、東海自然歩道の川  
 原越えから志津山(津屋山)へ  
 行った。かなり遠くまで見通せ、  
 北アルプスも見えた。  
 2月11日、鈴鹿の綿向山で霧  
 米が見られきれいだった。

2月18日、雲仙山に行くも雪  
 が少なく、フクジュソウの花芽  
 を山頂部でも確認できた。  
 2月25日、日原岳(例会で行っ  
 た。2年前より1ヶ月早いのに  
 雪は半分以下と少なかった。熊  
 らしき足跡があったのには驚い  
 った。

3月4日、長野県の大川入山  
 へ行った。雪は少なく、3時間  
 で山頂へ行けたが、北から入っ  
 た新ハイの仲間が、雪が多くて  
 5時間かけて山頂に着いたらしく、  
 出会えずに帰った。

3月11日、愛知・静岡県境の  
 1等神石山から石巻山へ縦走し  
 た。葦毛湿原から歩いたので12  
 分程あり、雪を被ったきれいな  
 富士山が眺められた。

3月17日、藤原岳へ花見に行っ  
 た。6〜7日に降雪があり、花  
 は雪の下だった。雪の無い所  
 でセツブンソウ・フクジュソウ  
 が見られた。麓で多くの花が  
 咲いて40種類も見られた。

3月24日、金華山で新たな宮  
 三角点を確認。東坂ルートと唐  
 釜ルートの合流点にあった。巡  
 視員の話で図根点があると聞き、  
 掃りに探せば宮三角点だった。



SHCサービスチェーン

<p>青腫病の名湯・山梨料理 登城香妻スカイライン入り口 新野地温泉 相模屋旅館 〒0242-1513 0242-1514</p>	<p>秋田新設山形地 秋田の温泉・心斎橋大温泉 〒0177-2811 0177-2812</p>	<p>秋田新設山形地 秋田の温泉・心斎橋大温泉 〒0177-2811 0177-2812</p>	<p>目切バス・温泉浴 日本百名山知多登山 くの部 目切バスは一人様より別室 湯船にまで承ります。お泊りするお客様 お心手配します。お泊り用お申し込み 〒099-1440 099-1440</p>
<p>阿武隈の名湯 登山登山の自然あふれる宿 彩の里 紅彩館 〒0242-1513 0242-1514</p>	<p>あみはりロッジ 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>八幡平グリーンホテル 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>大雪山層雲峡ユースホテル 〒078-1170 078-1170</p>
<p>森の家ペンション木末 〒0242-1513 0242-1514</p>	<p>新ひの宿 翠館 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>妖精の森 コテージリトル 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>知床岩尾別ユースホテル 〒096-1435 096-1435</p>
<p>尾瀬小屋 〒0242-1513 0242-1514</p>	<p>さんぞう もみの木 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>駒ヶ岳観光ホテル 〒0110-1514 0110-1514</p>	<p>温泉ペンション 森のふくろう 〒096-1435 096-1435</p>

SHCサービスチェーン

サービスチェーン



新ハイキングクラブ

3月31日、野伏ヶ岳へ例会で  
行く。雪の状態が良く速くに登  
下山できたが山頂は強風だった。  
4月1日、深美のシデコブシ  
群落四ヶ所と大山・知多の鍋山  
を登った。シデコブシは盛りを  
過ぎてはいたが、まだきれいだっ  
た。  
4月7日、8日、繰り上げ開  
催の例会で火山・傘山・御前岳  
に行った。火山は簡単だったが  
傘山へはよぶ滑になった。御前  
岳は6時間で到着。食事中に栗  
ヶ岳から一芝夫婦登場、森茂峠  
から6時間で来たそうだ。雪の

状態が良く10時間で往復できた。  
(海津市 山田明男)  
3月13日、兵庫県ユースホス  
テル協会発足50周年記念の式典  
に出席した。今の会員は当時の  
10分の1、3000人程だそう  
で、昔の華やきはなく、昔の思  
い出話に花が咲いた。新ハイの  
皆もずいぶん世話になったは  
ずで、思い出は尽きないと思う。  
挨拶で、OBに新生兵庫県ユ  
ースホテル協会に力を貸してほ  
しいと結んだのである。手始め  
に古い仲間のホスティング計画

を発表していた。  
ずいぶんとご無沙汰していた  
ユースホテルへ泊まってみた。  
場所は道後温泉近くの松山ユ  
ースホテル。建物は古く、当時  
の雰囲気も残りけっこうラッ  
クスできた。宿泊者は若者から  
中年まで幅広く、夕食ではアル  
コールも飲める。  
孫のような静岡から来たサイ  
クリングクラブの学生とトラ  
ップをやりながら、当時を回想し  
た。  
少しの時間であったが現在の  
若者と接する幸せももらった。

若者やわが子供達との会話不足  
を嘆かれる諸兄にはお勧めした  
い施設である。  
今後、若者と対話がしたくなっ  
たら出かけることにしよう。  
(姫路市 須藤岡 輯)

新ハイ・サービスチェーンご利用について  
ここには、東京本社「新ハイキング」(月刊誌)に掲載のサー  
ビスチェーンを一括して本誌「関西の山」にも掲載してありま  
す。  
最近、登山する人が増え、遠方の山にもマイカーなどで手輕  
に行かれる方が多くなりました。一番困るのは、安心して利用  
できる登山基地の宿情報が少ないことです。サービスチェーン  
は「新ハイキングクラブ」グループの特約の宿です。新ハイ関  
西の会員証を提示いただければ、宿によって異なりますが、  
「宿泊料金の割引」「登山地までの送迎」「飲み物のサービス」な  
ど、何らかの特典が受けられます。どうぞご利用ください。



**山行計画**  
(7・8月)

新ハイキングクラブ 40頁

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるのは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただく場合があります。山行申し込み後参加できなかった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。「傷害保険」は2日(200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)  
 死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
 入院保険金 5000円  
 通院保険金 2500円  
 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④前泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

**山行計画の実施と申し込みについて**

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信するのと、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
  - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース (3〜4時間コース)
  - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山 (5時間コース)
  - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース (6〜7時間コース)
  - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース (6〜7時間コース)
  - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ過ぎの連続など、ハードなコース (7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

7月	行先	定員	リーダー	サブ
1回	京都北山・滝又の滝・東俣山		村田	
2(昨夜〜3)	大峰・下多古川上流・大峰山尾根(沢歩き)	*10	田中賢	
5(木)	南美濃・冠山	24	木村	
6(金)	大峰・弥山〜八経ヶ岳	25	西上	
7(土)	越美・熊野白山	20	鷺見	
8(日)	台高・木屋谷川本流(沢歩き)	*6	田中賢	
8(日)	鈴鹿・元越谷(沢歩き)	*	岩野	
8(日)	湖北・奥山(深谷山)	22	森脇	
17(火)	鈴鹿・神崎川(沢歩き)	*10	田中賢	
28(土)	湖北・塩津山〜三角点足田		高島	
28(土)	名張・赤目溪谷		稲垣	
28(土)〜29(日)	白山・中宮山〜百四丈の滝	10	山田	
29(日)	比良・八洲の滝めぐり		秦	

\*リマイカー山行

8月	行先	定員	リーダー	サブ
2(木)	南紀・百間山溪谷	24	木村	
4(昨夜〜5)	白山・白山駅遊岳	10	山田	
5(日)	湖北・七尾山	22	森脇	
5(日)	比良・白滝山〜白滝谷		村田	
12(日)	鈴鹿・須谷川(沢歩き)	*	岩野	
12(日)〜14(火)	白山・平瀬道〜中宮道〜ブナオ山	20	山田	
14(昨夜〜17)	西中国・十種ヶ峰〜安蔵寺山〜寂地山	22	村田	
17(金)	大峰・伯母谷〜大音賢岳	25	西上	
20(昨夜〜21)	大峰・前鬼川孔雀文谷核心部(沢歩き)	*10	田中賢	
21(火)	六甲・東お多福山		仲谷	
25(土)	越美・金草岳	20	鷺見	
25(土)	湖北・日計山		高島	
26(日)	北摂・丸山温泉		木村	
26(日)	京都北山・佐々里峠〜小野村割岳	40	村田	



京都北山歩き122  
 滝又の滝から東保山(二較向き)  
 期日 7月1日(日) 日帰り  
 集合 JR京都駅前JRバスの  
 りは8時00分  
 コース 京都駅(バス)愛宕道一  
 滝又の滝・余野・東保山  
 一西尾根・周山(バス)  
 京都駅(解散17時30分頃)  
 費用 約2000円(京都駅か  
 らバス代)  
 地図 昭文社「京都北山」  
 係 ○村田智俊 ○安倉正勝  
 申込み ○奥比呂美  
 〒61010121  
 城陽市寺田大群10の10  
 村田智俊まで

涼味満点の滝又の滝で涼んでか  
 ら、余野の奥の東保山(オカマタ  
 )へ登る。下山は西尾根を伝って周  
 山へ(本誌59ページ参照)。  
 雨天中止

大峰  
 下多古川上流部から大所山尾根  
 (沢歩き・健脚向き)  
 期日 7月2日(月) 3日(火)  
 前後発日帰り  
 集合 (2日)近鉄橋原駅前21  
 時10分/下多古川上流部

山登山口広場22時30分  
 コース (3日)琵琶湖湖岸台登  
 山口下多古川上流部一  
 奥野道一大所山一登山口  
 (解散)  
 費用 交通費各自(保険対象外)  
 地図 2万5千川  
 申込み ○田中賢治○高平くみ子  
 〒51810626  
 名張市栲栈が丘6の2の  
 18 田中賢治まで  
 \*定員10名  
 \*マイカー山行(5名ま  
 で集合可能。希望者は  
 その旨明記ください)  
 涼しい沢から樹林の尾根へ。時  
 間があればロープワークの練習も  
 します。沢タビ、水切れのよい服  
 装(スパッツ+半ズボン等)で、  
 ハーネス(簡易型で可)、ヘルメッ  
 ト必携。装備は若干数レンタル可  
 能です。小雨決行

ファミリハイイク106  
 奥美濃・冠山(初級向き)  
 期日 7月5日(木) 日帰り  
 集合 JR新大阪駅一階正面口  
 7時00分  
 コース 新大阪駅(バス)冠山峠  
 一冠山一冠山(往路)

冠山峠(バス)久瀬温  
 泉白龍の湯(入浴・バス)  
 新大阪駅(解散)  
 費用 約5000円(バス代)  
 地図 2万5千冠山  
 係 ○木村太郎  
 申込み 〒56510854  
 吹田市桃山台1の2のB  
 12の209 木村太郎まで  
 \*定員24名(會員に限る)  
 ニッコウキスゲの季節、朝日新  
 聞社編「日本の自然百選」の越美  
 国境の鋭峰に登る。雨天中止

大峰・弥山から八経ヶ岳  
 (中級向き)  
 期日 7月6日(金) 日帰り  
 集合 近鉄橋原駅前中央口  
 8時00分  
 コース 橋原駅前駅(バス)行  
 者還トンネル東口一奥野  
 道一弁天の森一弥山一八  
 経ヶ岳一弥山一弁天の森  
 一トンネル東口(バス)  
 橋原駅前駅(解散19時  
 頃)  
 費用 約2800円(バス代)  
 地図 昭文社「大峰山脈」  
 係 ○西上利和 ○木村 豊  
 ○前川和佳子

申込み 〒61010121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*定員25名  
 昨年は雨で中止になりました。  
 オオヤマレンゲを求めてのりベン  
 ジ山行です。小雨決行

自然観察山行234  
 越美・能郷白山(中級向き)  
 期日 7月7日(土) 日帰り  
 集合 JR大垣駅9時00分  
 コース 大垣駅(バス)温見峠  
 (バス)能郷白山一温見  
 峠(バス)大垣駅(解散  
 18時過ぎ)  
 費用 約4000円(大垣駅か  
 らバス代等)  
 地図 2万5千能郷白山  
 係 ○鷺見守康  
 申込み 〒50410828  
 各務原市藤原村雨町1の  
 19の5 鷺見守康まで  
 \*定員20名(申込み状況  
 により減員します)  
 奥美濃の名峰、二百名山の能郷  
 白山に温見峠から短時間で登りま  
 す。雨天決行(ただし、雨天の場  
 合は自然観察会になることもあり  
 ます)

台高・木履谷川本流  
 (沢歩き・健脚向き以上)  
 期日 7月8日(日) 日帰り  
 集合 近鉄橋原駅前8時00分/  
 青田発所広場9時00分  
 コース 奥山谷登山口一木履谷川  
 本流一ウシロ谷出合一登  
 山道一登山口(解散)  
 費用 交通費各自(保険対象外)  
 地図 2万5千大豆生  
 係 ○田中賢治  
 申込み 〒51810626  
 名張市栲栈が丘6の2の  
 18 田中賢治まで  
 \*6名程度(會員に限る)  
 \*マイカー山行(若干名  
 集合可能。希望者はそ  
 の旨明記ください)  
 ロープが必要な難しい谷ではあ  
 りませんが、高捲きなど、ルート  
 ファインディングのよい練習がで  
 きます。沢タビ、水切れのよい服  
 装(スパッツ+半ズボン等)で、  
 ハーネス、ヘルメット必携。参加  
 受け入れ可否は係に一任くださ  
 い。小雨決行

鈴鹿を歩く267  
 元越谷(沢歩き・健脚向き)  
 期日 7月8日(日) 日帰り

国道477号線元越谷林  
 道入口手前広場8時30分  
 コース 広場一元越谷一仏谷左保  
 一登山道一水沢峠一仏谷  
 左保源頭一仏谷右保一稜  
 線一猪足谷林道一広場  
 (解散)  
 装備 溪流シューズか地トタビ・  
 フラジ必携  
 費用 交通費各自(保険対象外)  
 地図 昭文社「麗在所・雲仙・  
 伊吹」  
 係 ○若野 明 ○山田景三  
 ○後藤康幸  
 申込み 〒61010121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*マイカー山行  
 毎年恒例になった夏の沢歩きで  
 す。元越谷をつめ、上流の仏谷の  
 左保と右保をのんびり歩きます。  
 雨天中止

近江の山シリーズ①  
 湖北・奥山(中級向き)  
 期日 7月8日(日) 日帰り  
 集合 JR京都駅八条口団体バ  
 スのりは7時20分  
 コース 京都駅(バス)高山キヤ  
 ン  
 ンア場一渡谷の頭一奥山  
 一渡谷の頭一高山キヤ  
 ン  
 ンア場(バス)京都駅(解  
 散17時頃)  
 費用 約3000円(京都駅か  
 らバス代等)  
 地図 2万5千近江川合  
 係 ○森島直義 ○磯野重治  
 申込み 〒61010121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*定員22名  
 奥山から見る白倉の頭・金巻岳  
 は迫力がある。雨天中止

鈴鹿・神崎川  
 (沢歩き・健脚向き)  
 期日 7月17日(日) 日帰り  
 集合 ①近鉄栲栈が丘駅前8時  
 10分/②JR伊賀上野駅  
 8時45分/③JR貴生川  
 駅前9時20分/④神崎橋  
 付近10時20分  
 コース 神崎川発電所一天狗滝  
 (往復コース)  
 費用 交通費各自(保険対象外)  
 地図 2万5千御在所岳  
 係 ○田中賢治○高平くみ子  
 〒51810626  
 名張市栲栈が丘6の2の

湖北の山  
 塩津山・三角点定田(初級向き)  
 期日 7月28日(土) 日帰り  
 集合 JR近江塩津駅10時00分  
 コース 近江塩津駅一深坂地蔵一  
 塩津山(三角点新道野)  
 一三角点定田一国道8号  
 線一近江塩津駅(解散)  
 費用 交通費各自  
 地図 2万5千駄口・敦賀  
 係 ○高島伸浩  
 申込み 〒61010121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 塩津山から三角点定田までの尾  
 根道は初公開。最近切り開かれた  
 新ルートです。雨天決行



三重の山88

名張・赤目溪谷(中級向き)
期日 7月28日(日) 日帰り
集合 近鉄赤目駅前(9時55分発の赤目滝口行きのバスに乗車)

コース 赤目口駅(バス) 赤目滝口 山椒魚センター 石畳茶屋 赤目出合茶屋 小笹峠(落合(バス) 名張駅(解散16時頃)
費用 1500円(バス代約1000円) 山椒魚センター入館料300円(要)

地図 昭文社『赤目・俱留尊高原(旧版)』
2万5千=俱留尊山・大和野
係 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで

展示の山33
白山・中宮山と百四丈の滝(健脚向き)
期日 7月28日(日) 29日(日)

申込み 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで
\*定員10名程度
昨年行けなかった白山駅迄へ挑戦しますが、山頂へ行けなくても時間(13時まで)で戻ります。花の多い山なので期待しましょう。雨天決行(雨天の場合コース変更あり)

近江の山シリーズ②
湖北・七尾山(一般向き)
期日 8月5日(日) 日帰り
集合 JRR京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース 京都駅(バス) 南池登山口 七尾山 鉄塔 遊視路 伊吹町大久保(バス) ジョイ伊吹(入浴・バス) 京都駅(解散17時頃)
費用 約3000円(京都駅からバス代等)
地図 2万5千=虎御前山
係 ◎森脇良哉 ◎磯野重治
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
\*定員22名
暑い時なのでゆっくり登ります。

1泊2日
集合 JR関ヶ原駅7時15分
コース (28日) 関ヶ原駅(車) 中宮・中宮山(往路) 中宮(車) 一里野温泉(泊)
(29日) 一里野温泉(車) 林道+加賀神定道+百四丈の滝見物所(往路) 一林道(車) 関ヶ原駅(解散)
費用 約16000円(車・宿泊代・参加費等)
地図 2万5千=白峰・市原
係 ◎山田明男
申込み 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで
\*定員10名程度
1月に行けなかった中宮山に再挑戦。2日目は百四丈の滝が見られる所まで加賀神定道を行きますが、7時出発で、13時までに行けるか? 雨天決行(雨天の場合コース変更あり)

山頂からは、己高山・金巻岳が見える。下山は遊視路を伊吹側へくだり、入浴予定です。雨天中止
比良・白滝山から白滝谷(中級向き)
期日 8月5日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時40分
コース 堅田駅(バス) 中村一巡視路 長池 白滝山 夫坊村(バス) 堅田駅(解散16時30分頃)
費用 約2000円(堅田駅から)
地図 昭文社『比良山系』
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎呉比呂美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 須谷川(沢歩き・健脚向き)
期日 8月12日(日) 日帰り
集合 打越神崎橋広場8時30分

JR近江高島駅9時00分(江若バス9時03分発煙行き乗車)
コース 近江高島駅(バス) ガリバー旅行村 鴨川林道出合 魚止の滝 大樽跡 貴船の滝 八雲ヶ原ゲレンデ跡 北比良峠 大樽跡 道 一カモシカ台 大山口 一イン谷口 比良駅(解散17時頃) \*歩行6時間
費用 約2200円(京都から)
地図 2万5千=北小松・比良山
係 昭文社『比良山系』
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
魚止の滝から順番に八瀬ノ滝めぐりをします。雨天中止
ファミリィハイク107
南紀・百間山溪谷(初級向き)
期日 8月2日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅1階正面口8時00分
コース 新大阪駅(バス) 百間口 一瀬ノ滝 雨乞ノ滝 大落ノ滝 千体石仏 百間

須谷川 岩の洞門 鏡子ヶ口 登山道 打越尾(解散)
装備 深流シューズか地下タビ・フラスコ必携
費用 交通費各自(保険料別途)
地図 昭文社『御在所・雲梯・伊吹』
係 ◎若野明 ◎山田景三 ◎後藤康幸
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
\*マイカー山行
毎年恒例の須谷川の沢歩きです(37号48ページ参照)。雨天中止
展示の山35
白山
平瀬道から中宮道とブナオ山へ(健脚向き)
期日 8月12日(日) 14日(日)
2泊3日
集合 (12日) JR西岐阜駅6時50分
コース (12日) 西岐阜駅(レンタカー) 大白川 白水の滝見学 平瀬道 大倉尾根 一室堂(泊) (13日) 室堂 白山山頂

口(バス) 天神温泉(バス) 新大阪駅(解散)
費用 約4500円(バス代)
地図 2万5千=合川・木守
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854 吹田市桃山台1-2のB12の209 木村太郎まで
\*定員24名(会費に限り)
「紀州路20景」の人気投票で第一位を誇る、原生林に広がる神秘的溪谷をめぐる。雨天中止



ンター(バス)徳佐神角  
登山口―十種ヶ峰―青少  
年野外活動センター(バ  
ス)笹山登山口―青野山  
―青野駐車場(バス)  
津和野旅館(幸楽)(泊  
16日)宿(バス)奥谷  
―打原峠―ミズナラ巨神  
木―中峰―安蔵寺山―山  
林休憩所―ゴキの郷(バ  
ス)湖原温泉(泊)  
〔17日〕湖原温泉(バス)  
松ノ木峠―安蔵冠山分岐  
―ブナ原生林―寂地山―  
みのこし峠―寂地峽―五  
竜の滝―駐車場(バス)  
六日市インター(バス)  
大坂駅(解放20時頃)  
費用 約35000円(バス・  
宿泊代等)  
地図 2万5千―十種ヶ峰・津  
和野・日原・安蔵冠山  
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝  
○呉比裕美  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員22名

ブナ・ミズナラ林の安蔵寺山、ブ  
ナ原生林の寂地山へ。最終コース  
は淡谷美の寂地峽をくだる。山城  
は豪雪地帯、よって夏でも涼しい。  
雨天決行  
大峰・伯母谷嶽から大首登岳  
(中級向き)  
期日 8月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口  
8時00分  
コース 橿原神宮前駅(バス)上  
谷・久久能神社―谷  
分岐―伯母谷嶽―阿弥陀  
ヶ森―大首登岳―和佐又  
ヒュッテ(バス)橿原神  
宮前駅(解放18時30分頃)  
費用 約28000円(バス代)  
地図 昭文社Ⅱ「大峰山脈」  
係 ◎西上利和 ○木村 豊  
○前川和佳子  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員25名

大峰・前鬼川孔雀又谷核心部  
(沢歩き・健脚向き)  
期日 8月20日(明後)21日(火)  
前夜発日帰り  
集合 (20日)近鉄橿原駅前21  
時10分/前鬼川林道終点  
21時00分  
コース (21日)前鬼林道終点―  
孔雀又谷合出―垢離取り  
場―前鬼宿坊―前鬼林道  
終点(解放)  
費用 交通費各自(保険対象必  
ず)  
地図 2万5千―釈迦ヶ岳・弥  
山  
係 ◎田中賢治 ○田平くみ子  
申込み 〒51810626  
名張市橋本が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*定員10名  
\*マイカー山行(5名ま  
で乗合可能です。希望  
者はその旨明記ください)  
今年も大峰屈指の美渓を歩き、  
行く夏を惜しみながらの冷やしそー  
めん大会。沢タビ、水切れのよい  
服装で、ハーネス、ヘルメット必  
携。装備は若干数レンタル可能で  
す。希望者はお申し出ください。  
シュラフ必携。小雨決行

火曜ハイク34  
六甲・東お多福山(二般向き)  
期日 8月21日(火) 日帰り  
集合 東お多福山登山口バス停  
9時50分  
コース 登山口バス停―東お多福  
山―雨ヶ峰―横池―保久  
良神社―飯倉園本駅(解  
散14時50分頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社Ⅱ「六甲・摩耶・  
有馬」  
係 ◎伊谷礼司 ○沖 伸  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
夏なので登りを短くしました。  
東お多福山には樹木はありません  
ので展望だけ楽しんで通過しまし  
ますが、その後は起伏の少ない道が続  
きます。このコースに三つの三角  
点があるようです。雨天中止  
自然観察山行2366  
越美・金草岳(中級向き)  
期日 8月25日(日) 日帰り  
集合 JRR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス)冠峰―松  
尾峠―白倉岳―金草岳―  
白倉岳―松尾峠―ソバコ

マタ林道―林道入口(バ  
ス)大垣駅(解放19時過  
ぎ)  
費用 約40000円(大垣駅か  
らバス代等)  
地図 2万5千―宅長・冠山  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(申込み状況  
により減員します)  
奥美濃最奥の山。冠山の西にた  
おやかな稜線を描く金草岳を歩き  
ます。雨天決行(ただし、雨天の  
場合は自然観察会になることもあ  
ります)

新ハイキング関西まで  
第四鉄塔から日計山までは、あ  
まり歩かれていないやぶ山です。  
やぶ山愛好者おすすめ。雨天中止  
ファミリアハイク108  
北摂・丸山温泉(一般向き)  
期日 8月26日(日) 日帰り  
集合 JRR宝塚駅前飯島園バ  
スのりば10時10分  
コース 宝塚駅(バス)玉瀬―丸  
山温泉―境野分岐―大岩  
ヶ岳分岐―東山橋―JRR  
道場駅(解放)  
費用 約10000円(宝塚駅か  
ら)

集合 JRR京都駅八条口団体バ  
スのりば7時40分  
コース 京都駅(バス)佐々里峠  
―小野村割岳西尾根―大  
芦生杉群―小野村割岳―  
ワサ谷林道―下の町(バ  
ス)京都駅(解放17時30  
分頃)  
費用 約30000円(京都駅か  
らバス代)  
地図 昭文社Ⅱ「京都北山」  
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝  
○呉比裕美  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員40名  
佐々里峠から大芦生杉群を見て  
小野村割岳へ。下山は涼しい谷道  
です。(本誌61ページ参照)  
雨天中止

湖北の山  
日計山(初級向き)  
期日 8月25日(日) 日帰り  
集合 JRR近江塩津駅10時00分  
コース 集福寺集落―鉄塔巡道路  
―第四鉄塔―日計山(往  
復コース)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千―木之本  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10

京都北山歩き123  
佐々里峠から小野村割岳  
(一般向き)  
期日 8月26日(日) 日帰り  
地図 2万5千―武田尾  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
夏の白い妖精サギソウにめぐり  
あえる。大岩ヶ岳山系の静かな庭  
原を訪ねます。雨天中止

\*盛夏の「平日ふれあいハイク」  
◎寺井、「北山ちよっと歩き」  
◎金谷、「鈴鹿登山」◎筒井、  
「地図読み山行」◎塚で、などの  
例会は休みます。

山の本紹介 5月下旬発売

改訂版  
『京都滋賀日帰り山歩50選』  
京都新聞出版センター編  
A4判・112ページ  
定価14000円(十税)

雲岩山、雲取山、津田山など  
日帰りで行けるおすすめの日  
ハイキングコースを50厳選し、見  
やすい地図と分かりやすい文  
章で紹介している。  
行きたい山の情報だけ持ち  
歩ける便利な取りはずし式、市  
販のファイルにとじられる最  
新式を採用。見やすく分かりや  
すい4万分の1の登山地図を  
収録。  
初心者のための山の用語解  
説、持ち物の説明、計画の立て  
方、天気予測、地図の見方、  
歩き方、応急処置の仕方などの  
情報も満載している。  
(問い合わせ)  
京都新聞出版センター  
〒1075(213) 8143  
FAX 075(222) 1956



# シルバー登山家 体験記



常時展示(請) 個人書店  
〒101-0061 東京都中央区銀座5-1  
銀座ファイブ2階 JTB有楽町駅・徒歩3分  
営業:10時~20時・年中無休  
電話:03-5537-1271 FAX:03-5537-1272  
個人書店にも販売しております。

2,100円(税込み)  
送料売主負担・商品到着後振込  
体裁 A4版・350頁・漢本文字  
お申し込みは、左記著者宛  
FAX、郵送にて承ります。

ご購入ご案内 詳細パンフレット送付制  
著者 西山雅彦  
〒336-0936 さいたま市緑区太田窪1丁目20番9号  
FAX 048-885-2162

## 文章ではない壮絶な生き方が描く入魂の一冊!

### 記事内容 一部抜粋

#### 登山の出来た 健康法6策

1. 「重い靴」毎日1時間歩行ブルブル汗かき
2. 「厚敷法」新固開始 積年の身体内・毒素排出
3. ガン検出・手術成功・仕事スッパの跡
4. 診察券20枚・全健医受診制
5. 私独自の健康誌 毎日・毎月の助行
6. 登山開始 重寶贈。体重79より15減・64キロ

#### 新設「シルバー登山会」提案

- 米前放リンカーン大鉄橋 空宮採用 バイ・ホー・オブ・ザ・ピープル 設立理念 シルバーに依る シルバーの為 シルバーの登山会 提唱
1. 70歳以上のみ
  2. 老年者登山愛好家に徹底指向
  3. 寄付連言贈与受け入れ制
  4. 会のお金は全額・差しむらに使い切る方針
  5. 団地世帯・定年退職者・軽登山希望者の天国を現世に造る 他多策

#### 登山の会 私の4分類・参加20会名

1. ボランティア 沢見会・東京野歩協会・東京ハイキング協会・おいらく山岳会・わかば歩こう会
2. 中間の会 四季山道会 新ハイキングクラブ・物草クラブ・島が仔長沢
3. 営利の個人法人 ぼうけん倶楽部・ウッドワインズ・アルプスEPA・アムニス・グリーン・S・L・北アルプス社・無名山誌・クラブツーリズム・阪急文通社・毎日新聞旅行・ヒマラヤ観光・山旅ぐるぶ・沖崎其他多
4. 70歳以上者参加可能の会・申込不要で参加可能な会・平日がら空き利用の会・初心者気弱者誘惑者久振不安者向の会

#### 登山事故実例 自分・他見聞等

自分単独時 階段石垣より数メートル滑落アウェー・降り難め1ヶ月登山不可能・木道より下谷内に2度転落・岩壁より転落  
目撃 岩壁数メートルより壁落杉林斜面を滑落・先導者の脱った頭大石が斜面上の雷を飛び後続者の中へ・他数十例

#### 奮闘登山 250回 の一部

北海道/利尻山・羅臼山・大雪山連山・根岸山・ベテリ山・他東北/下北・津軽・八甲田連山・月山・奥高山・蔵王・佐渡・他北ア/上高地明神山・奥北西前穂高岳・嶺ヶ岳・白馬・嶺ヶ岳・他中南ア/御嶽山・甲斐駒ヶ岳・富士・北岳・聖岳・光岳・仙丈・他上北越/東部下/下下・毛勝山・立山・前岳・朝日岳・白山・他九州/雲仙普賢岳・英彦山・祖田山・間間岳・高千穂・霧島・他沖縄本島/与那国岳・辺戸御嶽・伊良部島牧山・富古島野原岳・他

#### 登山業界全体への 問題提起

1. 大崩落の検出立山室堂湧水・頂上山小屋トイレ垂れ流しが原因
2. 今後積年累積汚染の次世代バトンは悲劇・全国名水検査公表必要
3. 現在荒廃登山道の廃止と自然返却・「平成新登山道」新設の提案
4. 悪路進行設置の尾根道場所・南側下数mに移送花畑期待の提案
5. 「ゴミ」富士山は山小屋の責任重大・他全国登山者快持参制提案
6. 「キャンセル料」客より取り自分は不払・違法性懸念・撤回提案
7. 「ストレッチ体操」無し・急登登山は無謀・他スポーツ同・提案
8. 漢字は我が国2千年文明習得・山名同・花の名前カクカナ禁止提案
9. 登山事故・閉鎖体質は業界危険信号・反面教師化・詳細公開制提案
10. 「ファースト10」用具・山小屋・登山の会他 毎年アンケート公開制提案
11. 「留守宅登山控え」残し指示業者・不送付の無神経さ 取消提案
12. その他 専門用語使用で平気留守の素人理解不可能・拡大鏡が必要小さい文字で平気・曜日不記載の遊歩姿勢・同行者の命運を握る引率責任者の小型ザック・夜間休日営業時間外連絡必要時の携帯電話告知を遅れる姿勢・下山前頂上飲酒の危険・山道塗り全面的に・高品質ラベルには、欠点・短所・過去事故例を書きまくる
13. 山頂小屋垂れ流しトイレ撤去・ユニット便器へリ処理場運び制提案

#### 登山用具 問題点・研究

1. 指・ハチ・フヨ・蚊等・共通攻撃色と、帽子シャツ手袋ザック等の色
2. 生水凍り者の失神・転倒・ヘリ救助と医師説明「脱水症」理由
3. 傘・紐付け 効用と方法・大型折り畳み傘百円ショップ購入可能・東社は8百円
4. 地質類似地図が百円ショップで購入可能・東社は8百円
5. 「地質備え用品」にシワリ折り畳み可能・登山用品 中古も保存要
6. ザックより突き出た「杖」・同業者の冷たい視線と平気な登山者・会
7. ザック数個より垂れ下がり「紐」特色綱帯でスラレ揺れ・メーカーの恥
8. お金自宅鍵入小袋・小屋トイレ落し悲劇・チャック付きポケット義務
9. 飲み水入れ折り畳み袋・乾袋出来ず不潔危険 メーカーの設置姿勢問題
10. アイゼン事故死多発・百キロアスガ、中世フレンジ発想と永年同じ・研究不熱心

#### 書評と出版の勧め

原稿段階で某出版数社役員様方に、出版相談の結果業界の痛い点他告知すべき必要箇所多い。自費出版方式で是非世の中に公表する事をこ稼付下さい。

## 山行報告 (3・4月号) 新ハイキングクラブ版

泉南・飯盛山(地図読み山行)  
3月3日 晴れ

(集合) 南海孝子駅 9:10~35 | 高仙寺10:00~05 | 高野山10:20 | 反射板10:40 | 雲山峠分岐11:32 | 飯盛山11:50(昼食) 12:20 | 展望所13:00 | 車道出合14:30 | みさき公園駅14:45(解散)  
泉南方面の山は、京都周辺委員の参加が少ないが、地図読み山行が初めての方が8人と多かった。気温が高くて孝子観音の階段はつらかったが、山道はよく整備されておりました。山頂同定を楽しくしました。

- (参加者) 志水明美 西谷真美子  
飯田二郎 太田裕幸 藤原くに代  
岩根健司 遠藤 串 山中あさみ  
小玉嘉彦 馬場静和 徳田千代子  
梅田久子 楠原良彦  
◎上田千枝子 ◎中村 登 (計15名)

## 残雪の雨之節

3月4日 晴れ  
(集合) 大原(かもしか荘) 8:10(車) 清水谷林道広場 8:30 | P 8 3 5 1 9・30 | 清水ノ頭10:30 | 南側分岐11:30 | 雨ヶ岳尾11:45(昼食) 12:40 | 雨ヶ岳尾根13:10 | 清水谷林道14:30 | 広場14:50(解散)

初夏を思わせるような春うららのポカポカ陽気のなかを歩いた。清水ノ頭付近の雪道は想像以上に滑りが、春霞の鈴鹿全山の淡い景観に酔った。マンサクの咲くシャクナゲ尾根のんびりと楽しめた。  
(参加者) 服部 茂 沖 伸  
北村 稔 金谷 昭 奥野太一郎  
山内玄次 伊東弘隆 永戸鉄治  
武村千鶴 宮野哲郎 栗本敏夫  
神野孝允 友田 毅 友田美保子  
萩野孝允 鶴岡真吉 鶴岡美恵子  
澤崎 実 村田勝利 網本美恵子  
大西路郎 森村 守 稲津謙治  
小林 桂 小林 修 ◎後藤康幸  
◎山田景二 ◎若野 明 (計29名)

- 残雪の曇谷山から廣村八丁  
(京都北山歩き120)  
3月4日 晴れ

## 残雪の雨之節

(集合) JR京都駅 7:30(バス) 佐々里峠 9:40 | 50 | ダンノ峠分岐 10:10 | 最谷峠 11:30 | 廣村八丁 12:00(昼食) 13:00 | 刑部滝分岐 13:14 | 15 | 25 | 五郎峠 13:40 | ダンノ峠 14:14 | 25 | 菅原 15:20(バス) 京都駅 17:40(解散)

残雪の無い春の陽気のなか、品谷山ではゆっくりに展望を楽しめた。廣村八丁はもたもたわがグルーブだけの広場もなかった。  
(参加者) 狩野東彦 下野正年  
岩佐 修 山本文雄 野末あや子  
伊藤 直 伊藤和代 伊東ナナ子  
中川節子 平田和子 村井寿和  
青木一雄 太田欽弥 太田広子  
洗谷節枝 堤 良男 村田はる江  
上田裕子 田中 明 池田美恵子  
首藤育子 有兼 登 小川富十雄  
森崎貞義 嶋田幸子 三井敏一  
加藤彦彦 大槻一夫 細野欽也  
福岡 章 林 弘毅  
佐々木トシ子 ◎奥比栞美  
◎安倉正勝 ◎村田智俊 (計35名)

- 雲山ハイイク  
湖北・妙理山  
3月11日 雪  
(集合) JR京都駅 7:20 | 37

## 残雪の雨之節

(バス) 菅原 15:20(バス) 京都駅 17:40(解散)

吹雪のなか、ラッセルを交代しながら妙理山にたどり着いた。頂上からの展望は無かったが、雪の参加者) 多賀久子  
若林文夫 金森節子 松上美代子  
萩野暢子 狩野東彦 野末あや子  
小松志信 松村雅子 森 美香子  
和田純子 山口敏明 川田洋子  
杉本英一 中川節子 小尾康一  
小池一郎 岩村幸子 櫻原康一  
栗橋崇吉 徳合社司 村井寿和  
青木一雄 須藤浩子 船本裕日子  
井上恭子 沖 伸 市井ユリエ  
岩根健司 西田俊治 村田はる江  
稲津謙治 上田裕子 中澤尚司博  
奥田貞雄 上田裕子 武藤由美子  
磯部 純 山形 明 夏山春子  
◎磯野重治 ◎森崎貞義 (計35名)

- 愛宕山シリーズ15  
裏愛宕・峰山から朝日峰  
(火曜ハイイク30)



3月13日(火) くもり  
 (集合) 樹ノ尾バス停9・00―高  
 山寺9・10―峰山10・00―15―林  
 道終点11・15―松尾峠11・55(昼  
 食・朝日峰往復) 13・10―カヤノ  
 峠13・30―谷山川林道出合13・  
 55―14・10―西明寺15・00―高尾  
 バス停15・10(解散)

2年前、実施できなかったコー  
 スに再チャレンジ。愛宕五山と言  
 われながら、奥に位置するため訪  
 れる人の少ない山である。昨日に  
 降った雪でうっすらと白くなった  
 道を気持ちよく歩き、峰山・朝日  
 峰の二峰を踏む。長い林道歩きが  
 難であるが、旧道を利用して変化  
 をつけながら楽しんだ。

(参加者) 狩野東彦 野末あや子  
 塚本中次 木村 豊 堀江房昭  
 峰山悦子 本間 隆 余谷 昭  
 大林 進 板垣和子 葉谷祐樹子  
 須藤尚子 山岸勝雄 武村千鶴  
 加藤浩一 若林文夫 君塚伸子  
 中川光郎 和田直樹 岩城豊子  
 小川 桂 野野野文 船本裕巳子  
 栗橋君子 磯部 純 妹尾一正  
 長沢佑美 夏山春子 後藤純子  
 志水明美 村井若和 中川節子  
 林 弘毅 谷 守 今村あやの  
 中園豊子 石原君子 竹田善英

中上誠一 青木一雄 中村静香  
 大和 紘 ○小松志信  
 ○沖 伸 ○仲谷弘司(計26名)

3月13日(火) ◎田中賢治  
 \*都合により中止しました。

聖生・紅ヶ岳から園見山  
 (\*大峰・小峰山への国道が通行  
 止のため、登山地を変更した)  
 3月16日(日) 晴れ  
 (集合) 近鉄福原神宮前駅8・05  
 ↓10(バス) 瓜ヶ久保9・10―林  
 道―登山口9・30―紅ヶ岳10・55  
 ―園見山11・15―見晴らし台11・  
 30(昼食) 12・30―中山峠12・50  
 ―林道―瓜ヶ久保13・25(バス)  
 福原神宮前駅14・30(解散)  
 心配していた残雪も無くスリリ  
 ングな岩場も無事に通過。少しコー  
 スを間違えるミスもあったが、冬  
 枯れの尾根を快適に縦走した。  
 (参加者) 古山幸男 本家洗子  
 上田久子 岩村春子 山西 治  
 川保富子 竹田勝美 中尾美智子  
 上田裕子 松田和恵 大岡加代子  
 堀江房昭 山根弘美 山中あきみ  
 平田輝美 馬籠忠男 宮路ちへ子  
 原 幸子 栗橋君子 ○木村 豊

○前川和佳子 ◎西上和和  
 (計22名)

湖北の山  
 塩津山(敦賀市)  
 3月17日(出) 晴れ  
 (集合) JR新庄田駅10・10―15  
 ―築式部駅10・45―深坂峠11・  
 15―塩津山11・45―深坂峠12・05  
 ―深坂地蔵12・15(昼食) 13・35  
 ―築式部駅14・00―新庄田駅14・  
 35(解散)  
 「深坂古道」で築式部が坐った  
 という石に平成の式部達も「築敷  
 布」を敷いてこ満悦。峠から頂上  
 まで残雪を踏んでやぶ漕ぎの往復。  
 深坂地蔵の休憩所でランチタイム。  
 尺八や歌を歌って賑やかに迎春を  
 謳歌した。

(参加者) 遠藤 幸 伊東ナナ子  
 中島 隆 磯部 純 森 美香子  
 栗橋崇吉 栗橋君子 南 智恵子  
 夏山春子 谷 守 小坂さゆり  
 石原君子 光川佛史 光川一美子  
 神野孝允 緒方明子 宮戸喜久江  
 山縣勝美 松村雅子 竹越常美江  
 須藤尚子 ◎高島伸浩(計22名)

(集合) 「道の駅海山」9・30  
 (車) 矢ノ川トネル(車) 賀田  
 口(車) 林道終点登山口10・25―  
 矢ノ川峠分岐10・55―11・00―賀  
 田分岐12・20―30―ゲジ山13・  
 10(昼食) 13・50―賀田分岐14・  
 30―40―矢ノ川峠分岐15・35―登  
 山口16・00(解散)  
 起伏の多いかなり手強い山だっ  
 たが、ヤブツバキの花がすばらし  
 く山頂からの眺望も良かった。海  
 の見える山に登ると疲れが吹っ飛  
 ぶ。\*下山後、有志数名で熊野の  
 民宿へ。18日(日)は松本峠と鬼ヶ城  
 を散策。早咲きの桜が満開だった。  
 (参加者) 山形 明 水戸秋治  
 平 龍一 平 幸子 石田眞由美  
 亀井悦子 大西信郎 武藤由美子  
 ◎稲垣逸夫 (計9名)

残雪の御池岳・奥の平  
 (鈴鹿を歩く260)  
 3月18日(日) 晴れ  
 (集合) 小又谷林道広場8・25―  
 ノタノ坂9・10―土倉岳11・00―  
 奥の平11・45―ドリーネ12・00  
 (昼食) 12・50―南峰13・15―T  
 字尾根フナ橋現14・05―P918  
 15・05―御池林道16・25―林道  
 広場16・50(解散)

桜が開花しだす頃になって冬到  
 来、思わぬ新雪で奥の平は銀世界。  
 今年初めてカンジキを履いて雪原  
 を遊歩闊歩。日曜りのドリーネの  
 底で昼食後は南峰をヒストン。山  
 頂からの陽光に照らされた雪原の  
 奥の平一帯は、鈴鹿の雲の平と呼  
 ばれるにふさわしい絶景。帰路は  
 T字尾根を雪を蹴散らして御池林  
 道に急降した。

(参加者) 金谷 昭 有兼 登  
 武村千鶴 山内玄次 森村 守  
 谷 守 奥比呂美 奥野太一郎  
 原 光一 原 幸子 網木美恵子  
 稲津謙治 一芝義雄 一芝美知子  
 櫻田勝利 北村 稔 北村つねみ  
 炭田明美 ○後藤康幸  
 ○山田景三 ◎吉野 明(計21名)

ツボクリ谷から誓子山  
 (京都北山歩き12)  
 3月21日(晴) 晴れ  
 (集合) JR堅田駅8・40―45  
 (バス) 坂下9・20―足尾谷・伊  
 賀谷山登り口9・40―50―ツボク  
 リ谷出合10・30―トチの木大木2段  
 出合11・50―12・10―誓子山13・  
 00(昼食) 13・45―誓谷―安曇川  
 源流車道15・10―15―平バス停15・  
 45―55(バス) 堅田駅16・25(解

散) 先週降った雪がうっすらと積も  
 り、山頂東側の切り開きから比良  
 山が展望された。ツボクリ谷に入  
 ると急登の雪道になり難渋した。  
 通常のコースタイムより30分余計  
 にかかったが、積雪の誓子山に登  
 れて満足の日であった。

(参加者) 山縣勝美 山縣 隆  
 三井祐一 平田和子 久保田裕子  
 岡崎知子 岡坂陽子 伊東ナナ子  
 田中 明 飯田二郎 小川富子  
 辻 陽子 大林 進 高木文子  
 神 伸 西居俊弥 西居裕子  
 福本孝子 宮野哲郎 山口充代  
 松尾一郎 前田初雄 光川一美子  
 本間 隆 本間孝子 武部美英子  
 和田輝子 塚本中次 山西 治  
 岩佐 修 大槻一夫 夏山春子  
 林 正哉 小杉薫明 山田幸子  
 下郡正年 山本文雄 小坂さゆり  
 稲津謙治 萩野暢子 ○奥比呂美  
 ○安倉正勝 ◎村田智俊(計26名)

奈良・高円山  
 (ファミリーハイク100)  
 3月22日(火) 晴れ  
 (集合) 近鉄奈良駅噴水前9・50  
 ↓10・00―春日大社一の鳥居10・  
 30―40―白雲寺町登山口11・15―

20―大文字火床峠11・50(昼食)  
 12・40―高円山三角点12・55―観  
 望台13・10―十字路13・25(地蔵  
 谷石堂仏往復) 13・45―滝坂道首  
 切地蔵14・00―15―春日大社二の  
 鳥居15・10―15(解散)  
 神龍が遊ぶ歴史の道を白雲寺へ  
 歩き、雄木林が芽吹いた高円山に  
 登った。春がすみのなかに生駒信  
 貴の山並が展望できた。

(参加者) 金森節子 伊東ナナ子  
 飯田二郎 小田朝子 中澤ちよ子  
 村上嘉子 本間昭恵 金森千恵子  
 岡崎知子 加藤浩一 川上友堅  
 堀内預智 岩城豊子 田中三恵子  
 岡 倚弘 岡 菊江 長沢佑美  
 中村英雄 小林 桂 小林博子  
 妹尾一正 本家洗子 登田 晃  
 山根弘美 兼田幸子 成川みさお  
 永富律子 中谷孝子 今村あやの  
 前田一代 ○松井明忠  
 ○西條良彦 ◎木村太郎(計36名)

鳥取・麓山  
 3月25日(日) 晴れ  
 (集合) JR加古川駅8・30(バ  
 ス) 中田登山口10・40―岩塚分岐・  
 尾根上11・30―惣地分岐11・55―  
 麓山12・12(昼食) 13・10―惣地

分岐13・20―林道出合13・50―中  
 田登山口14・10―30(バス) 湯郷  
 15・40(入浴) 16・40(バス) 加  
 古川駅18・10(解散)

前線の通過後で風が強く、その  
 うえ那岐山を始め、名だたる山々  
 が雲に隠れて見えなかったのは少々  
 悔やまれたが、とっても楽しい山  
 行でした。  
 (参加者) 栗橋崇吉 栗橋君子  
 柳川常雄 中川節子 八木四郎  
 森 瑞代 前川 一 前田嘉久子  
 神 伸 茂子 森美喜美子  
 岡本佳子 塩尻香織 池田美恵子  
 小尾末吉 馬籠忠男 船本裕巳子  
 首藤哲子 福岡 章 村田はる江  
 小林 桂 上田裕子 ○岡田 昇  
 ◎古賀慶二 (計24名)

鶴川越から若阿沙利山  
 (比良を歩く56)  
 3月25日(日) 晴れ  
 (集合) JR近江高島駅9・00―  
 03(バス) 鹿ヶ瀬道9・40―浄願  
 寺9・50―林道登山口10・10―15  
 ―鶴川越10・45―50―若阿沙利山  
 11・10―13―八王子11・23(昼食)  
 12・00―鳥越峠12・30―オーム岩  
 12・38―45―岳山13・20―展望台  
 13・35―45―岳観音堂跡13・57―



白坂14・15〜20 原瀬分岐14・32  
原瀬14・36〜43 蛭谷溜14・55  
大炊神社15・05〜25 近江高島  
15・35 (解散)

当日朝発表の気象情報が悪かつたせいかキャンセル(無断キャンセル含む)が多く、参加者は少なかった。仏岩、オーム岩からの展望はダメだったが、少人数の機動性を生かして、予定コースになかった白坂の砂山に登ったり、原瀬・蛭谷溜と二つのきれいな池に立ち寄り、水面を滑走する水鳥を見物しての楽しい山行になった。

(参加者) 前田初雄 武部美英子 本間 隆 萩野暢子 ○大東 哲 ◎桑 康夫 (計6名)

湖北・伊吹野散策 (花巡り山行38)  
3月27日(日) ◎田中 明  
\*想定外の花暦の早さ。お目当ての花々が終わっていたため、中止しました。

氷室北尾根のガラノ坂 (北山ちよと歩き87)  
3月28日(日) 晴れ  
(集合) 京阪出町橋駅8・30 (バス) 北大路駅8・43 (バス) 白梅

橋9・20〜30 持越峠9・55〜10・00 白木谷山10・30〜40 林道終点11・20 水宮12・20 (解散) 13・10 城山13・40 秋葉山14・20 30 舟山(舟型大池) 14・53 15・08 西野茂車庫15・35 (解散)

持越峠からの氷室北尾根の往年の尾根道は、開発された林道により所どころ切断されてはいたが、ほとんど健在。開花の始まったタムシバを始め芽吹き始めた雑木のなかを米室に出た。氷室からは眺望の悪くない秋葉山から舟山に出る、京都市街のすばらしい展望を楽しんだ。

小田潤子 榎 照司 榎 美栄子 馬龍忠男 上西信子 田中 明 大林 進 磯部 純 加藤元彦 平田和子 岩城豊子 横江 進 中島 隆 金森節子 栗栖君子 宮本真幸 宮崎正 原 みとえ 神 伸 奥山繁三 智恵子 川上久堅 萩野暢子 松上美代子 上野保美 平田輝美 横川ゆり子 野村 深 河内正治 宮路へ子 今泉 勲 中川光郎 宮路聖希子 宮西初子 武村千鶴 小島フジ子 加藤和計 大園のり 友田美穂子 竹田美英 井上聡美 井上由紀晴

塩見剛也 平 幸子 戸田サユミ 田中順子 後藤純子 今村あやの 伊丹野子 森 和久 ◎金谷 昭 (計53名)

白山・野伏ヶ岳(展望の山28)  
3月31日(日) くもりのち雨(曇風)  
(集合) JR西岐阜駅6・50 / 岐阜羽鳥駅7・05 (車) 石徹石・白山中居神社下車8・55 9・05 1和山山牧場跡10・35 1ダイレック 1和山山牧場跡11・00 (集合) 11・45 1野伏ヶ岳12・40 150ダイレック 1尾根13・55 1車止14・30 15・50 (車) 西岐阜駅17・50 (解散) 大勢(45人位)が入っていた。下りてきた人から山頂は強風と聞いた。九合目付近から風が強くなり、山頂は強風で枯固って坐っていた。雪が積まって歩きやすく、尻セードもできて、速い時間で往復できた。

(参加者) 竹内正子 長坂佐知子 朝倉松雄 鳥居信吾 伊藤美恵子 吉村 昭 久米孝子 北村つねみ 神 伸 稲垣啓子 池田恵美子 佐々木輝子 佐々木トシ子 村田はる江 山田妙子 ◎山田明男 (計16名)

美濃・小島山からムネ山 (自然観察山行229)  
3月31日(日) くもり  
(集合) JR大垣駅9・00 (レンタカー) 櫻村バス停近9・50 1林道登山口10・05 1付82鉄塔11・15 120小島山11・50 (集合) 12・40 1ムネ山13・15 1林道終点14・00 1櫻村バス停近15・00 (レンタカー) 池田温泉16・30 (入浴) 17・15 (レンタカー) 大垣駅17・40 (解散)

本コースは過去に一回中止。三度目の正直でやっと実現し、ムネ山に登った。終日どんよりとした空だったが、雨は免れた。驚いたことと対面する池田山のヤマザクラがすでに満開だった。

(参加者) 山形 明 市井ユリエ 伊藤 直 伊藤和代 萩野美紀恵 佐々木三子代 中澤真司 博 森 美香子 ○田中善雄 ◎警員守康 (計10名)

近江展望台11・20 南巻岳11・30 南巻池北側11・40 (集合) 12・30 1雲仙山13・20 1峰塚山13・40 1お虎ヶ池14・10 1見晴台14・45 1落合15・40 1甲津倉広場16・20 (解散)

あけん原から急登の尾根を登り、行者の森から笹峠へ。西南尾根は大勢の人で花盛り。南巻池の福寿草の花園で美しく花見宴。昼からも新池経由の福寿草コースを歩く。黄砂で展望は無かったが、花弁の鮮やかなイエローが目にと焼きつき、満足の黄色デーとなった。

(参加者) 有兼 登 武村千鶴 磯部 純 小林 修 落合ひろ子 稲津謙治 白木良弘 白木やす子 村田紀生 山内玄次 奥野太一郎 水戸鉄治 炭田明美 森村 守 萩野暢子 北村 隆 石田真由美 谷 守 一芝義雄 一芝美知子 奥田貞雄 ◎後藤康幸 ○山田賢三 ◎岩野 明 (計27名)

山南端11・55 (集合) 12・50 1鴨峰13・15 15 1大原山13・45 1鳴川13・55 1千光寺14・55 15・00 1近鉄元山上駅15・55 (解散) 00 1近鉄元山上駅15・55 (解散)

牧園公園の桜が満開で出迎えてくれた。生駒山の大阪側とコンパスがなりきつて。地形図とコンパスワークの勉強をしながら、春爛漫の山歩きを楽しんだ。

(参加者) 和純子 大園加代子 太田裕幸 馬場静和 矢田万里子 矢野 克 岡田頼子 若木いすゞ 徳田三恵子 上田千枝子 ◎塚元一彦 (計13名)

立雲峯の「観桜の森」から歩き始めた。名残りに染まる朝来山へ登った。展望台で南信馬と奥播磨の山々を眺め、春めいた「愛宕の森」を抜けて山をくだった。

(参加者) 高松裕子 安田文美江 平田輝美 栗栖君子 道平まわみ 仲谷礼司 木村 修 小栗大直 奥田則夫 加藤浩二 中尾美智子 岡崎知子 宮西和子 伊東ナナ子 小田潤子 長沢佑美 成川みさお 岩城豊子 志水明美 野末あや子 本間明恵 中谷幸子 南ミヤ子 上住忠雄 岡 伸弘 岡 菊江 山下恒三 夏山春子 宮路つへ子 ◎松井明忠 ◎西條良彦 (計38名) ◎木村太郎 (計38名)

湖北・音波山 (集合) JR京都駅7・30 (バス) 木ノ本インナー8・52 (バス) 栃の木峠9・20 130 14等三角点 (パラポランテナ) 10・31 140 1鉄塔378号11・00 1葛原山11・

50 (集合) 13・00 1鉄塔378号 13・45 155 14等(パラポランテナ) 14・22 130 1橋の木峠15・23 135 (バス) 京都駅17・40 (解散)

破線のやぶは以前とあまり変わらなかった。三角点の周囲は刈り払いてあり、東方の上谷山が白く印象に残った。ブナ林のなかで昼食後、往路を引き返した。

(参加者) 森本幹雄 多賀久子 若林文夫 仲谷礼司 野末あや子 栗栖聖吉 小尾末吉 森 美香子 和田暢子 小松志信 村田はる江 松見 昭 村井寿和 市井ユリエ 小池一郎 首藤育子 中澤真司 博 大東 哲 岩崎健司 川上久堅 山形 明 ◎磯野重治 ◎森脇真義 (計23名)



タ14・55 関原駅15・30(解放)  
雄岳山頂の大津原子の墓所を見て、雌岳の核の下で寝食にした。グイトレを六虫峠にくだつてから奇岩帯の電線峰へ行き、全く異様な岩場風景を見た。

(参加者) 有兼 登 久保田玲子  
古山幸男 内田昭彦 伊東ナナ子  
遠藤 半 山高義治 山高多恵子  
宮野哲郎 宮野敏子 宮路ちへ子  
松田和恵 桜庭 栄 安田文美子  
水島律子 夏山春子 武部美美子  
佐野信江 川田洋子 都築由美子  
市岡明美 柴村敏子 渡辺秀美江  
馬龍忠男 ○呉比裕美

◎安倉正勝 ◎村田智俊(計27名)

京都西山・小塩山  
(ファミリーハイク102)  
4月15日(日) 晴れ  
(集合) 阪急東町駅9・40・46  
(バス) 南春日町バス停10・00・  
05→官理道合10・40→45→池の  
谷11・25→35→N.T.T.の谷12・00  
→10→小塩山NHK中継所12・25  
(昼食) 13・05→南の谷13・45→  
55→森林公園の案内所14・20→  
40→三好寺15・35→50→善峰寺バ  
ス停16・05→36(解放)  
カタクリ群生地白花カタクリ

の関代、ギフチョウの交尾に出会  
えた。南の谷にはニンソウやエ  
ンレイソウも群落していた。  
(参加者) 本家洗子 久保田玲子  
繁田広美 本間明恵 伊東ナナ子  
福本愛子 柳川常雄 中澤ちづ子  
横江 進 巻田 晃 前田初雄  
夏山春子 松山みつ 成川みさお  
本間響子 市野博文 小坂さゆり  
林 信男 中川節子 柴村敏子  
川上久堅 青木 一雄 長沢佑美  
妹尾正一 福原 章 野末あや子  
中谷幸子 竹田善英 ○松井明忠  
○西條良彦 ◎木村太郎(計31名)

◎西條良彦 ◎木村太郎(計31名)

打見山・蓬萊山・権現山  
(比良を歩く57)  
4月15日(日) 晴れ  
(集合) JR志賀駅9・02(バス)  
びわ湖パレの(ゴンドラ) 打見  
山9・50→蓬萊山10・10→20小  
女郎ヶ池10・45→50→ホック山11・  
15→30→水分社分社11・45(昼  
食) 12・30→権現山12・36→40→  
スゴパン13・05→15→雲山山13・  
40→50→妙道会教団境界14・30→  
45→妙道会教団バス停14・55(解  
散)  
昼食時の地震にはびっくりした。  
山の上で地震に遭つたのは初めて

青木 一雄 小林 桂 柳家洋子  
中川節子 岩城豊子 兼田幸子  
中村英雄 中岡昌子 中原真穂子  
澤田高治 今泉 勲 西尾了子  
後藤敏子 萩野暢子 谷 守  
中谷幸子 武田元可 今村あやの  
竹田善英 石原君子 光川二葉子  
○小松志信 ○村井寿和  
◎長尾一合 ◎神谷社司(計22名)

◎神谷社司(計22名)

室生・屏風岩から国見山  
4月20日(日) 晴れ  
(集合) 近江国原神宮前駅8・05  
→10(バス) 屏風岩公園9・50→  
尾根取付10・10→1ノ峰10・30→  
住家山11・05→国見山12・10(昼  
食) 12・45→松ノ山13・00→クマ  
タワ13・20→南松の流14・30→宇  
野川橋15・30(バス) 国原神宮前  
駅17・30(解放)

期待していた後には少し早かっ  
たが、国見山からの展望はすばら  
しく楽しめた。絶好の登山日和となり  
一日充実した。おこせた。  
(参加者) 栗橋君子 志水明美  
長沢佑美 里見輝生 中尾美智子  
堀江房勝 上田久子 飯田二郎  
須藤孝子 岩佐 修 久保田玲子  
須藤孝子 川佐 融 古山 幸男  
内田昭彦 西殿辰夫 大林 進

大石吉彦 山西 治 夏山春子  
稱 照子 友田 毅 友田美咲子  
山根弘美 ○木村 豊  
◎前川和博子 ○西上利和  
(計27名)

◎前川和博子 ○西上利和(計27名)

美濃・舟伏山  
(自然観察山行230)  
4月21日(出) くもり  
(集合) JR大垣駅9・00(バス)  
あいの森駐車場10・50→11・00→  
さくら峠11・45→55→あいの森12・  
20→30→舟伏山13・20(昼食) 13・  
50→小舟伏あいの森駐車場15・  
35→45(バス) 大野温泉17・25  
(入浴) 18・00(バス) 大垣駅18・  
25(解放)  
イワザクラが満開。この時期舟  
伏山にまだ華やかさはないものの、  
スプリング・エフェメラルたちは  
ぼちぼちと目覚め、スミレ類は春  
を告げていた。

(参加者) 伊藤 直 伊藤和代  
朝倉松雄 伊藤明男 萩野美紀重  
岡本佳子 小栗大直 菅 キヤウ  
金森節子 川島勝美 瀬戸内伸子  
栗橋善吉 佐々木三武代  
栗原英子 竹田善英 三藤由美子  
平田明美 堀田響子 村岡雄志郎  
牧 和夫 山形 明 和田穂子

だ。雲仙山への登りでは、斜面いっ  
ぱいに咲くイワウチワの群落が見  
事だった。下りでは、可憐なカタ  
クリ、蕾がもうすぐ開きそうなイ  
ワカガミも見られた。  
(参加者) 馬龍忠男 松上英代子  
下藤正年 山口充代 平田和子  
大川直澄 山口昌則 市井ユリエ  
児島孝子 奥田貞雄 小林 修  
岩城豊子 妹尾公代 稲津謙治  
○本間 隆 ◎秦 康夫(計16名)

◎本間 隆 ◎秦 康夫(計16名)

京都西山・小塩山  
(花巡り山行39)  
4月17日(日) くもり  
(集合) 阪急桂駅8・26(バス)  
峠西口9・00→15→鶴ノ子林道終  
点10・30→35→谷筋→1ノ谷分岐  
11・45(昼食) 12・15→カタクリ  
地12・50→カタクリ地13・05→カ  
タクリ地13・15→小塩山13・20→  
カタクリ地13・35→カタクリ地14・  
05→大岩山14・35→45→カタクリ  
地14・50→西山ランド15・15→  
展望台15・25→35→下山口15・50  
→洛西高橋前バス停16・20(バス)  
阪急桂駅16・40(解放)  
鶴ノ子林道、谷筋の山野草を存  
分に楽しんだ後、お目当てのカタ  
クリ地も六ヶ所予定通り廻った。

◎神谷社司 ◎鷺見守康(計24名)

志摩・横山(三重の山5)  
4月21日(出) 晴れ  
(集合) 近鉄志摩横山駅10・45→  
横山ビシターセンター11・10→第  
一展望台11・30→45→第二展望台  
→第三展望台→横山12・20→30→  
第三展望台12・50(昼食) 13・25  
→第一展望台13・40→横山ビシター  
センター13・55→14・15→志摩横  
山駅14・45(解放)  
英嶺の絶景を満喫しながらの  
ルンルンの尾根歩き。リキユウバ  
イ・ウバメガン・ムベ・クロバイ  
等の花に出会えたのもよかった。  
(参加者) 亀井悦子 石田真由美  
岩城豊子 中森義信 岡本善子  
川村政和 稲垣重美子  
◎稲垣逸夫 (計8名)

湖北・文堂山  
4月21日(出) くもり  
(集合) JR近江塩津駅9・55→  
登山口10・05→第一鉄塔10・25→  
第二鉄塔11・00→文堂山11・50  
(昼食) 13・15→登山口14・40→  
近江塩津駅14・50(解放)  
道標のワラビ・タラノメ採りで  
ゆっくりに歩くと、余白湖を目前に頂

白花カタクリの妖精ととも目いっ  
ぱい戯れた。  
(参加者) 平田輝美 木村 豊  
志水明美 小栗大直 道平さきわみ  
上山正二 栗橋君子 中川光郎  
宮西和子 ○堀江房勝  
◎田中 明 (計11名)

◎田中 明(計11名)

京都東山・鏡山から大文字山  
(火曜ハイク31)  
4月17日(日) 晴れ  
(集合) JR・京阪山科駅9・30  
→安楽池展望台10・00→鏡山10・  
30→P236山11・05→P298  
山11・40(昼食) 12・30→大文字  
山13・20→火床頭部13・35→中尾  
城跡15・00→銀閣寺15・20(解放)  
天気に恵まれた里山の山歩きは  
最高である。夕べの大雨を全部吸  
いとった道は歩きやすく、時々開  
ける山科・京都市内の大展望に目  
を見張る。大文字山からの帰路上  
に中尾城があったという山に寄り道  
をして解放する。  
(参加者) 堀田響子 船越みよ子  
山岸勝雄 大林 進 大川三恵子  
和田穂子 金谷 昭 田中三恵子  
夏山春子 川上久堅 小川富士雄  
本間 隆 宮本真幸 瀬戸内伸子  
市野博文 西尾久枝 和田直樹

上でのランチタイムは小人数で盛  
り上がり長引いた。  
(参加者) 神野孝允 森 美香子  
國近正男 石原君子 南 智恵子  
水谷美子 宮戸喜久江  
光川二葉子 ◎高島伸浩(計9名)

伊勢路②

◎加田から三浦峠・始神峠  
◎松下から馬越峠・八鬼山越  
◎紀伊山地の参詣道を歩く13  
4月21日(出) 22日(日) 1泊2日  
(集合) 近鉄大和  
(21日) 晴れ (集合) 近鉄大和  
八木駅8・00(バス) 二石峠11・  
30→一石峠11・50→平方峠12・00  
(昼食) 12・30→古里展望台13・  
30→三浦峠13・50→野瀬峠14・  
40→50→始神峠口広場15・00→始  
神峠15・40→江戸道→馬瀬峠始神  
峠口展望台16・00(バス) 古里温泉  
16・15(入浴) 17・00(バス) 民  
宿「イワナの里」17・30(泊)

(22日) 晴れ 民宿8・00(バス)  
馬越峠口8・20→林道交差点9・  
00→10→馬越峠9・20→天狗倉山  
9・50→10→馬越峠10・20→  
30→馬越公園10・50(バス) 八鬼  
山越越展望台11・20→七曲り→椋茶  
屋一里塚12・40→九木峠13・00→  
三石峠展望台13・10→八鬼山越13・



20 (集合) 13・50ーさくらの森エ  
リア展望広場14・00ー江戸道十  
五郎茶屋跡14・45ー55名柄一里  
塚15・20ー40(バス) 天理駅19・  
15(解散)

1日目(夜)、二石峰・平方峰・三  
浦峰・始神峰を歩き、2日目に馬  
越峰から天狗倉山へ往復し、岩場  
からの展望を楽しんだ。その後八  
鬼山越の美しい石畳道を歩いた。  
八鬼山越では世界遺産登録に反対  
する落書きが岩や樹に多くあり、  
せつかくの古道歩きの雰囲気が出  
せるほどである。「イワナの里」  
では元気のつく名水を飲んで楽し  
く歩けた。

(参加者) 多賀久子 武部美美子  
高橋舞治 白田忠子 野末あや子  
岡崎知子 馬籠忠男 村田はる江  
上西信子 中川節子 伊東ナナ子  
中川光郎 片山克博 片山喜代子  
船本裕巳子 ○呉比裕美  
◎安倉止勝 ◎村田智俊(計18名)

高聖山からザラノ

(鈴鹿を歩く262)

4月22日(日) ◎岩野 明

\*雨天のため中止しました。

高見山地

中断したコースを再行した。東尾  
根はやぶも無く、やや尾根筋の入  
り組んだコースだが、妻谷峠まで  
1時間20分で行けた。寺谷へくだ  
る道を誤ったのか途中で道形が消  
え、杉林のなかをジグザグを切っ  
て下りた。交流の森コースは中止  
し、汗を流して帰った。

(参加者) 森本幹雄 中嶋日出男  
若林文夫 狩野重彦 武部美美子  
小栗大直 今津吉司 大岡加代子  
小尾末吉 東中次夫 野末あや子  
繁田広美 山崎義治 山高多恵子  
岩本彩子 竹内正子 村田はる江  
川俣 勲 西田俊治 伊東ナナ子  
緒方由子 志水明美 久保田瑠子  
青木一雄 大槻一夫 船本裕巳子  
太田欽弥 太田広子 前田初雄  
林 弘毅 黒河内東洋明  
小川明美 福岡 章 ○安倉止勝  
◎村田智俊 (計35名)

台高・馬ノ鞍峰から大台ヶ原

(テント山行)

5月3日(日) 5日(祝) 2泊3日  
(3日 晴れ) (集合) 近鉄大和  
上市駅9・00(タクシー) 明神出  
合10・10ー30 明神池11・30ー40  
一カクシ平12・15ー30 稜鏡13・  
00(集合) 13・30ー馬ノ鞍峰14・

栗ノ木岳から三峰山縦走  
4月24日(祝) ◎田中賢治  
\*都合で中止しました。

伊賀谷山から八丁平  
(北山ちよつと歩き88)

4月25日(祝) ◎金谷 昭  
\*雨天のため中止しました。

白山・茨ヶ岳と檜新宮道

(展望の山29)  
(\*予定を変更して、一日延ばし  
て実施した)

4月28日(日) 夜30日(祝)  
夜発2泊3日

(集合) J R 関ヶ原駅19・  
00(車) 一里野温泉・宿21・45

(29日 晴れ) 宿3・40ー中宮展  
示館3・55ー冬瓜山7・35ーシリ  
タカ山8・05ー茨ヶ岳9・40ー10・  
15ーシリタカ山11・15ー冬瓜山12・  
00ー野嶺公園14・45 中宮展望館  
15・45ー宿16・00(時間先行組・

30日 晴れ) 宿7・40(車) 岩  
間道ゲート7・55ーハラライ谷登山  
口8・15ー檜新宮11・00(昼食)  
11・30ー登山口13・00ーブナオ山  
観察舎13・20ー14・00ー中宮温泉

30ー40ー地池越キャンプ地17・00  
(泊)

(4日 晴れ) 地池越7・15ー山  
ノ神の頭9・00ー15ー湖谷の頭10・  
00ーブナキャンプ地11・30(昼  
食) 12・40ー父ヶ谷の高13・30ー  
杉ヶ高15・30ー板子辻キャンプ地  
16・50(泊)

(5日 晴れ) 板子辻6・15ー引  
水サコ7・40ー8・00ー御膳町8・  
35ー45ー藁谷山9・30ー大台山11・  
00(昼食) 11・40ー金明水12・30  
ー45ー川上辻14・00ー大台ヶ原駐  
車場14・25ー15・15(バス・車内  
解散) 大和上市駅17・00

馬ノ鞍峰から大台ヶ原は大小の  
ピークを何度も越え、テント泊の  
重装備では厳しいコースだった。  
休憩を多くとり、新緑の原生林と  
美しく咲くアケボノツツジ・ミツ  
バツジを見ながら歩いた。キャ  
ンプ地には水場もあって他人も少  
なく快適なテント泊で一夜を過ご  
した。

(参加者) 大石吉彦 有兼 登  
西原政夫 沖 伸 井沢重正  
三井敏一 宮野哲郎 多賀久子  
多賀久子 ○呉比裕美 (計11名)  
◎村田智俊

センター(入浴) 15・00(車) 米

原駅17・55/大垣駅18・45(解散)

快晴の天候で茨ヶ岳にも時間は  
かけたが全員登頂できた。多くの  
団体が来ていて60〜70人をはっ  
いた。29日はカタクリを堪能し、  
檜新宮に参拝、三方岩岳から茨ヶ  
岳・大笠山から奥三万岳までの大  
展望を楽しんだ。ブナオ山観察舎  
では熊が三頭も見られた。

(参加者) 吉田峰子 長坂佐知子  
久米孝子 朝倉裕雄 中澤賢治博  
真島 和 真島知恵 森 美香子  
林 正義 島居信吾 萩野暢子  
山縣勝美 沖 伸 ○高原芳彦  
○山田明男 ○三井敏一

◎山田明男  
(30日) 鈴木 浩 鈴木友子  
(計19名)

湖西・マキノから大谷山  
(平日ふれあいハイク62)

4月28日(日) くもり  
(集合) J R 京都駅7・30(バス  
マキノ石碓9・20ー30ー大谷山12・  
15(集合) 13・00ームキノ峰13・  
30ーマキノスキー場15・40ー55  
(バス) 京都駅17・30(解散)  
イワカガミ・イワウチワ・イカ  
リンウ・カタクリ・カタバミなど

奥美濃・御前岳と火山  
(展望の山30)

(\*暖冬で雪が少ないので、5月  
4日初めに実施した)

4月7日(日) 8日(日) 1泊2日  
(7日 くもりのち雨) (集合)  
J R 西岐阜駅6・50/岐阜羽鳥駅  
7・05(車) せせらぎ街道西ウレ  
峠北9・20ー30ー林道終点10・15  
ー火山11・00ー傘山への尾根途中  
12・00(昼食) 12・25ー傘山13・  
40ー往路・林道終点14・35ー50  
(車) 温泉(入浴・車) 宿17・30  
(泊)

(8日 晴れ) 宿5・30(車) な  
お谷林道駐車地5・40ー林道終点  
7・30ーP1835ー10・35ー御  
前岳11・35(昼食) 12・05ー林道  
終点14・40ー駐車地16・00(車)  
西岐阜駅18・30(解散)

火山から傘山の稜線は美濃の普  
通のやぶで、体験としてはよかつ  
た。御前岳は昨年5月14日よりも  
雪があり順調に登頂できたし、  
山頂でまたまた新ハイの氏夫婦、  
に出会った。大垣は養老峠から入っ  
て、栗ヶ岳から縦走してこられた。  
(参加者) 朝倉裕雄 長坂佐知子  
三井敏一 堀 寿江 北村つねみ

花多く春の山は楽しい。大谷山は  
寒く風が強くゆっくりできなかった  
たのが残念。スキー場の下りの  
途中で大休をとって、コーヒール  
沸かし干の風になって、涙そうそ  
うな歌いしました。

(参加者) 妹尾一正 和田直樹  
塚本忠次 中村英雄 野末あや子  
堀江房徳 榎 照司 木村 豊  
井上恭子 山根弘美 山盛加奈子  
長沢佑美 中川節子 船本裕巳子  
本間 隆 本間繁子 繁田広美  
栗橋崇吉 栗橋君子 ○川上久堅  
◎寺井恒夫 (計21名)

京都北山・桑谷山から寺谷峰  
(やぶ漕ぎ山行5)

4月29日(日) 晴れ  
(集合) J R 京都駅7・40(バス  
能見口長戸谷林道入口9・35ー45  
ー作業道取付9・50ー西尾根伐採  
尾根10・20ー西尾根1桑谷山11・  
30ー40ー東峰下の鉄塔11・50(昼  
食) 12・40ー東尾根1寺谷峠14・  
00ー15ー寺谷林道14・35ーナメラ  
谷出合15・10ー20ー峰定寺15・45  
(バス) 花井交流の森センター16・  
00(入浴) 17・00(バス) 京都駅  
18・50(解散)  
昨年9月東峰で大雨に降られ、

佐藤文枝 緒方由子 横田とも子  
萩野暢子 山田妙子 ◎山田明男  
(7日) 山形 明 (計12名)  
(3・4月の参加 延840名)

松田敏男 山の版画展

2007/7/17(水)~29(日) 12:00AM~8:00PM  
[7/23(日) 休館]

今回は、尾瀬ヶ原をはじめとした各地の山々の渾身原景、  
またテント泊で味わう夜から朝にかけての山の趣き、などの  
新作が中心。

平安画廊  
京都市中京区寺町通三条上ル  
TEL. (075) 231-0694





## 新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/B6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄  
/富田弘平/松本 浩 共著  
3刷発売中/B6判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/  
松本 浩 共著  
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編  
B6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄  
/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著  
B6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 **山岳巡礼** 佐藤光雄 著  
B6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 **東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ペンクラブ 著  
A5判232頁/定価1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編  
A5判219頁/定価1680円 山と花を愛する100人が綴った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著  
B5判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこことば々々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル  
電話/Fax 03-3915-8110 振替00130-9-146915  
●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

### 新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動してまいりました。関西は平成3年秋発足で16年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会費には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。

四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金 5000円(ワッペン共年会費 3000円(送料共))

入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号随実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1回「山行例会」の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号5275番から5295番まで(敬称略)。

【東京】 江島利雄 江島カン子  
加藤貞佐子

【滋賀】 千田輝雄 寺井博子

【京都】 東 明美 久保田 敏  
多田 徳 今村あやの  
渡部百合江

【大阪】 村田洋子  
佐藤昭紀 山本紀信  
松本慶子 馬場静和  
菅野公恵

【兵庫】 松岡郭史 北川 誠  
蛭田政信 宮崎靖久  
宮崎由美子 (21名)

○訂正とお詫び  
94号(初夏)に誤記が多くありました。訂正してお詫びします。

○9ページ目次6行目「綱本遊遊」は「綱本遊遊」。

○17ページ目次16行目「本瓦」は「本瓦」。

○18ページ目次6行目「鬼無里の櫻花」は「鬼無里の奥櫻花」。

○32ページ目次最終行「泰康夫」は「泰康夫」。

○35ページ目下段9行目「クマザサ」は「クマザサ」同10行目「難苦」は「難苦(かんく)」。

○44ページ目下段20行目「生活」は「生活」。

○47ページ目下段25行目「電ヶ岳」は「電ヶ岳」。

○75ページ目上段付近路図中、「東山71」は「東山72」。①コースは本坂道でなく、大宮谷林道で、②コースは本橋からの八王子坂コース。なお、雲母坂道の展望所は山頂の駐車場と一体化されているが、実際は徒歩10分ほどと離れており、標高差で40mほど高い位置にある。本文の展望所(土道・ベンチあり)は、雲母坂に接する展望所(北山トレイル④)である。

○81ページ目下段3行目「宿木之古墳」は「宿木之古墳」。

○98ページ目下段13行目「鈴鹿を歩く263」は「265」。

○112ページ目下段5行目「大板風山」は「大板風山」。

書店でお求めになりたい方へ  
前もって「新ハイキング」の購読予約をされますと、どこかの書店でもお買い求めできます。